

令和4年度 第3回

八王子市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会

次第

令和5年(2023年)2月13日(月)

午後3時00分～5時00分

八王子市役所議会棟4階 全員協議会室

1 開会

2 議題

- (1) 八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会における副会長の選任について
- (2) 「新たな地域福祉計画策定に伴う意識調査」の調査結果について
- (3) 第4期八王子市地域福祉計画の方向性について

3 事務局より報告

- (1) はちまるサポート館(たて)の開設について
- (2) その他

4 閉会

【配付資料】

- ・ 第3期 八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会委員名簿(R5.1.1時点)
- 【資料1-1】新たな地域福祉計画策定に伴う意識調査 調査報告書(案)
- 【資料1-2】意識調査の結果からみる八王子市の現状と課題
- 【資料2-1】第4期八王子市地域福祉計画の方向性について
- 【資料2-2】第3期計画における目標・活動指標の状況
- 【資料2-3】意識調査における複合課題の状況
- 【資料2-4】第4期地域福祉計画にかかる基本理念(基本目標)について
- 【資料3-1】はちまるサポート館(たて)開設チラシ

八王子市
新たな地域福祉計画策定に伴う意識調査
調査報告書（案）

令和4年度

令和5年2月

八王子市



もくじ

調査概要	1
1 調査目的	3
2 調査設計	3
3 調査内容	3
4 回収結果	3
5 報告書の見方	4
調査結果概要	5
1 あなたご自身のことについて	7
2 地域での暮らしについて	7
3 地域活動への参加について	9
4 地域防災について	10
5 市の福祉施策や制度、サービスについて	10
調査結果	13
1 あなたご自身のことについて	15
(1) 回答状況	15
(2) 年齢	16
(3) 居住年数	16
(4) 居住地域	17
(5) 同居者	20
(6) 住まいの種類	21
(7) 職業	22
(8) 世帯年収	23
2 地域での暮らしについて	24
(1) 暮らしの満足度	24
(2) 生活状況	26
(3) 日頃の隣近所とのつきあい方	28
(4) 今後の隣近所とのつきあい方	31
(5) 新型コロナウイルスによりもっとも強く感じる影響	35
(6) 毎日の暮らしの中での悩みや不安	36
(7) 悩みや不安、困り事の相談先	38
(8) 近所で悩みや不安、困り事がある場合の相談先	39
(9) 住民相互の協力関係の必要性	40
(10) 地域で協力して取り組む必要があること	42

(11)住民相互の協力関係が必要ない理由.....	45
(12)誰もが安心して暮らしていくために必要なこと.....	46
3 地域活動への参加について.....	48
(1)地域活動への参加の有無.....	48
(2)地域活動で参加した団体.....	50
(3)地域活動で参加した活動.....	52
(4)地域活動に参加していない理由.....	54
(5)地域活動に参加したいと思う条件や内容.....	56
(6)今後の地域活動への参加.....	59
4 地域防災について.....	60
(1)大規模災害等の発生時に頼りにしている人.....	60
(2)災害時の避難場所.....	62
(3)避難時の行動計画.....	63
(4)緊急時に支援が必要な近所の人.....	64
5 市の福祉施策や制度、サービスについて.....	66
(1)福祉にかかわる制度や言葉の認知度.....	66
(2)福祉サービスや制度の仕組みのわかりやすさ.....	68
(3)福祉に関する講習や説明会への参加希望.....	69
(4)希望する福祉の情報の入手手段.....	70
(5)地域福祉を充実させるうえでの行政と住民の関係.....	72
(6)八王子まるごとサポートセンターの利用意向.....	75
(7)生活自立支援課の相談窓口の認知度.....	77
(8)生活困窮者に対して重要な取組.....	79
6 自由記述.....	81
(1)生活環境について.....	81
(2)地域活動について.....	82
(3)地域福祉について.....	83
(4)福祉サービスについて.....	84
(5)行政全般について.....	85
(6)情報について.....	86
(7)まちづくりについて.....	87
(8)安全・安心について.....	88
(9)その他.....	88
調査票.....	89

調査概要

1 調査目的

本調査は、市民の「地域福祉」に関する考えや意見を把握し、令和6年度からの新たな計画「第4期八王子市地域福祉計画」策定の基礎資料にするとともに、本市の地域福祉推進に有効活用することを目的として実施しました。

2 調査設計

- (1)調査対象:市内在住の18歳以上の市民
- (2)標本数:3,000人
- (3)抽出方法:住民基本台帳より無作為抽出
- (4)調査方法:郵送配布・回収
- (5)調査期間:令和4年10月28日(金)～令和4年11月14日(月)

3 調査内容

- (1)あなたご自身のことについて
- (2)地域での暮らしについて
- (3)地域活動への参加について
- (4)地域防災について
- (5)市の福祉施策や制度、サービスについて

4 回収結果

- (1)配布数:3,000人
- (2)有効回収数:1,205人(回答方法 紙:965人 Web:240人)
- (3)有効回収率:40.2%

5 報告書の見方

集計全般について

- ・回答は各質問の回答者数(n)を基数とした百分率(%)で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・本文や図表中の選択肢表記は、実際の調査票で使用した語句を短縮または簡略化している場合があります。
- ・本文の「前回の調査」とは、平成28年度に実施した同様のアンケート調査のことです。また、「これまでの調査」との比較として、平成23年度に実施した同様のアンケート調査の結果も掲載しています。

クロス集計について

- ・クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・今回のクロス集計においては、表側(左)側の項目(選択肢)を選択した人を回答者数(n)とし、これを基数として表頭(上)側の項目(選択肢)の割合を百分率(%)で示してあります。表側側の選択肢が無回答またはその他などの場合は表示しないことがあります。
- ・回答の傾向が異なる場合でも、回答者数が少ない場合などは言及しないことがあります。

調查結果概要

1 あなたご自身のことについて

調査内容	調査結果	頁
回答状況	これまでの調査用紙による回答に加え、Webでの回答ができるようにしました。 Webでの回答は19.9%で、年齢が低いほど回答が多く、30歳未満では半数がWebでの回答となっています。	15
年齢	「60歳以上」が52.9%を占めています。	16
居住年数	「20年以上」が69.0%を占めています。 年齢が高いほど居住年数が長くなっています。	16
同居者	「配偶者」が63.2%を占めており、次いで、「子ども」が39.8%となっています。「ひとり暮らし」との回答は15.9%でした。	20
住まいの種類	「持ち家」が73.9%を占めています。 30歳未満と30歳代では、「住まいを借りている」が約40%で他の年齢より多くなっています。	21

2 地域での暮らしについて

調査内容	調査結果	頁
暮らしの満足度	すべての項目で『満足』（かなり満足＋まあ満足）との回答が『不満』（かなり不満＋やや不満）を上回っています。 満足度（5段階評価した平均点）が高い順に、「総合的な暮らしやすさ」（3.56）、「隣近所などのおつきあい」（3.55）、「病院など医療機関の対応」（3.42）、「地域の防災体制」（3.31）などとなっています。	24
生活状況	「経済的に困窮している」と「移動手段が限られていて、外出が難しい」が7.6%となっています。 80歳以上では20.5%が「移動手段が限られていて、外出が難しい」と回答しています。	26
日頃の隣近所とのつきあい方	「会えばあいさつをかわす」が48.8%で最も多くなっています。 前回の調査と比較すると、「会えばあいさつをかわす」と「つきあいはほとんどない」が増加しています。 また、年齢が低いほど「つきあいはほとんどない」が多くなる傾向がみられます。	28

調査結果概要

調査内容	調査結果	頁
今後の隣近所とのつきあい方	<p>「会えばあいさつをかわしたい」が37.1%で最も多くなっています。前回の調査と比較すると、「会えばあいさつをかわしたい」と「つきあいはしたくない」が増加し、他の項目は減少しています。</p> <p>また、日頃の隣近所とのつきあい方と同様に、年齢が低いほど「つきあいはしたくない」が多くなる傾向がみられます。</p>	31
新型コロナウイルスによりもっとも強く感じる影響	<p>過半数が何らかの影響を感じており、「他人との関係の希薄化」が25.7%で最も多く、次いで「自粛要請等による心身への影響」が22.9%となっています。</p> <p>特に30歳代では70%以上が何らかの影響を感じており、「他人との関係の希薄化」と「失業等による生活困窮」が他の年齢より多くなっています。</p>	35
毎日の暮らしの中での悩みや不安	<p>「自分や家族の老後のこと」が57.1%で最も多く、以下「自分や家族の健康に関すること」が55.1%、「収入や生活費に関すること」が39.8%などとなっています。</p> <p>「収入や生活費に関すること」は年齢が低いほど多くなっており、30歳未満では68.6%を占めています。</p>	36
住民相互の協力関係の必要性	<p>「まあ必要だと思う」が55.9%で最も多く、次いで「かなり必要だと思う」が15.8%となっています。</p> <p>これまでの調査(過去2回)と比較すると、すべての調査において過半数が「まあ必要だと思う」と回答しています。一方で、「かなり必要だと思う」は減少を続けています。</p>	40
地域で協力して取り組む必要があること	<p>「高齢になっても安心して暮らせる環境づくり」が49.1%で最も多く、以下「地域の防犯体制づくり」が32.3%、「地域の防災体制づくり」が28.0%、「自治会・町内会やボランティアなどの地域活動」が25.3%などとなっています。</p> <p>年齢が高いほど「高齢になっても安心して暮らせる環境づくり」が多く、年齢が低いほど「地域の防犯体制づくり」が多くなる傾向がみられます。</p> <p>また、30歳代では「子どもが安心して暮らせる環境づくり」が61.8%を占めています。</p>	42
住民相互の協力関係が必要ない理由	<p>「個々の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題であるから」が45.0%で最も多く、以下「住民相互の協力関係にあまり期待していないから」が44.3%、「地域の問題や課題は、行政が全面的に対応すべきであるから」が32.1%などとなっています。</p> <p>前回の調査と比較すると、「地域の問題や課題は、行政が全面的に対応すべきであるから」が13.6ポイント増加しています。</p>	45

3 地域活動への参加について

調査内容	調査結果	頁
地域活動への参加の有無	52.4%が地域活動に参加したことがあると回答しています。 居住年数が5年未満では17.5%の参加にとどまっています。	48
地域活動で参加した団体	「町会・自治会」が80.3%で最も多く、次いで「学校、PTA、子供会等」が46.8%となっています。 前回の調査と比較すると、「町会・自治会」が5.8ポイント増加しています。	50
地域活動に参加していない理由	30歳未満では、「時間がないから」が最も多くなっています。 30歳代と50歳代、60歳代では、「機会がないから」が最も多くなっています。 40歳代では、「仕事が忙しくて余裕がないから」が最も多くなっています。 70歳代と80歳以上では、「自分の生活で精一杯だから」が最も多くなっています。	54
地域活動に参加したいと思う条件や内容	30歳未満と40歳代では「自由な時間に参加できる」が最も多くなっています。 50歳代では、「自由な時間に参加できる」に加えて「精神的な負担が少ない」が同率で最も多くなっています。 60歳代では、「役員や当番などが無い」が最も多くなっています。 30歳代と70歳代、80歳以上では、「身近な場所で活動できる」が最も多くなっています。	56
今後の地域活動への参加	「機会があれば参加したい」が50.8%で最も多く、次いで「あまり参加したくない」が21.3%となっています。 30歳未満では、「参加したくない」が17.4%で他の年齢より多くなっています。 80歳以上では、30.3%が「参加することができない」と回答しています。	59

4 地域防災について

調査内容	調査結果	頁
大規模災害等の発生時に頼りにしている人	「家族」が84.5%で最も多く、以下「友人・知人」が31.5%、「近所の人」が30.4%、「親戚」が27.4%などとなっています。 前回の調査と比較すると、全体的に割合が低くなっています。 なお、「いない」は4.1%となっています。	60
災害時の避難場所	「決まっている」が57.9%、「決まっていない」が40.7%となっています。	62
避難時の行動計画	「立てている」が28.2%、「立てていない」が69.6%となっています。	63
緊急時に支援が必要な近所の人	「知っている」が14.3%、「知らない」が82.7%となっています。	64

5 市の福祉施策や制度、サービスについて

調査内容	調査結果	頁
福祉にかかわる制度や言葉の認知度	「民生委員・児童委員」が58.6%で最も多く、以下「社会福祉協議会」が42.7%、「高齢者あんしん相談センター」が36.9%、「成年後見制度」が33.4%などとなっています。 前回の調査と比較すると、全体的に認知度が低くなっています。	66
福祉サービスや制度の仕組みのわかりやすさ	「かなりわかりにくい」が32.6%で最も多く、次いで「ややわかりにくい」が31.9%となっています。 前回の調査と比較すると、依然として半数以上がわかりにくい(かなりわかりにくい+ややわかりにくい)と回答しています。	68
希望する福祉の情報入手手段	「市の広報」が68.3%で最も多く、以下「市のホームページ」が39.4%、「回覧板」が25.1%、「新聞やテレビ、ラジオ」が19.2%などとなっています。 「市のホームページ」や「Twitter、Facebook、LINEなど」は、年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。 一方で、「回覧板」や「新聞やテレビ、ラジオ」、「社会福祉協議会だより」は、年齢が高いほど多くなる傾向がみられます。	70
八王子まるごとサポートセンターの利用意向	「わからない」が60.0%を占めており、「利用したい」は31.1%、「利用したいと思わない」は6.0%となっています。 年齢が高いほど「利用したい」が多くなる傾向がみられ、80歳以上では43.2%となっています。	75

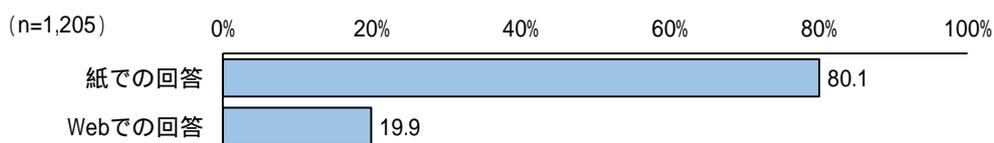
調査内容	調査結果	頁
生活自立支援課の相談窓口の認知度	<p>「知らなかった」が69.5%を占めており、次いで「知っているが、利用したことはない」が23.1%となっています。</p> <p>前回の調査と比較すると、「知らなかった」が29.1ポイント増加しています。</p>	77
生活困窮者に対して重要な取組	<p>「生活の安定(社会的・経済的自立)のための就労支援」が71.4%を占めており、以下「世帯の子どもの学習面・生活面の支援」が37.8%、「住居の確保のための家賃額を有期で支給」が34.9%、「家計を立て直すためのアドバイス(計画)」が34.6%、「一般就労に向けた基礎能力を習得する就労準備支援」が33.1%となっています。</p>	79

調查結果

1 あなたご自身のことについて

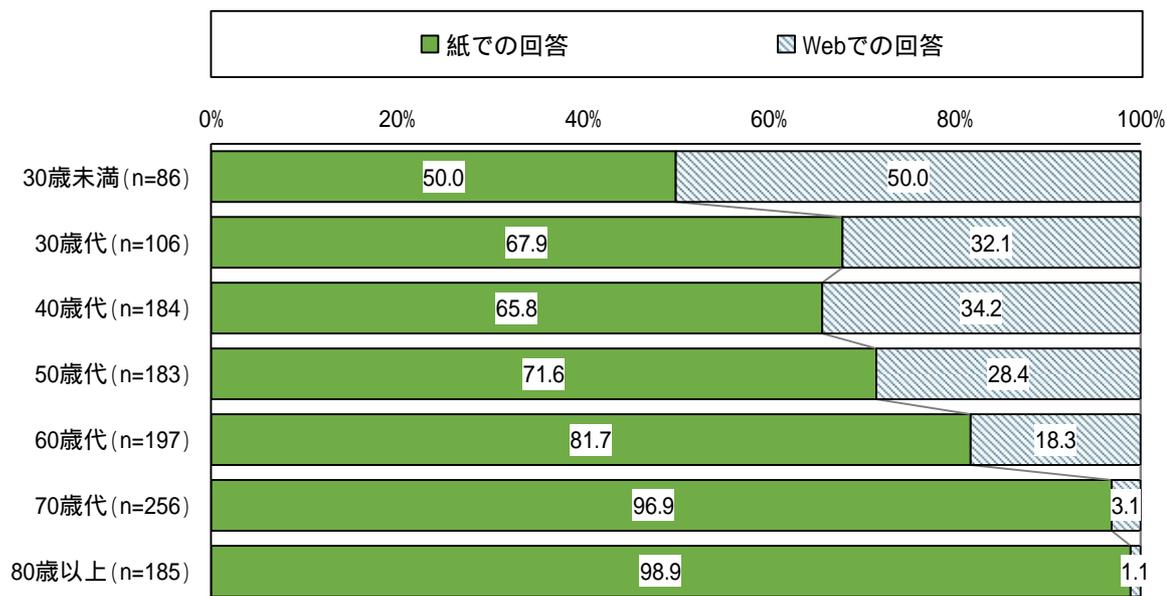
(1) 回答状況

本調査は、「紙での回答」が80.1%、「Webでの回答」が19.9%となっています。



年齢別 * 回答状況

年齢別にみると、年齢が低いほど「Webでの回答」が多く、30歳未満では50.0%となっています。一方、70歳代と80歳以上では90%以上が「紙での回答」となっています。

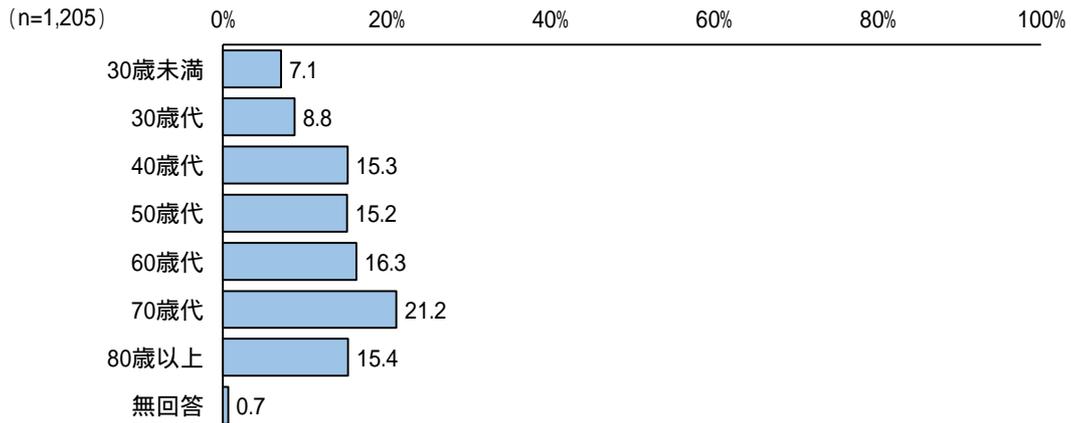


調査結果

(2) 年齢

問1 あなたの年齢はおいくつですか。(記入)

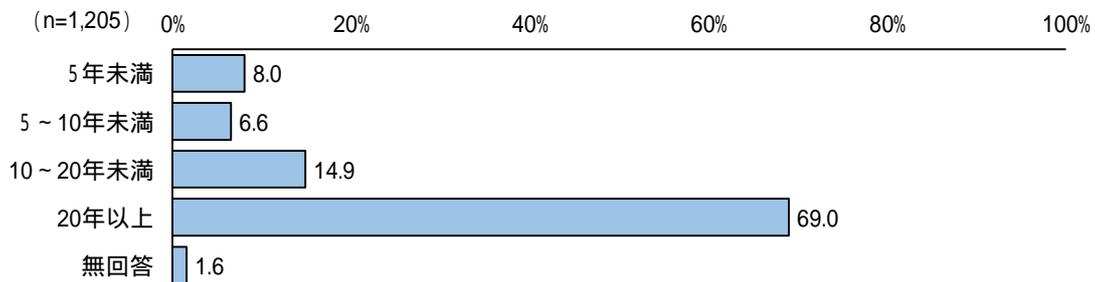
回答者の年齢は、「70歳代」が21.2%で最も多く、以下「60歳代」が16.3%、「80歳以上」が15.4%、「40歳代」が15.3%、「50歳代」が15.2%、「30歳代」が8.8%、「30歳未満」が7.1%となっています。



(3) 居住年数

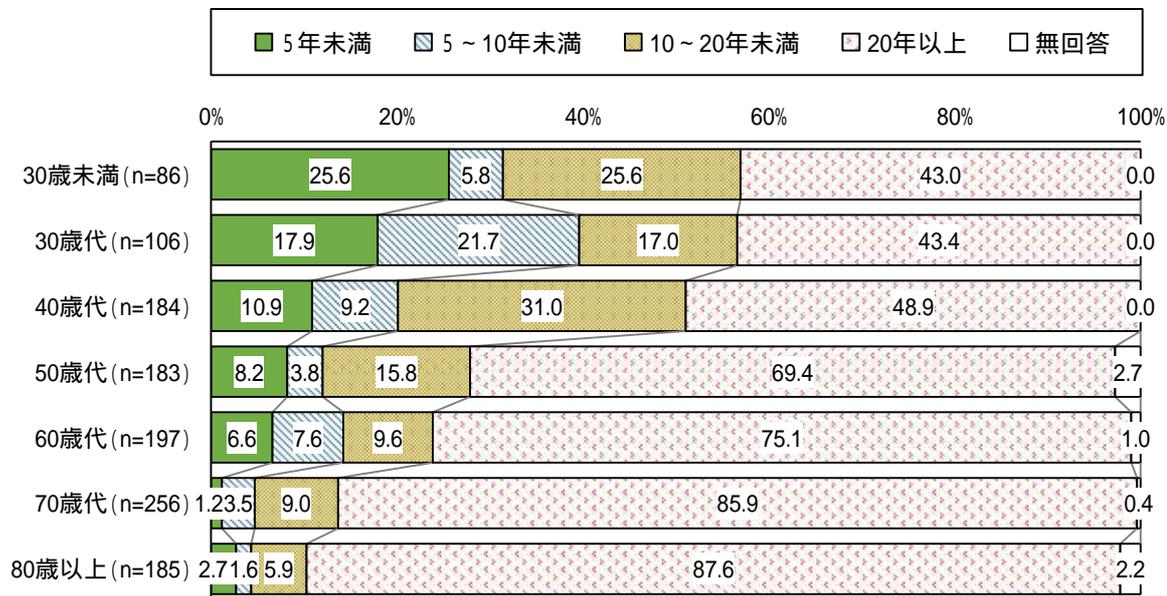
問2 あなたは八王子市に住まわれて何年ですか。(記入)

回答者の居住年数は、「20年以上」が69.0%で最も多く、以下「10～20年未満」が14.9%、「5年未満」が8.0%、「5～10年未満」が6.6%となっています。



年齢別 * 居住年数

年齢別にみると、年齢が高いほど居住年数が長くなっていることがわかります。

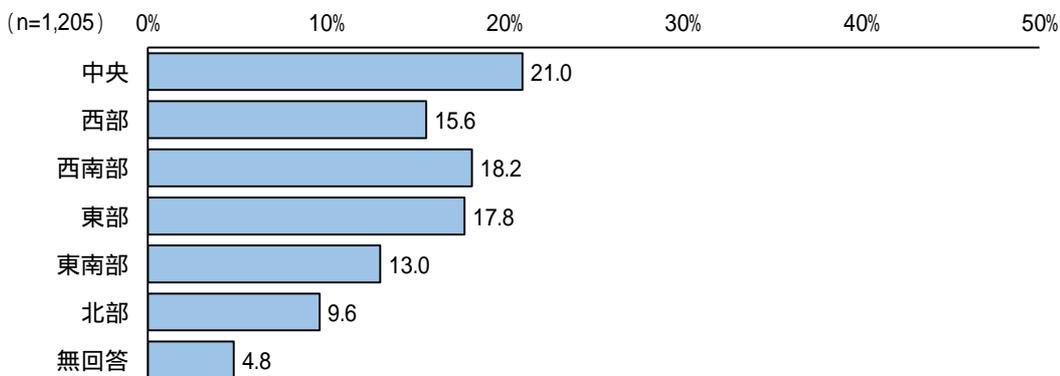


(4) 居住地域

問3 あなたのお住まいの町(住所で「八王子市」の次に来るもの)はどちらですか。(記入)

6圏域(「八王子ビジョン2022」(八王子市基本構想・基本計画等)による分類)

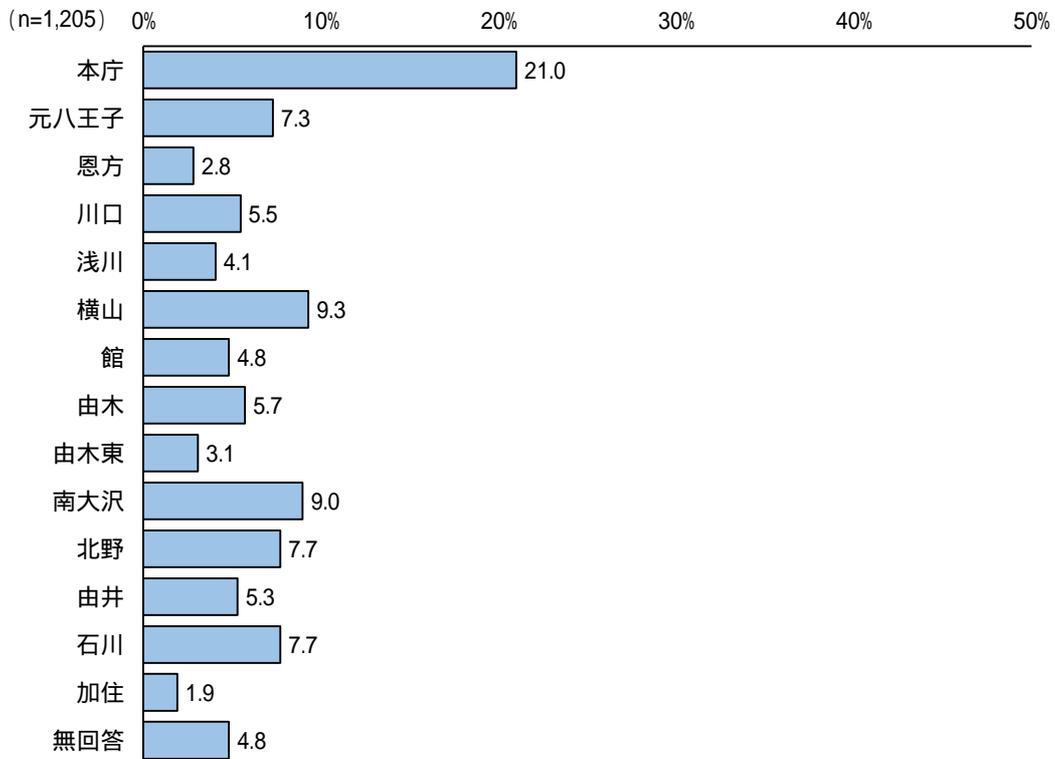
6圏域でみると、「中央」が21.0%で最も多く、以下「西南部」が18.2%、「東部」が17.8%、「西部」が15.6%、「東南部」が13.0%、「北部」が9.6%となっています。



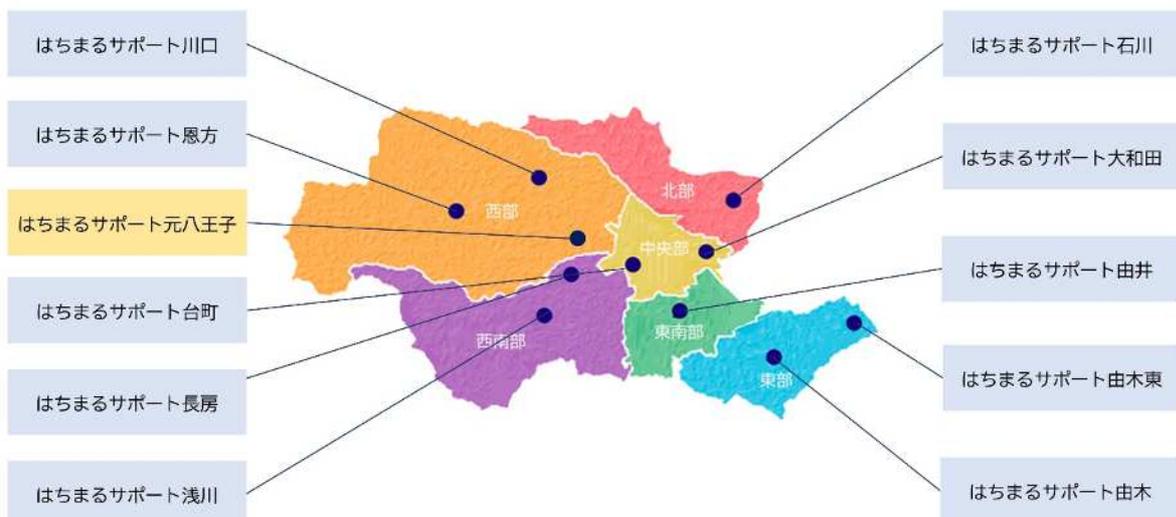
調査結果

14 圏域(市民部の事務所の管轄区域による分類)

14圏域でみると、「本庁」が21.0%で最も多く、以下「横山」が9.3%、「南大沢」が9.0%、「北野」が7.7%、「石川」が7.7%、「元八王子」が7.3%などとなっています。



はちまるサポート 一覧



圏域の区分

6 圏域	14 圏域	町丁目
中央	本庁	横山町・八日町・八幡町・八木町・追分町・千人町(一丁目～四丁目)・日吉町・元本郷町(一丁目～四丁目)・平岡町・本郷町・大横町・本町・元横山町(一丁目～三丁目)・田町・新町・明神町(一丁目～四丁目)・子安町(一丁目～四丁目)・東町・旭町・三崎町・中町・南町・寺町・万町・上野町・天神町・南新町・小門町・台町(一丁目～四丁目)・中野町・暁町(一丁目～三丁目)・中野山王(一丁目～三丁目)・中野上町(一丁目～五丁目)・大和田町(一丁目～七丁目)・富士見町・緑町・清川町
西部	元八王子	大楽寺町・上壺分方町・諏訪町・四谷町・叶谷町・泉町・横川町・式分方町・川町・元八王子町(一丁目～三丁目)
	恩方	下恩方町・上恩方町・西寺方町・小津町
	川口	川口町・上川町・犬目町・檜原町・美山町
西南部	浅川	東浅川町・初沢町・高尾町・南浅川町・西浅川町・裏高尾町・廿里町
	横山	並木町・散田町(一丁目～五丁目)・山田町・めじろ台(一丁目～四丁目)・長房町・城山手(一丁目・二丁目)・狭間町
	館	梶田町・館町・寺田町・大船町
東部	由木	下柚木・下柚木(二丁目・三丁目)・上柚木・上柚木(二丁目・三丁目)・中山・越野・南陽台(一丁目～三丁目)・堀之内・堀之内(二丁目・三丁目)
	由木東	東中野・大塚・鹿島・松が谷
	南大沢	鍵水・鍵水二丁目・南大沢(一丁目～五丁目)・松木・別所(一丁目・二丁目)
東南部	北野	北野町・打越町・北野台(一丁目～五丁目)・長沼町・絹ヶ丘(一丁目～三丁目)
	由井	小比企町・片倉町・西片倉(一丁目～三丁目)・宇津貫町・みなみ野(一丁目～六丁目)・兵衛(一丁目・二丁目)・七国(一丁目～六丁目)
北部	石川	高倉町・石川町・宇津木町・平町・小宮町・久保山町(一丁目・二丁目)・大谷町・丸山町
	加住	尾崎町・左入町・滝山町(一丁目・二丁目)・梅坪町・谷野町・みつい台(一丁目・二丁目)・丹木町(一丁目～三丁目)・加住町(一丁目・二丁目)・宮下町・戸吹町・高月町

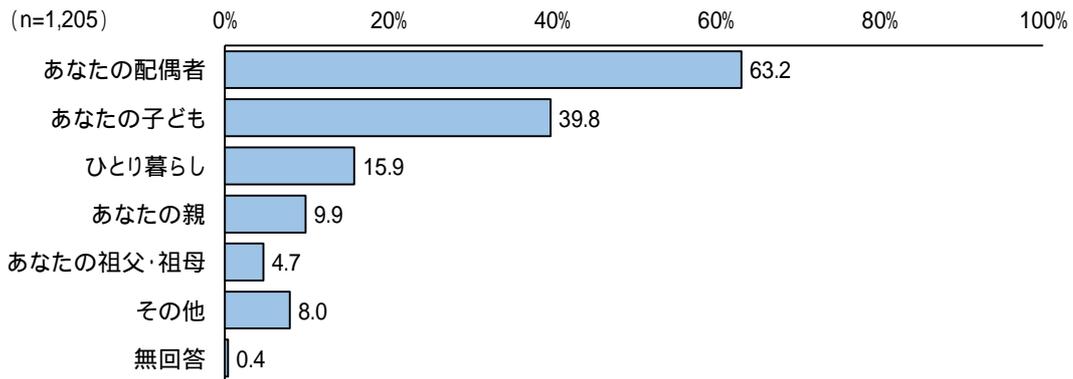
地域を細分化することに伴い誤差が大きくなる恐れがあるため、主に6圏域による分析を行います。

(5)同居者

問4 あなたと一緒に住んでいるのはどなたですか。(あてはまるものすべてに)

一緒に住んでいる人

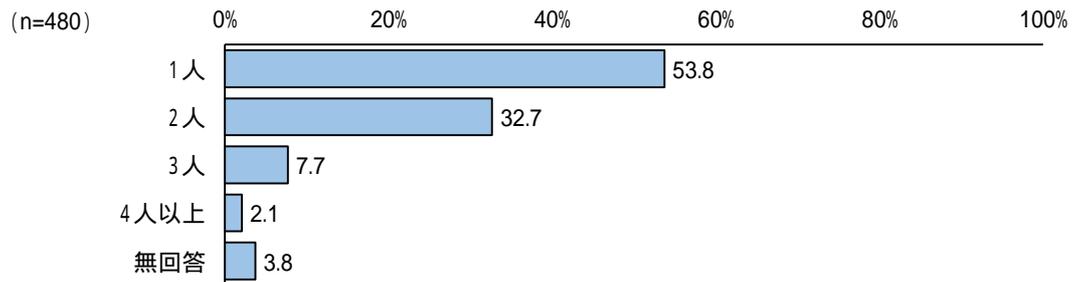
一緒に住んでいる人は、「あなたの配偶者」が63.2%で最も多く、以下「あなたの子ども」が39.8%、「ひとり暮らし」が15.9%、「あなたの親」が9.9%、「あなたの祖父・祖母」が4.7%となっています。



子ども的人数

「あなたの子ども」と回答した人の子どもの人数は、「1人」が53.8%で最も多く、以下「2人」が32.7%、「3人」が7.7%、「4人以上」が2.1%となっています。

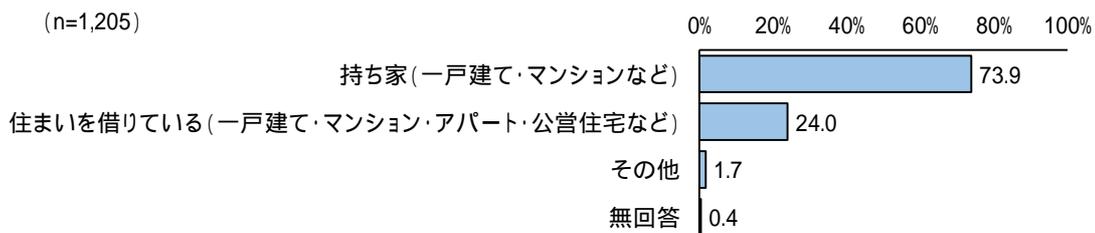
「4人以上」を4人とカウントした場合の平均値は1.57人となっています。



(6) 住まいの種類

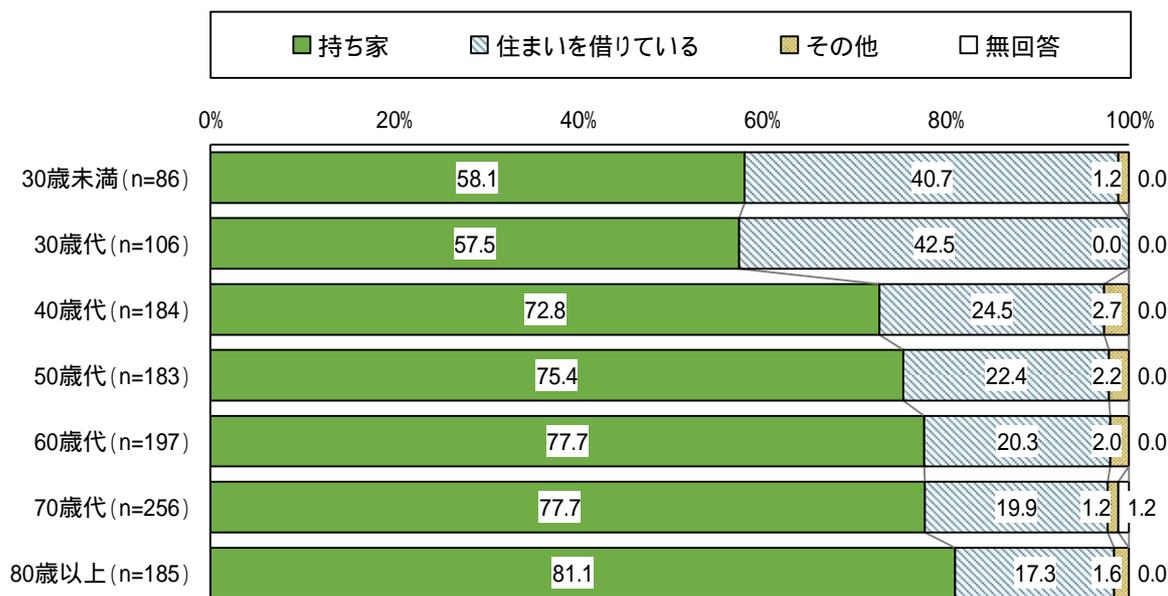
問5 あなたのお住まいは次のうちどれですか。(は1つ)

住まいの種類は、「持ち家(一戸建て・マンションなど)」が73.9%、「住まいを借りている(一戸建て・マンション・アパート・公営住宅など)」が24.0%となっています。



年齢別 * 住まいの種類

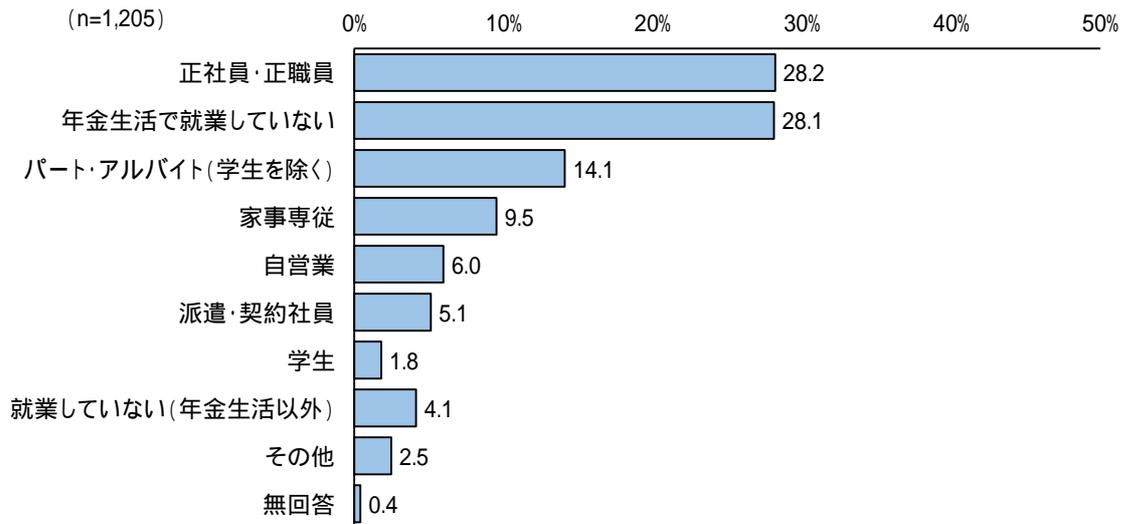
年齢別にみると、年齢が高いほど「持ち家」が多くなる傾向がみられます。



(7) 職業

問6 あなたの職業は次のうちどれですか。(は1つ)

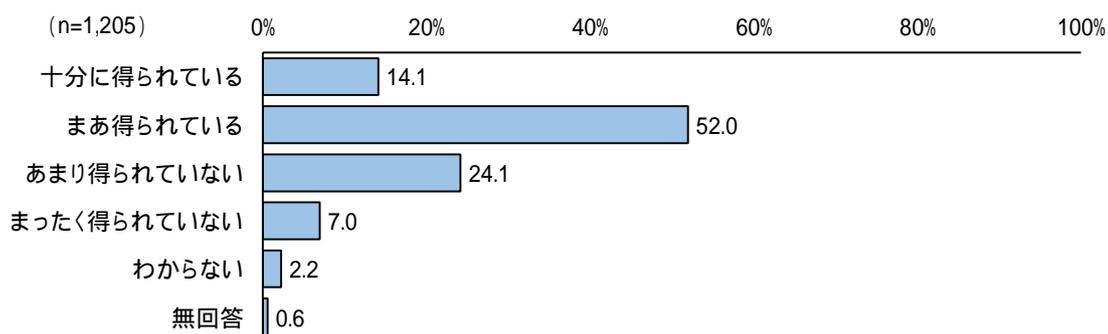
職業は、「正社員・正職員」が28.2%で最も多く、以下「年金生活で就業していない」が28.1%、「パート・アルバイト(学生を除く)」が14.1%、「家事専従」が9.5%、「自営業」が6.0%、「派遣・契約社員」が5.1%などとなっています。



(8) 世帯年収

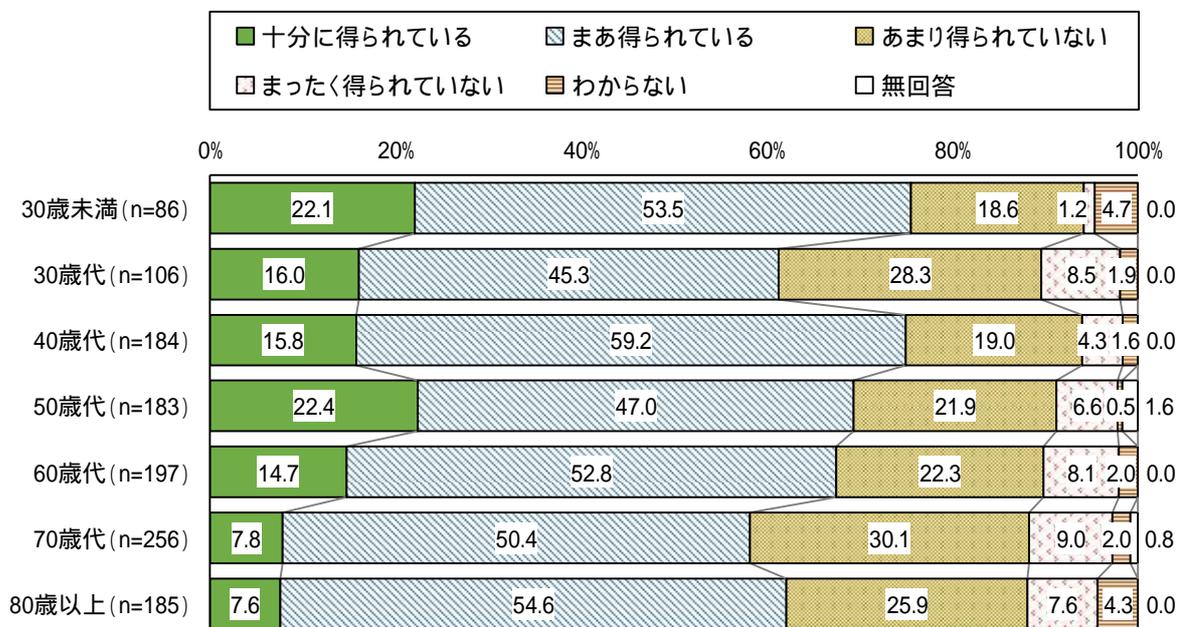
問7 あなたの世帯の収入について、生活するのに十分な収入を得られていますか。(は1つ)

世帯収入は、「まあ得られている」が52.0%で最も多く、以下「あまり得られていない」が24.1%、「十分に得られている」が14.1%、「まったく得られていない」が7.0%、「わからない」が2.2%となっています。



年齢別 * 世帯年収

年齢別にみると、70歳代と80歳以上では、「十分に得られている」との回答が少なくなっています。



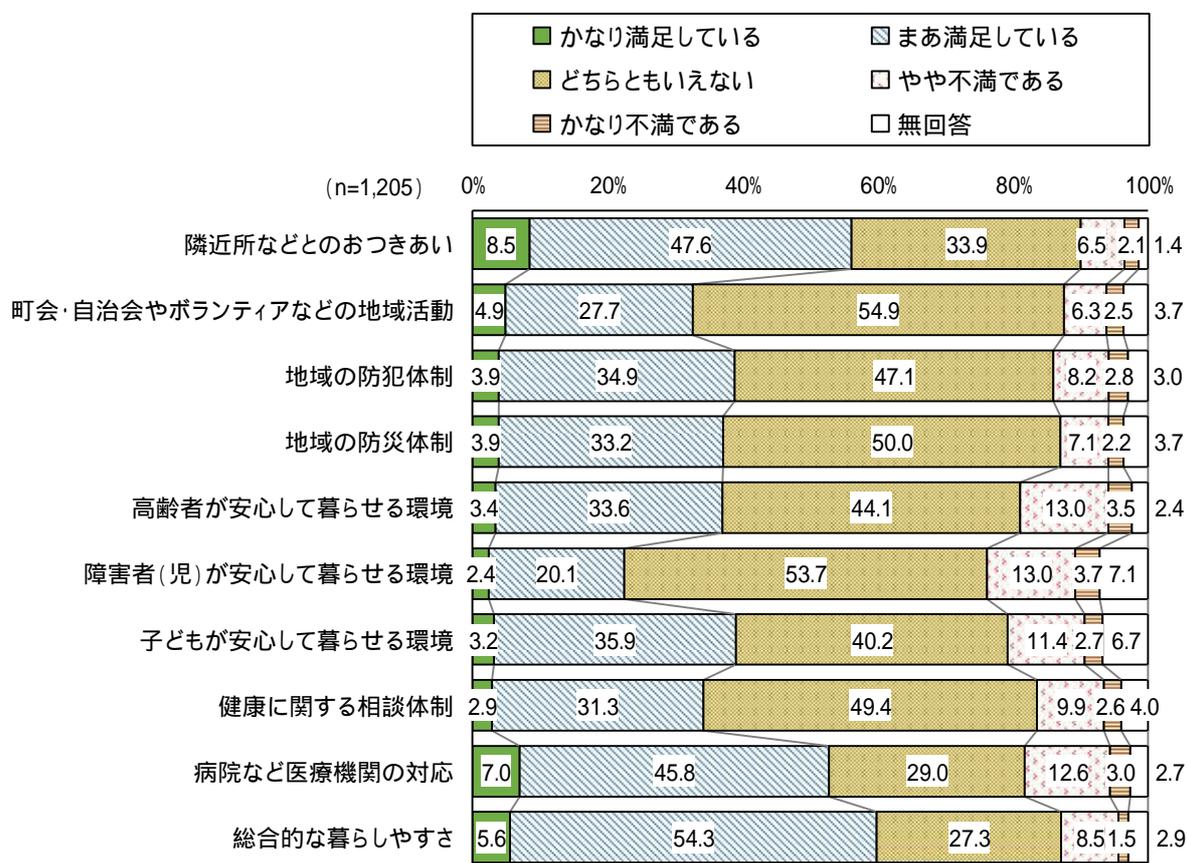
2 地域での暮らしについて

(1) 暮らしの満足度

問8 現在の暮らしやすさについて、どの程度満足していますか。(項目ごとに 1は1つ)

現在の暮らしやすさについて、～すべての項目において、満足(かなり満足している+まあ満足している)との回答が不満(かなり不満である+やや不満である)との回答より多くなっています。

次頁の平均点をみると、「総合的な暮らしやすさ」が3.56で最も高くなっています。以下「隣近所などのおつきあい」が3.55、「病院など医療機関の対応」が3.42、「地域の防災体制」が3.31などとなっています。



平均点・前回調査との比較

前回調査から平均点が増加した項目は、差が大きい順に「健康に関する相談体制」(+0.1)、「病院など医療機関の対応」(+0.08)、「高齢者が安心して暮らせる環境」(+0.04)、「障害者(児)が安心して暮らせる環境」(+0.02)となっています。

一方で、平均点が減少した項目は、差が大きい順に「町会・自治会やボランティアなどの地域活動」(-0.08)、「隣近所などのおつきあい」(-0.04)などとなっています。

単位：%、位、点

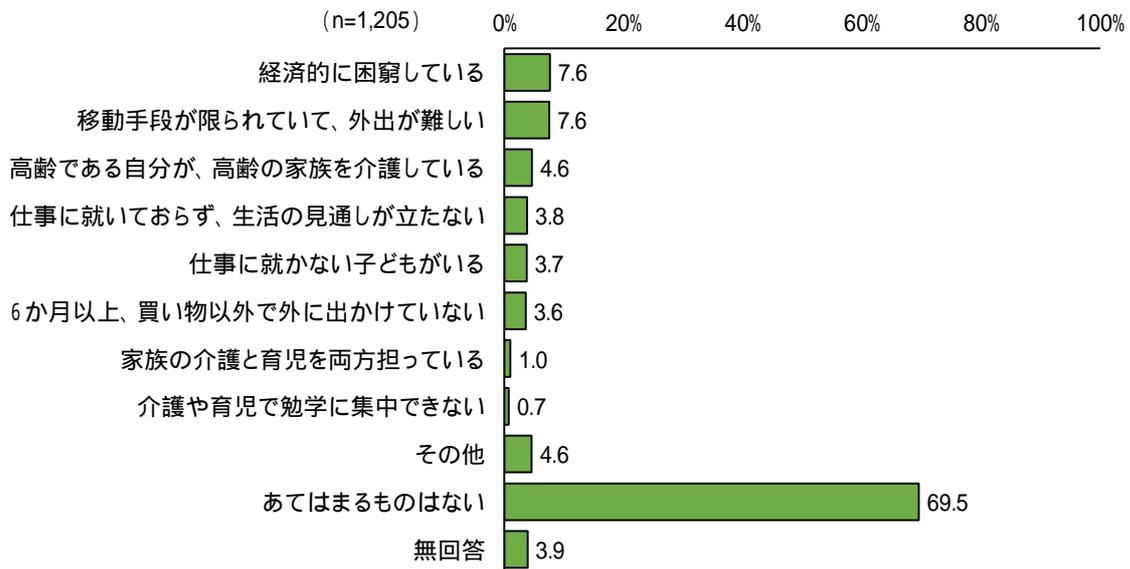
	かなり満足している	まあ満足している	どちらともいえない	やや不満である	かなり不満である	無回答	順位	平均点		
								階級値	今回 n=1,205	前回 n=1,266
隣近所などのおつきあい	8.5	47.6	33.9	6.5	2.1	1.4	2	3.55	3.59	-0.04
町会・自治会やボランティアなどの地域活動	4.9	27.7	54.9	6.3	2.5	3.7	7	3.27	3.35	-0.08
地域の防犯体制	3.9	34.9	47.1	8.2	2.8	3.0	5	3.30	3.32	-0.02
地域の防災体制	3.9	33.2	50.0	7.1	2.2	3.7	4	3.31	3.33	-0.02
高齢者が安心して暮らせる環境	3.4	33.6	44.1	13.0	3.5	2.4	9	3.21	3.17	0.04
障害者(児)が安心して暮らせる環境	2.4	20.1	53.7	13.0	3.7	7.1	10	3.05	3.03	0.02
子どもが安心して暮らせる環境	3.2	35.9	40.2	11.4	2.7	6.7	6	3.27	3.29	-0.02
健康に関する相談体制	2.9	31.3	49.4	9.9	2.6	4.0	8	3.23	3.13	0.10
病院など医療機関の対応	7.0	45.8	29.0	12.6	3.0	2.7	3	3.42	3.34	0.08
総合的な暮らしやすさ	5.6	54.3	27.3	8.5	1.5	2.9	1	3.56	3.57	-0.01

(2)生活状況

問9 あなたの生活において、次の中であてはまるものはありますか。
 (あてはまるものすべてに)

生活状況について、「経済的に困窮している」と「移動手段が限られていて、外出が難しい」が7.6%で最も多く、以下「高齢である自分が、高齢の家族を介護している」が4.6%、「仕事に就いておらず、生活の見通しが立たない」が3.8%、「仕事に就かない子どもがいる」が3.7%などとなっています。

なお、「あてはまるものはない」は69.5%となっています。



年齢別 * 生活状況

年齢別にみると、70歳代と80歳以上では「移動手段が限られていて、外出が難しい」が最も多くなっています。

また、80歳以上では「高齢である自分が、高齢の家族を介護している」が10.8%となっています。

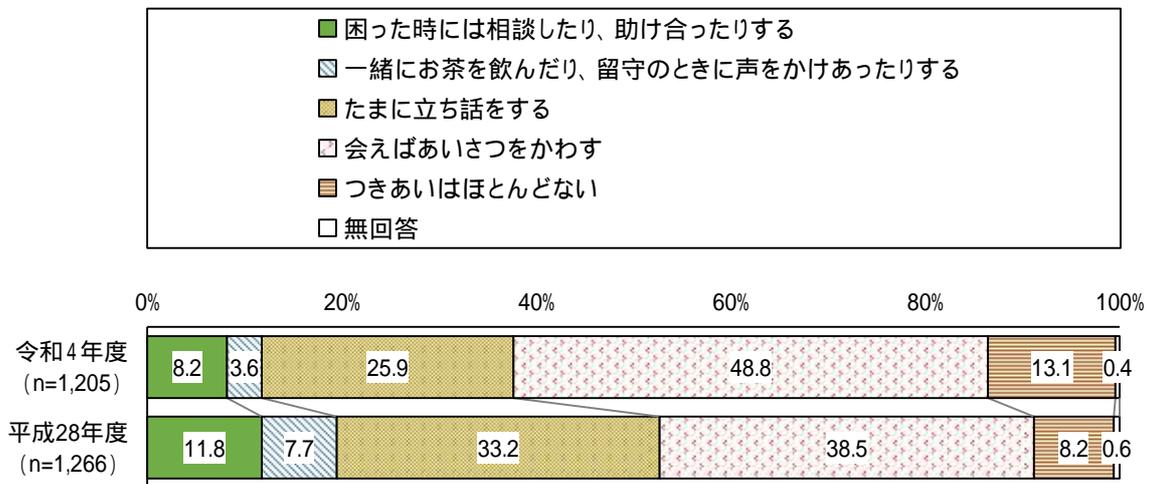
	経済的に困窮している	移動手段が限られていて、外出が難しい	高齢である自分が、高齢の家族を介護している	仕事に就いておらず、生活の見通しが立たない	仕事に就かない子どもがいる	6か月以上、買い物以外で外に出かけていない	家族の介護と育児を両方担っている	介護や育児で勉学に集中できない	その他	あてはまるものはない	無回答
全体 (n=1,205)	7.6	7.6	4.6	3.8	3.7	3.6	1.0	0.7	4.6	69.5	3.9
30歳未満 (n=86)	9.3	4.7	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	3.5	4.7	76.7	3.5
30歳代 (n=106)	13.2	4.7	0.0	3.8	2.8	2.8	1.9	1.9	3.8	73.6	4.7
40歳代 (n=184)	8.7	1.1	0.5	2.7	2.2	1.1	1.1	1.6	3.3	78.3	4.9
50歳代 (n=183)	7.1	3.8	1.6	2.7	3.3	3.8	2.2	0.5	6.0	77.0	2.2
60歳代 (n=197)	7.1	4.1	7.1	4.6	6.1	2.0	0.5	0.0	5.1	71.6	2.5
70歳代 (n=256)	7.0	9.8	7.0	4.7	4.3	5.9	1.2	0.0	5.5	64.1	3.5
80歳以上 (n=185)	3.2	20.5	10.8	4.3	3.8	6.5	0.0	0.0	3.2	55.1	5.9

(3) 日頃の隣近所とのつきあい方

問10 あなたは、日頃、隣近所とどのようなつきあい方をしていますか。(1は1つ)

日頃の隣近所とのつきあい方は、「会えばあいさつをかわす」が48.8%で最も多く、以下「たまに立ち話をする」が25.9%、「つきあいはほとんどない」が13.1%、「困った時には相談したり、助け合ったりする」が8.2%、「一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあったりする」が3.6%となっています。

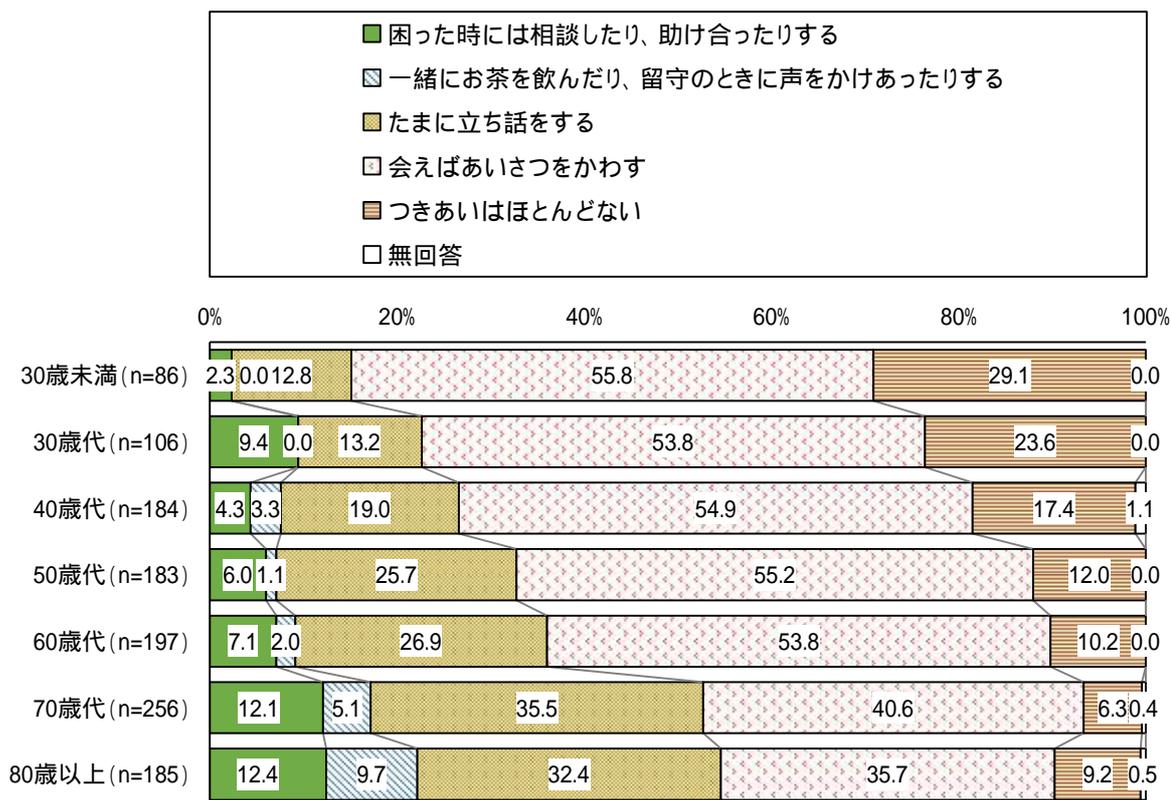
前回の調査と比較すると、「会えばあいさつをかわす」と「つきあいはほとんどない」が増加し、他の項目は減少しています。



年齢別 * 日頃の隣近所とのつきあい方

年齢別にみると、すべての年齢で「会えばあいさつをかわす」が最も多くなっており、60歳代より下の年齢では過半数を占めています。

年齢が高いほど立ち話以上のつきあい方が多くなり、年齢が低いほど「つきあいはほとんどない」が多くなる傾向がみられます。

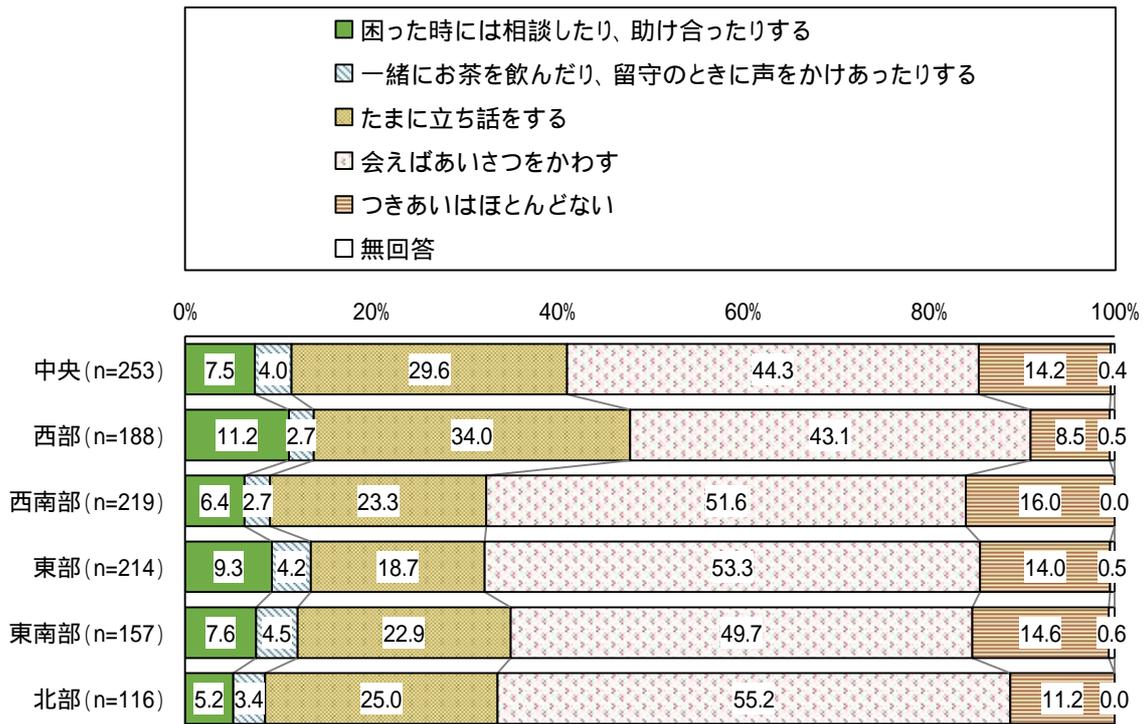


調査結果

居住地域別 * 日頃の隣近所とのつきあい方

居住地域別にみると、すべての地域で「会えばあいさつをかわす」が最も多く、次いで「たまに立ち話をする」との回答が多くなっています。

西部では、「困った時には相談したり、助け合ったりする」が11.2%、「たまに立ち話をする」が34.0%で他の地域より多く、逆に「つきあいはほとんどない」は8.5%で他の地域より少なくなっており、つきあいの程度がやや強くなっています。

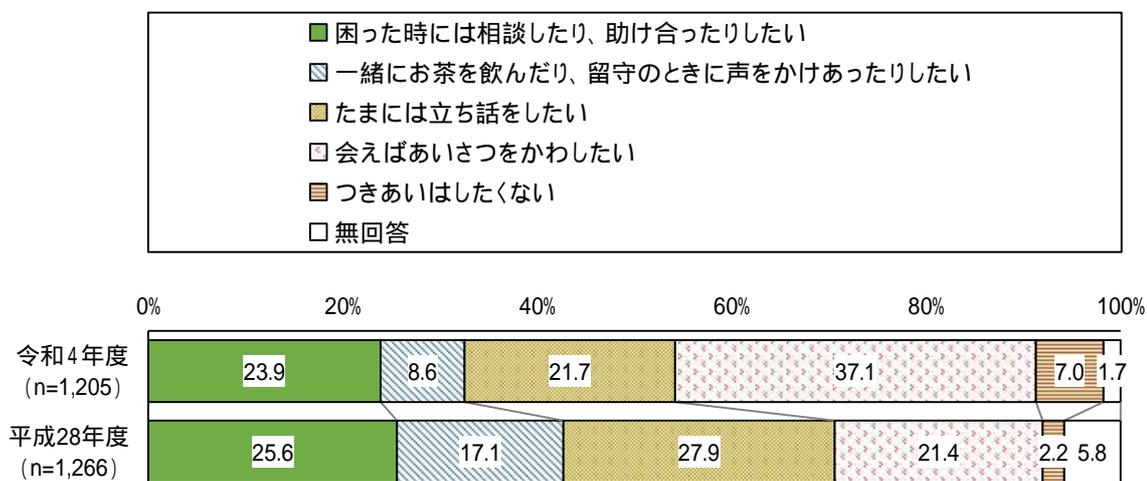


(4) 今後の隣近所とのつきあい方

問11 あなたは今後、隣近所とはどのようなつきあい方を望みますか。(は1つ)

今後の隣近所とのつきあい方は、「会えばあいさつをかわしたい」が37.1%で最も多く、以下「困った時には相談したり、助け合ったりしたい」が23.9%、「たまには立ち話をしたい」が21.7%、「一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあったりしたい」が8.6%、「つきあいはしたくない」が7.0%となっています。

前回の調査と比較すると、「会えばあいさつをかわしたい」と「つきあいはしたくない」が増加し、他の項目は減少しています。

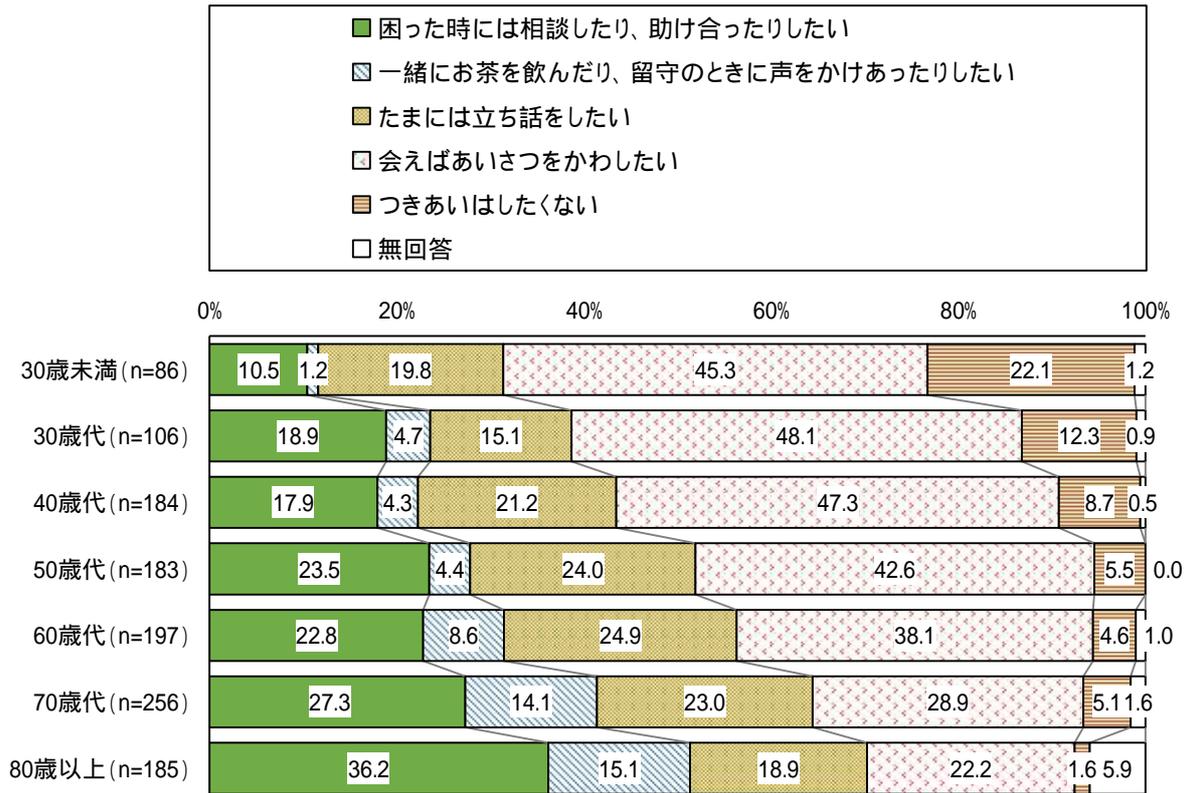


調査結果

年齢別 * 今後の隣近所とのつきあい方

年齢別にみると、70歳代より下の年齢では、「会えばあいさつをかわしたい」が最も多くなっています。

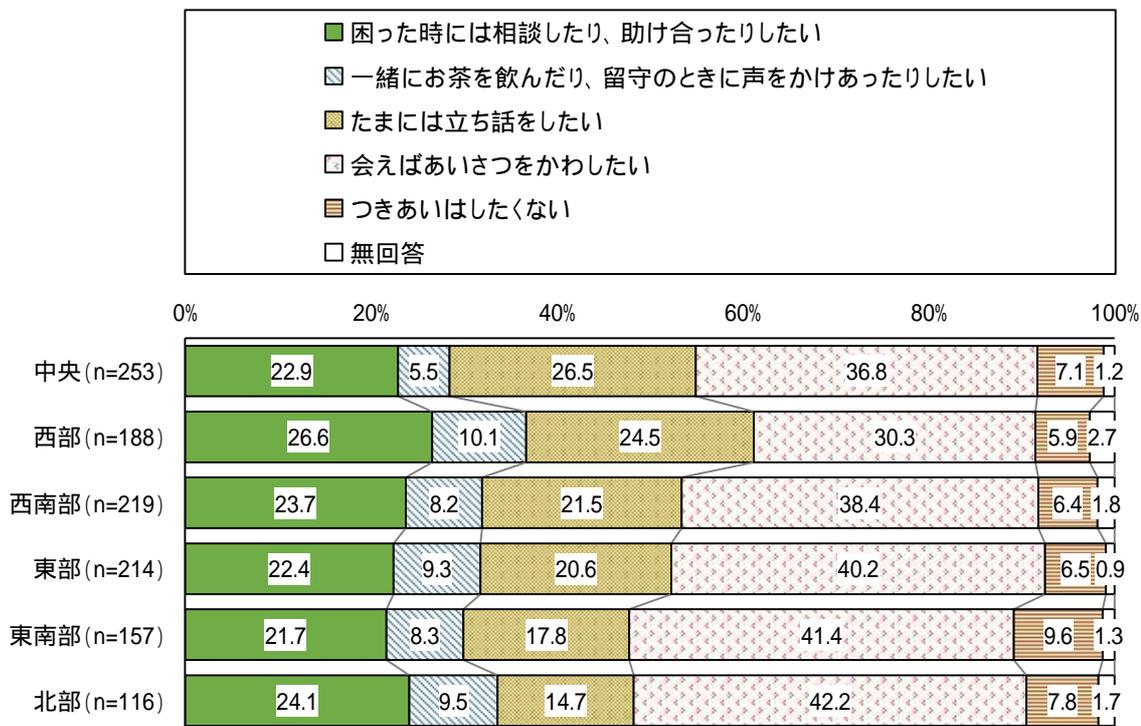
80歳以上では「困った時には相談したり、助け合ったりしたい」が最も多く、年齢が高いほど立ち話以上のつきあい方の希望が多くなり、年齢が低いほど「つきあいはしたくない」が多くなる傾向がみられます。



居住地域別 * 今後の隣近所とのつきあい方

居住地域別にみると、すべての地域で「会えばあいさつをかわしたい」が最も多く、次いで「困った時には相談したり、助け合ったりしたい」との回答が多くなっています。

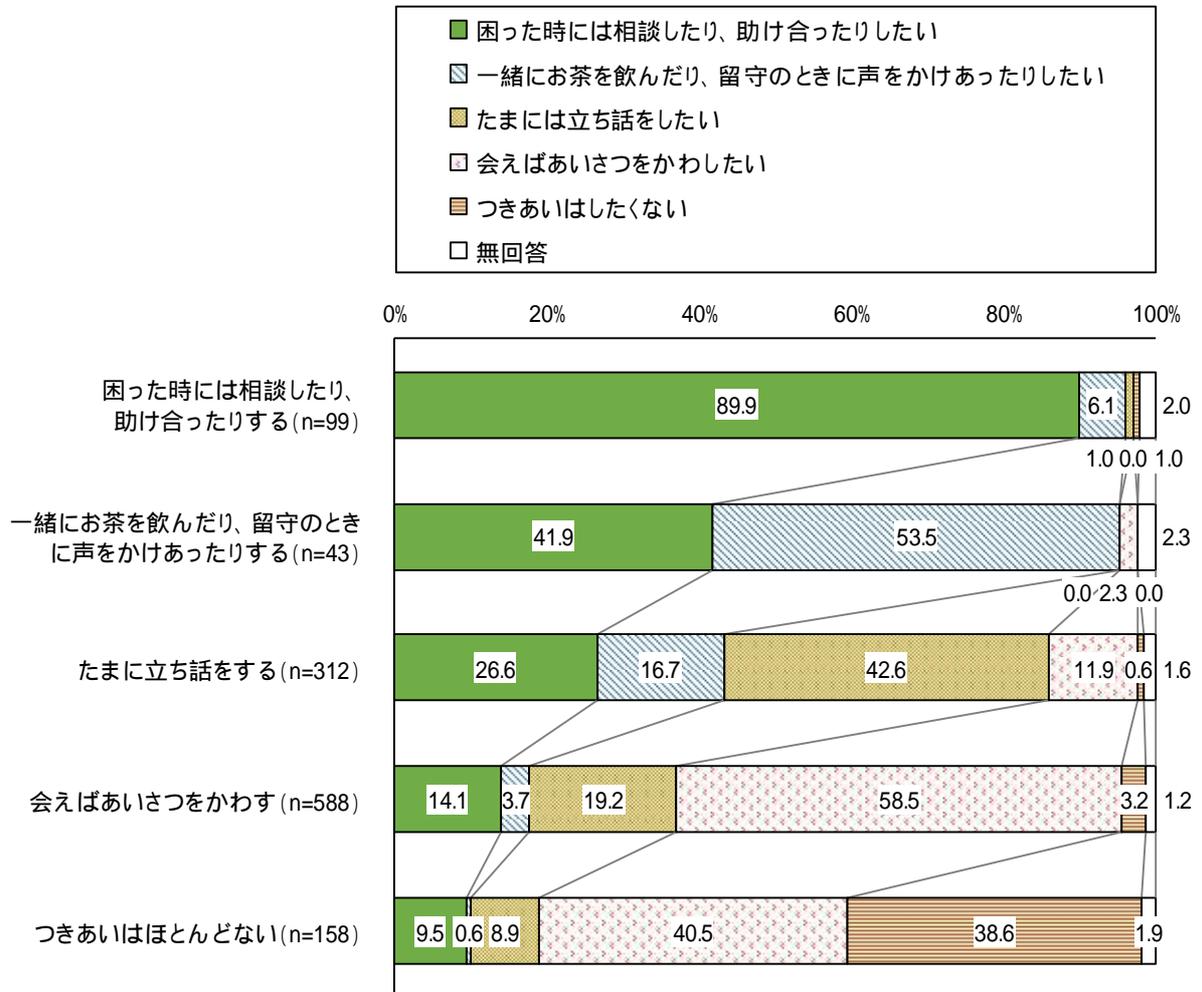
一方で、「つきあいはしたくない」との回答はすべての地域で10%未満となっています。



調査結果

日頃の隣近所とのつきあい方(問10)×今後の隣近所とのつきあい方(問11)

問10との関係を見ると、現状のつきあい方を続ける人の割合が比較的高くなっていますが、「つきあいはほとんどない」と回答した人では、過半数が今以上のつきあい方を望んでいます。

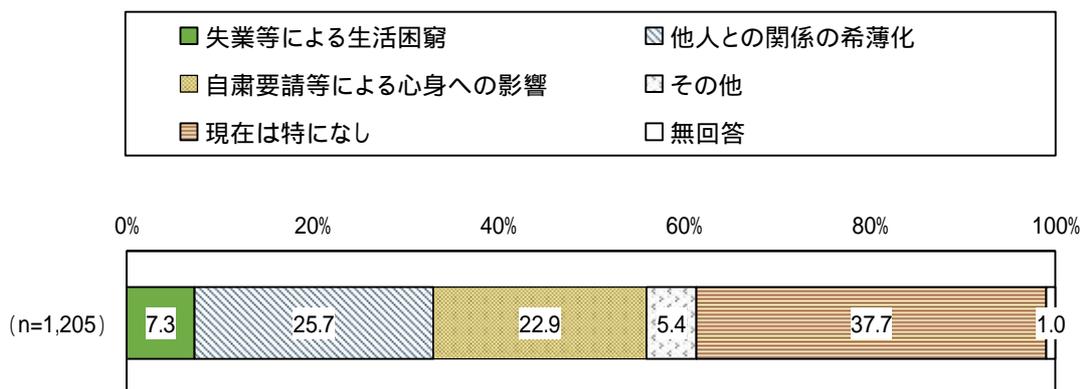


(5) 新型コロナウイルスによりもっとも強く感じる影響

問12 新型コロナウイルスによりあなたがもっとも強く感じる影響はどれですか。(は1つ)

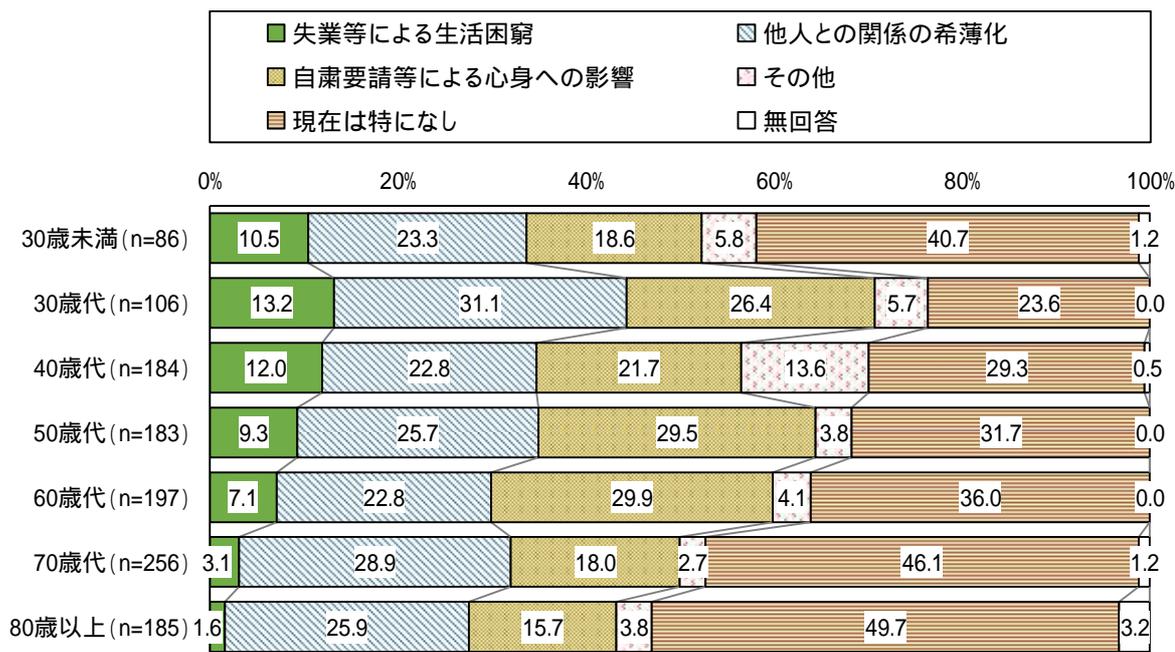
新型コロナウイルスによりもっとも強く感じる影響は、「他人との関係の希薄化」が25.7%で最も多く、以下「自粛要請等による心身への影響」が22.9%、「失業等による生活困窮」が7.3%となっています。

なお、「現在は特になし」は37.7%となっています。



年齢別 * 新型コロナウイルスによりもっとも強く感じる影響

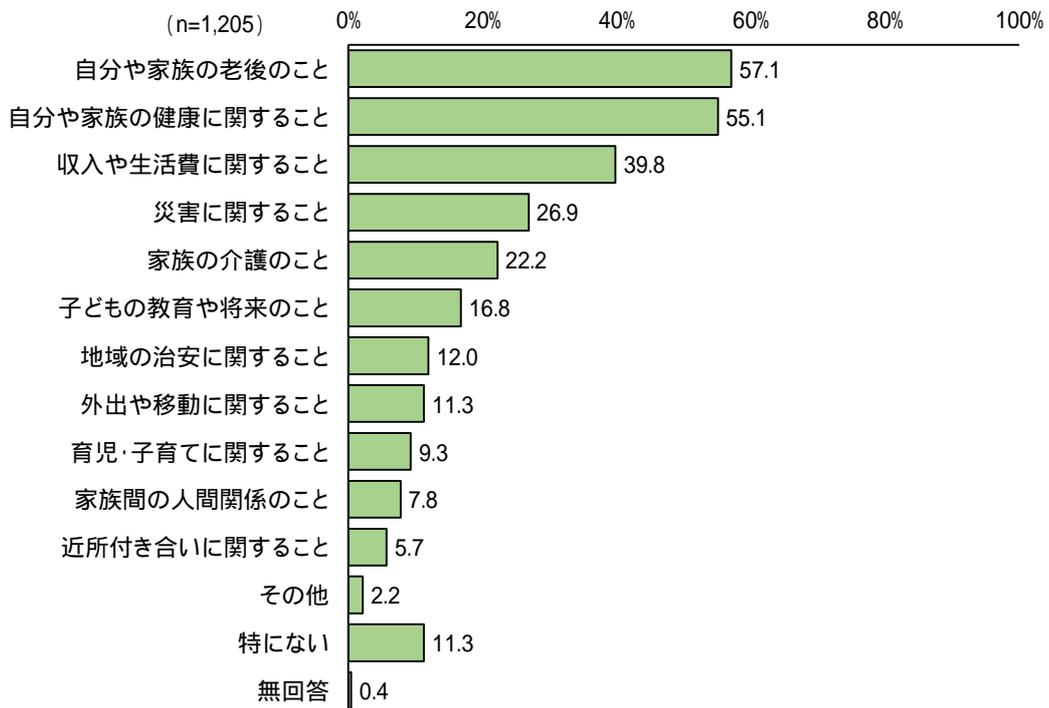
年齢別にみると、現在何らかの影響を感じている人は30歳代で最も多く、他の年齢と比較すると「他人との関係の希薄化」と「失業等による生活困窮」の割合が高くなっています。



(6) 毎日の暮らしの中での悩みや不安

問13 あなたは、毎日の暮らしの中で、どのようなことに悩みや不安を感じていますか。
 (あてはまるものすべてに)

毎日の暮らしの中での悩みや不安は、「自分や家族の老後のこと」が57.1%で最も多く、以下「自分や家族の健康に関すること」が55.1%、「収入や生活費に関すること」が39.8%、「災害に関すること」が26.9%、「家族の介護のこと」が22.2%、「子どもの教育や将来のこと」が16.8%などとなっています。



年齢別 * 毎日の暮らしの中での悩みや不安

年齢別にみると、30歳代から70歳代では、「自分や家族の老後のこと」が最も多くなっています。

30歳未満では、「収入や生活費に関すること」が68.6%で最も多く、年齢が低いほど割合が高くなっています。

80歳以上では「自分や家族の健康に関すること」が56.8%で最も多く、30歳代以上で過半数を占めています。

また、30歳代と40歳代では、「子どもの教育や将来のこと」と「育児・子育てに関すること」が他の年齢より多くなっています。

	自分や家族の老後のこと	自分や家族の健康に関すること	収入や生活費に関すること	災害に関すること	家族の介護のこと	子どもの教育や将来のこと	地域の治安に関すること	外出や移動に関すること	育児・子育てに関すること	家族間の人間関係のこと	近所付き合いに関すること	その他	特になし	無回答
全体 (n=1,205)	57.1	55.1	39.8	26.9	22.2	16.8	12.0	11.3	9.3	7.8	5.7	2.2	11.3	0.4
30歳未満 (n=86)	34.9	37.2	68.6	19.8	9.3	10.5	14.0	11.6	15.1	11.6	2.3	2.3	18.6	1.2
30歳代 (n=106)	62.3	55.7	60.4	23.6	17.0	44.3	21.7	9.4	38.7	9.4	6.6	1.9	2.8	0.0
40歳代 (n=184)	57.1	54.3	49.5	25.0	23.9	44.0	14.7	4.9	20.7	8.2	2.7	4.9	6.5	0.5
50歳代 (n=183)	65.6	52.5	45.9	31.1	37.2	18.6	12.0	8.2	7.1	12.0	9.3	0.5	8.7	0.0
60歳代 (n=197)	67.0	62.9	38.1	28.9	24.9	7.6	13.7	7.6	2.5	4.6	7.1	2.0	8.1	0.0
70歳代 (n=256)	58.2	57.0	27.0	26.6	18.4	3.9	5.5	13.7	0.0	4.7	5.1	0.8	14.8	0.4
80歳以上 (n=185)	43.8	56.8	19.5	27.0	18.4	2.7	9.7	21.6	1.1	8.1	5.9	2.7	18.4	1.1

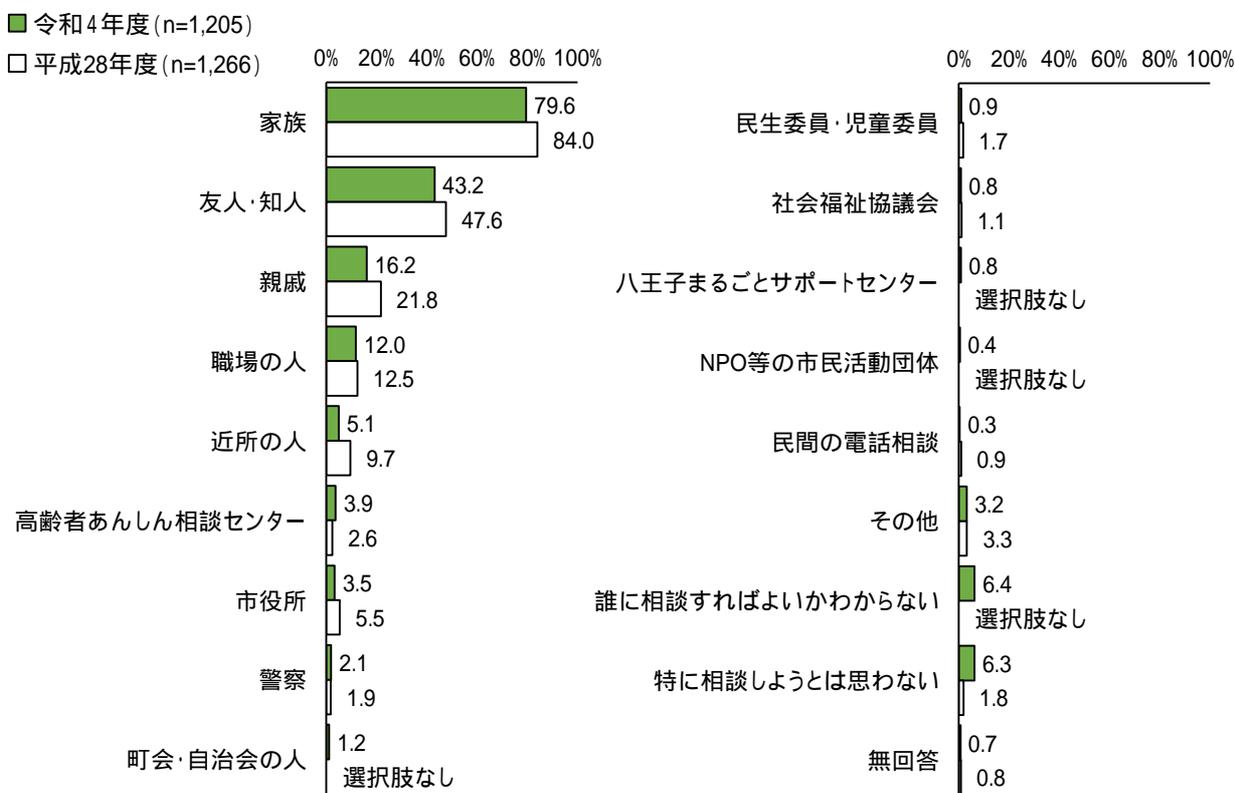
(7) 悩みや不安、困り事の相談先

問14 あなたに悩みや不安、困り事があるときには、誰に相談していますか。
 (あてはまるものすべてに)

悩みや不安、困り事の相談先は、「家族」が79.6%で最も多く、以下「友人・知人」が43.2%、「親戚」が16.2%、「職場の人」が12.0%などとなっています。

前回の調査と比較すると、全体的に割合がやや減少していますが、概ね同様の傾向がみられます。

なお、「誰に相談すればよいかわからない」は6.4%、「特に相談しようとは思わない」は6.3%となっています。



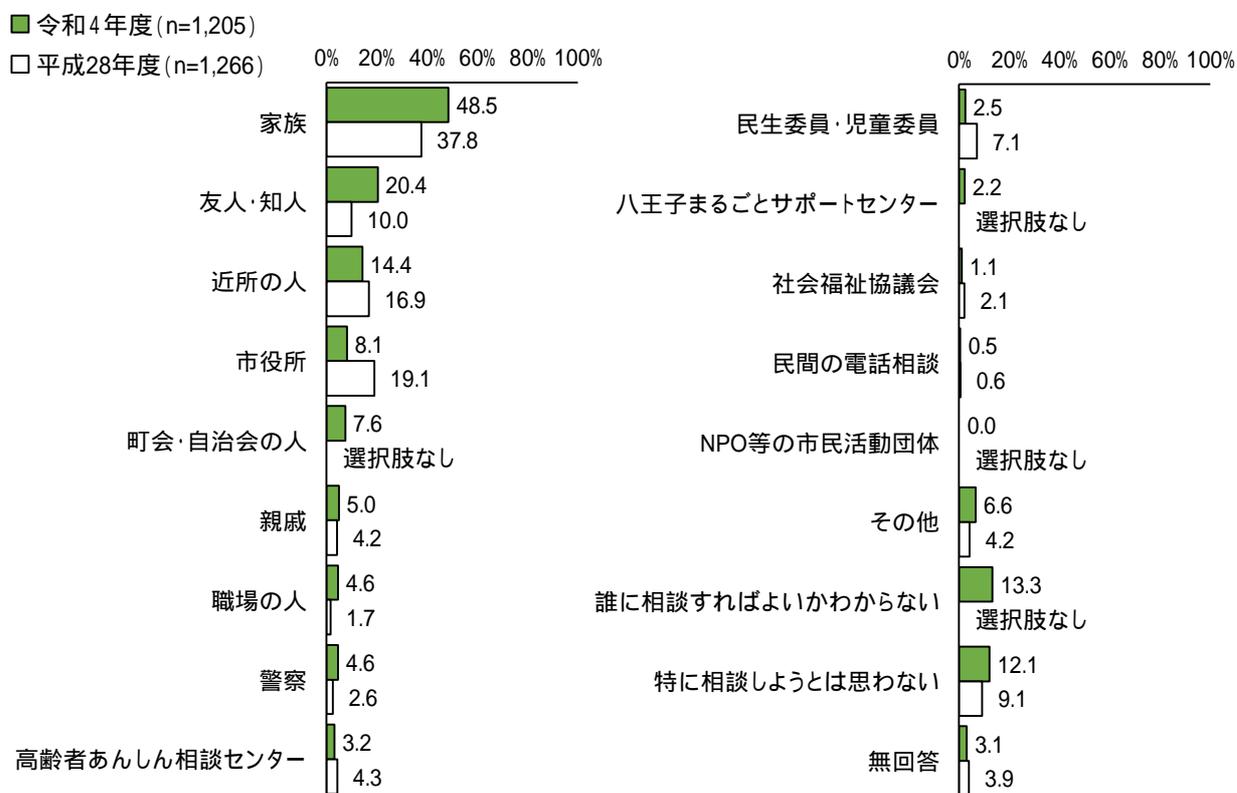
(8)近所で悩みや不安、困り事がある場合の相談先

問15 近所で悩みや不安、困り事がある世帯があった場合、あなたは誰に相談していますか。
(あてはまるものすべてに)

近所で悩みや不安、困り事がある場合の相談先は、「家族」が48.5%で最も多く、以下「友人・知人」が20.4%、「近所の人」が14.4%、「市役所」が8.1%などとなっています。

前回の調査と比較すると、「家族」と「友人」がともに約10ポイント増加しており、一方で「市役所」は11ポイント減少しています。

なお、「誰に相談すればよいかわからない」は13.3%、「特に相談しようとは思わない」は12.1%となっています。

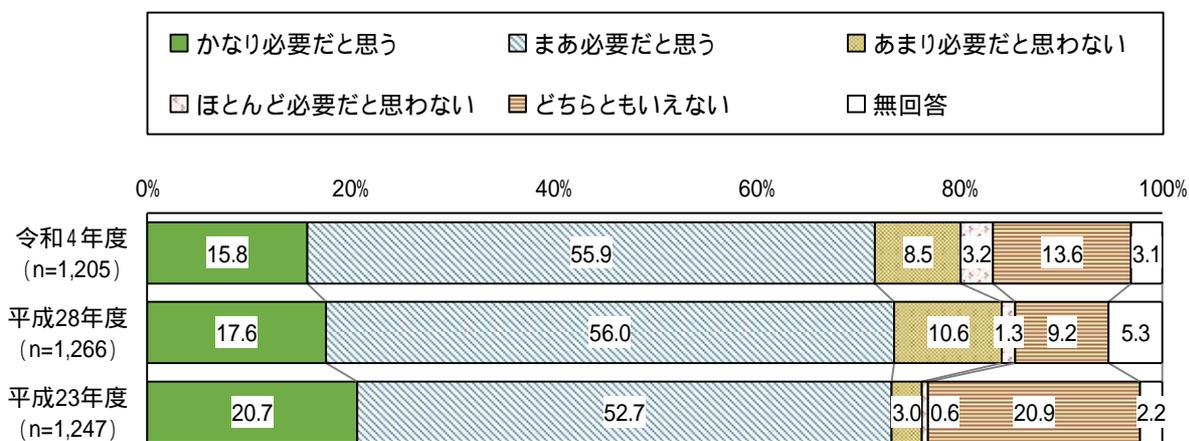


(9) 住民相互の協力関係の必要性

問16 あなたは、地域でおきる生活上の問題に対して、住民相互の協力関係が必要だと思いますか。(1は1つ)

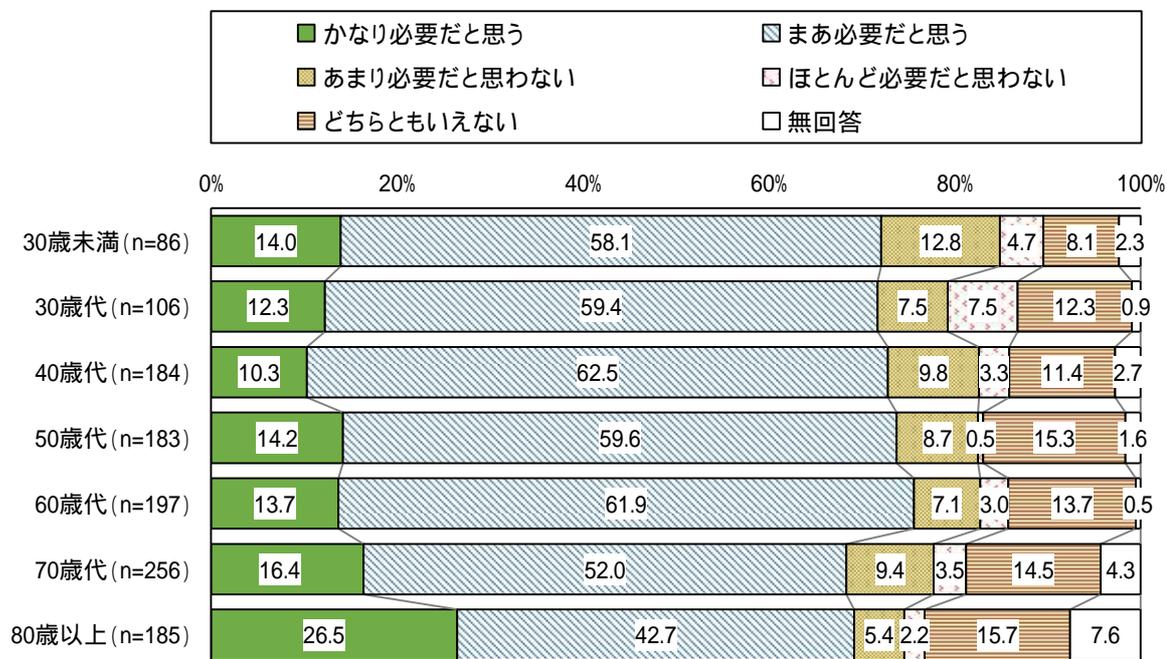
地域における住民相互の協力関係は、「まあ必要だと思う」が55.9%で最も多く、以下「かなり必要だと思う」が15.8%、「どちらともいえない」が13.6%、「あまり必要だと思わない」が8.5%、「ほとんど必要だと思わない」が3.2%となっています。

これまでの調査と比較すると、すべての調査において過半数が「まあ必要だと思う」と回答しています。一方で、「かなり必要だと思う」は減少を続けています。



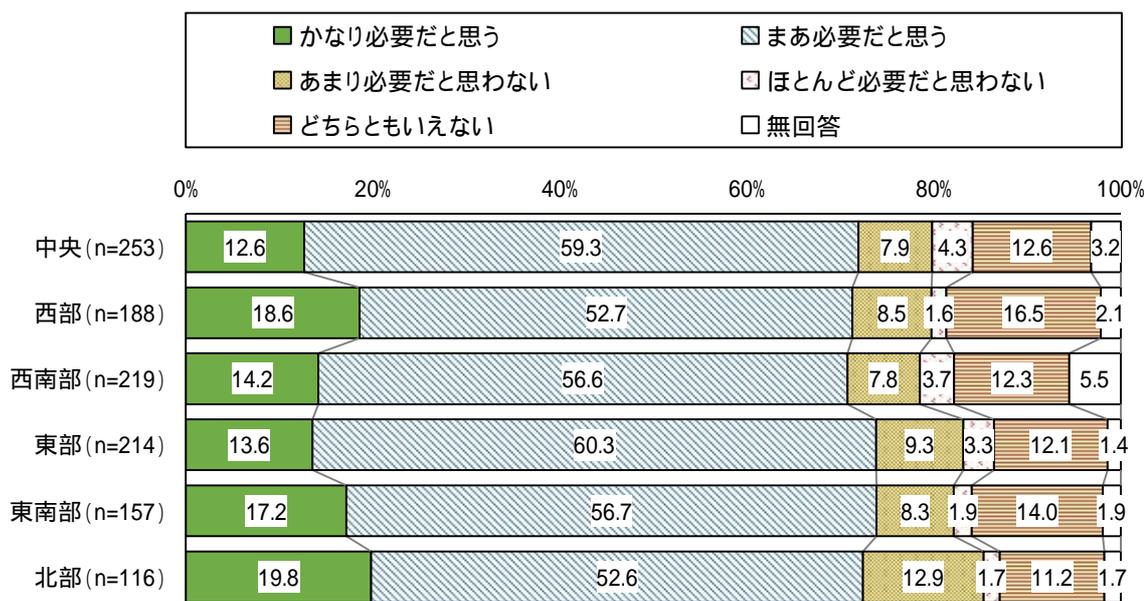
年齢別 * 住民相互の協力関係の必要性

年齢別にみると、年齢が高いほど「かなり必要だと思う」が多くなる傾向がみられます。



居住地域別 * 住民相互の協力関係の必要性

居住地域別にみると、すべての地域で「まあ必要だと思う」が過半数を占めており、地域による大きな差はみられません。

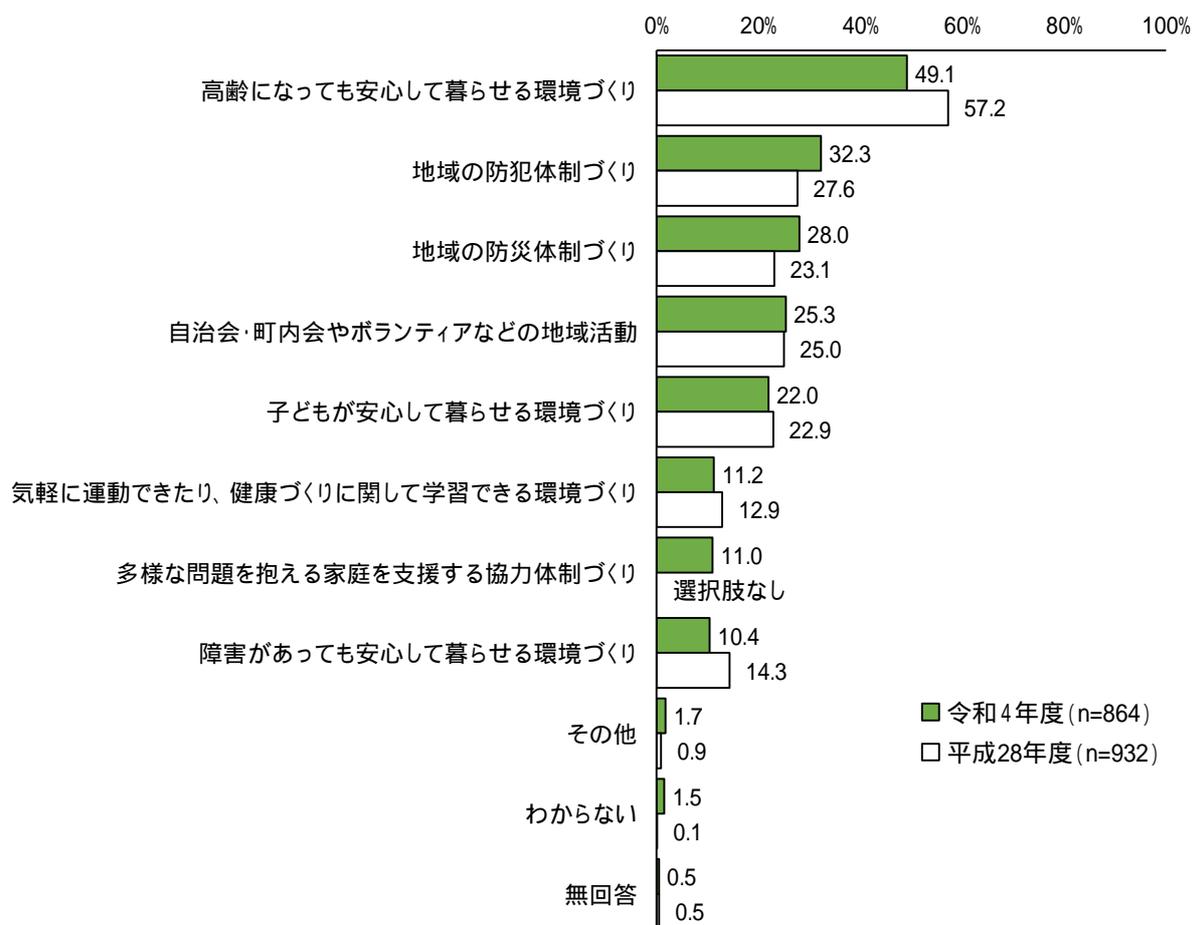


(10) 地域で協力して取り組む必要があること

問16で「1. かなり必要だと思う」「2. まあ必要だと思う」に つけた方
 問16 - 1 地域の人たちが協力して、取り組んでいくことが特に必要なことは、どのようなこと
 だと思いますか。(は2つまで)

地域で協力して取り組む必要があることは、「高齢になっても安心して暮らせる環境づくり」が49.1%で最も多く、以下「地域の防犯体制づくり」が32.3%、「地域の防災体制づくり」が28.0%、「自治会・町内会やボランティアなどの地域活動」が25.3%、「子どもが安心して暮らせる環境づくり」が22.0%、「気軽に運動できたり、健康づくりに関して学習できる環境づくり」が11.2%などとなっています。

前回の調査と比較すると、「地域の防災体制づくり」は4.9ポイント増加、「地域の防犯体制づくり」は4.7ポイント増加しています。



年齢別 * 地域で協力して取り組む必要があること

年齢別にみると、年齢が高いほど「高齢になっても安心して暮らせる環境づくり」が多く、50歳代以上では第1位の項目となっており、80歳以上では67.2%を占めています。

一方、年齢が低いほど「地域の防犯体制づくり」が多くなる傾向がみられ、30歳未満と40歳代では、第1位の項目となっています。

また、30歳代では、「子どもが安心して暮らせる環境づくり」が61.8%で最も多くなっています。

	高齢になっても安心して暮らせる環境づくり	地域の防犯体制づくり	地域の防災体制づくり	自治会・町内会やボランティアなどの地域活動	子どもが安心して暮らせる環境づくり	気軽に運動できたり、健康づくりに関して学習できる環境づくり	多様な問題を抱える家庭を支援する協力体制づくり	障害があっても安心して暮らせる環境づくり	その他	わからない	無回答
全体 (n=864)	49.1	32.3	28.0	25.3	22.0	11.2	11.0	10.4	1.7	1.5	0.5
30歳未満 (n=62)	17.7	45.2	25.8	17.7	30.6	14.5	12.9	12.9	4.8	3.2	0.0
30歳代 (n=76)	25.0	44.7	27.6	11.8	61.8	10.5	9.2	3.9	3.9	0.0	0.0
40歳代 (n=134)	33.6	41.8	32.8	16.4	38.8	6.7	9.7	6.7	1.5	5.2	0.7
50歳代 (n=135)	49.6	34.8	28.9	27.4	15.6	6.7	13.3	14.1	1.5	0.7	0.0
60歳代 (n=149)	54.4	30.9	40.9	22.8	16.1	8.7	12.8	10.7	0.7	0.7	0.7
70歳代 (n=175)	65.1	20.0	22.9	30.3	11.4	17.7	12.0	10.3	1.1	0.6	1.1
80歳以上 (n=128)	67.2	22.7	15.6	39.8	4.7	14.1	7.0	13.3	1.6	0.8	0.0

調査結果

居住地域別 * 地域で協力して取り組む必要があること

居住地域別にみると、すべての地域で「高齢になっても安心して暮らせる環境づくり」が最も多くなっています。

東部では、「地域の防犯体制づくり」が40.5%、「地域の防災体制づくり」が30.4%で、いずれも地域別では最も多くなっています。

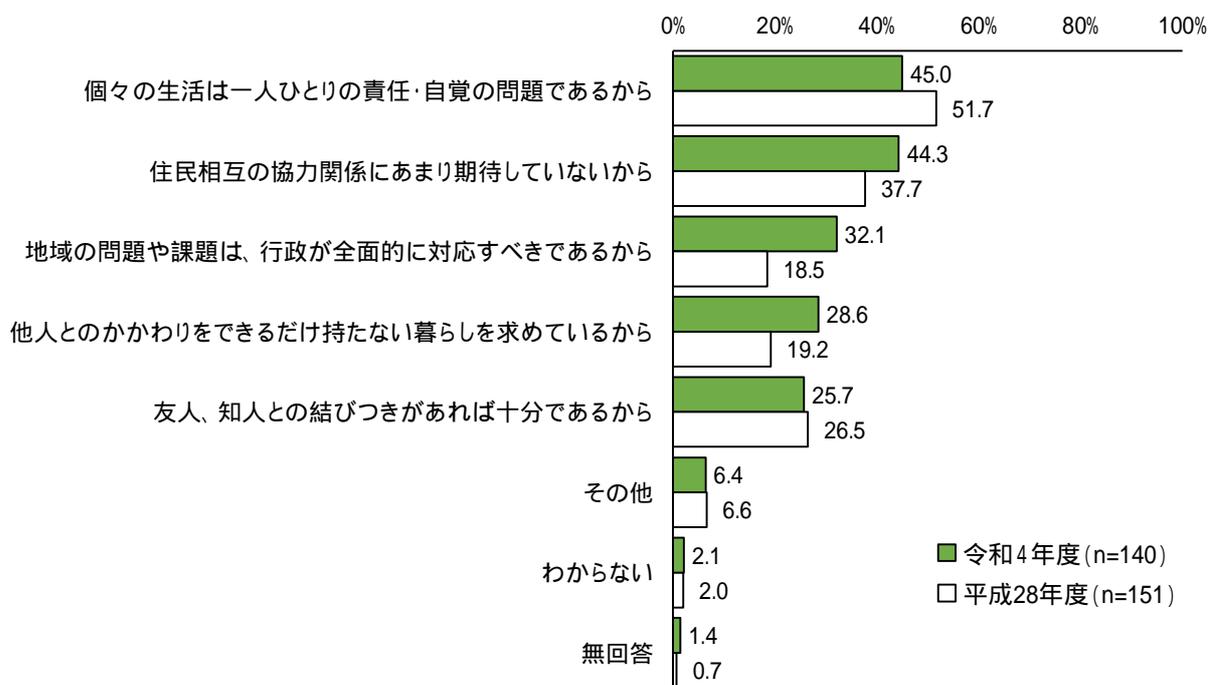
	高齢になっても安心して暮らせる環境づくり	地域の防犯体制づくり	地域の防災体制づくり	自治会・町内会やボランティアなどの地域活動	子どもが安心して暮らせる環境づくり	気軽に運動できたり、健康づくりに関して学習できる環境づくり	多様な問題を抱える家庭を支援する協力体制づくり	障害があっても安心して暮らせる環境づくり	その他	わからない	無回答
全体 (n=864)	49.1	32.3	28.0	25.3	22.0	11.2	11.0	10.4	1.7	1.5	0.5
中央 (n=182)	48.4	34.6	29.1	22.0	24.2	7.1	12.6	13.2	2.2	1.6	0.5
西部 (n=134)	55.2	25.4	25.4	28.4	21.6	9.0	12.7	7.5	1.5	3.0	0.7
西南部 (n=155)	52.9	21.9	25.2	23.2	23.2	14.8	14.8	12.3	1.9	0.6	0.0
東部 (n=158)	44.9	40.5	30.4	25.9	17.1	14.6	7.0	11.4	0.6	0.6	0.6
東南部 (n=116)	42.2	37.9	26.7	27.6	28.4	10.3	8.6	8.6	2.6	0.9	0.0
北部 (n=84)	51.2	34.5	29.8	23.8	20.2	15.5	11.9	6.0	2.4	3.6	0.0

(11) 住民相互の協力関係が必要ない理由

問16で「3. あまり必要だと思わない」「4. ほとんど必要だと思わない」に つけた方
 問16 - 2 必要ないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに)

地域における住民相互の協力関係が必要ないと思う理由は、「個々の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題であるから」が45.0%で最も多く、以下「住民相互の協力関係にあまり期待していないから」が44.3%、「地域の問題や課題は、行政が全面的に対応すべきであるから」が32.1%、「他人とのかかわりをできるだけ持たない暮らしを求めているから」が28.6%、「友人、知人との結びつきがあれば十分であるから」が25.7%となっています。

前回の調査と比較すると、「地域の問題や課題は、行政が全面的に対応すべきであるから」が13.6ポイント増加、「他人とのかかわりをできるだけ持たない暮らしを求めているから」が9.4ポイント増加しています。

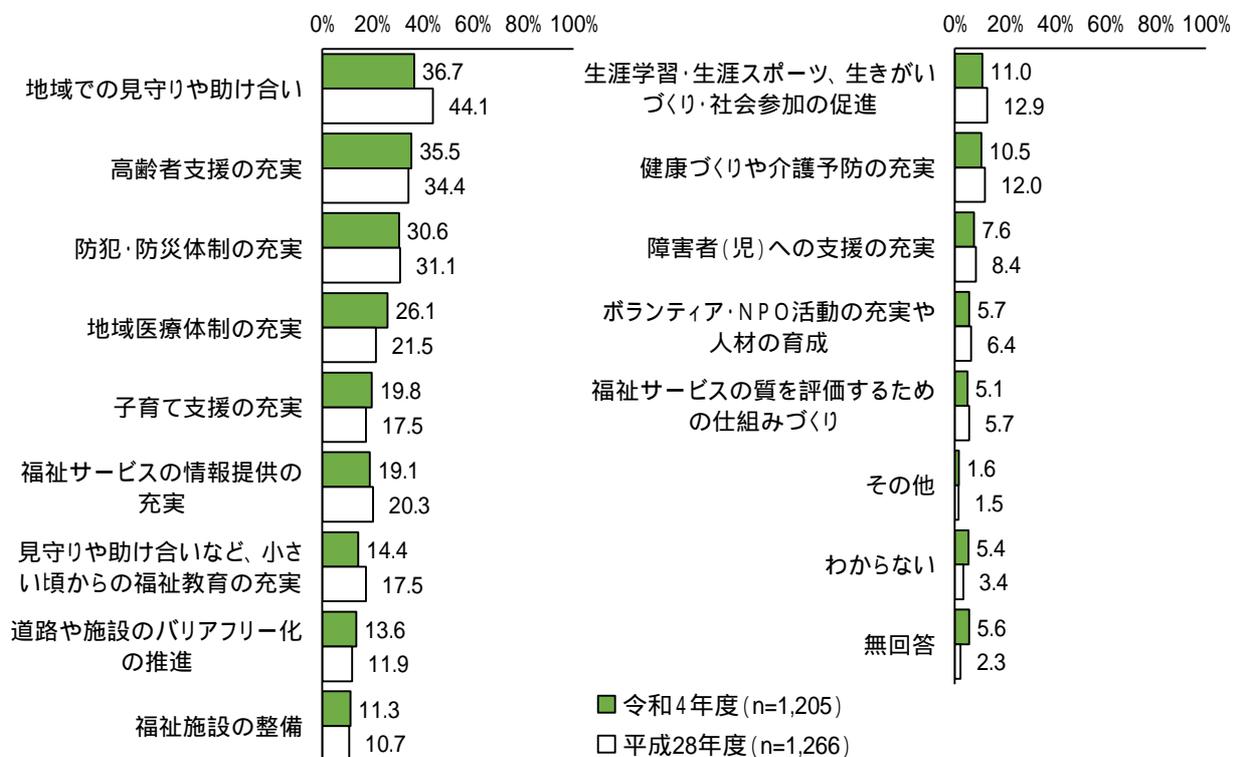


(12) 誰もが安心して暮らしていくために必要なこと

問17 あなたの地域で誰もが安心して暮らしていくために、必要なことは何だと思われますか。
(は3つまで)

誰もが安心して暮らしていくために必要なことは、「地域での見守りや助け合い」が36.7%で最も多く、以下「高齢者支援の充実」が35.5%、「防犯・防災体制の充実」が30.6%、「地域医療体制の充実」が26.1%、「子育て支援の充実」が19.8%、「福祉サービスの情報提供の充実」が19.1%などとなっています。

前回の調査と比較すると、「地域でも見守りや助け合い」が7.4ポイント減少していますが、最重要である位置づけは変わらず、他の項目は概ね同様の傾向がみられます。



年齢別 * 誰もが安心して暮らしていくために必要なこと

年齢別にみると、30歳未満と30歳代では、「子育て支援の充実」が最も多く、30歳代では56.6%を占めています。

40歳代では、「防犯・防災体制の充実」が最も多く、「地域での見守りや助け合い」、「子育て支援の充実」も同程度の割合となっています。

50歳代以上では、「高齢者支援の充実」が最も多くなっています。

60歳代以上では、「地域での見守りや助け合い」が第2位となっています。

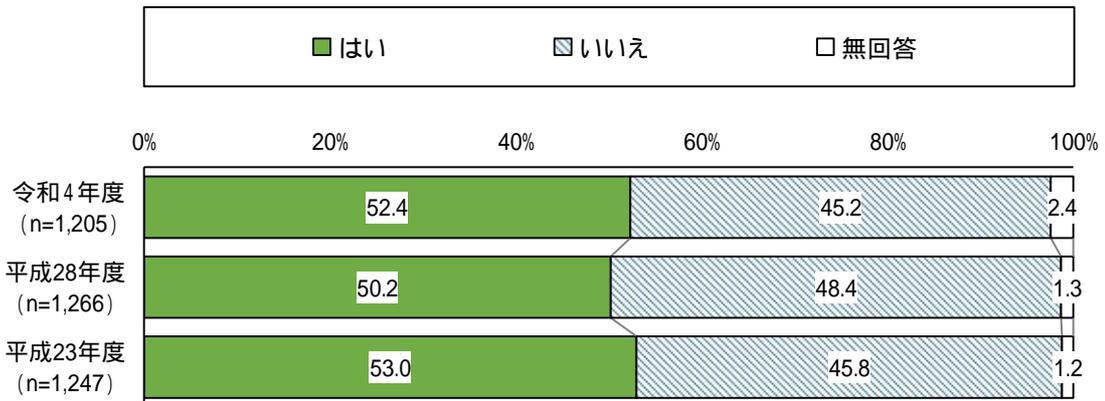
	地域での見守りや助け合い	高齢者支援の充実	防犯・防災体制の充実	地域医療体制の充実	子育て支援の充実	福祉サービスの情報提供の充実	小さい頃からの福祉教育の充実	見守りや助け合いなど、	道路や施設のバリアフリー化の推進	福祉施設の整備	生きがいつくり・社会参加の促進	生涯学習・生涯スポーツ、	健康づくりや介護予防の充実	障害者(児)への支援の充実	ボランティア・NPO活動の充実や 人材の育成	福祉サービスの質を評価するための 仕組みづくり	その他	わからない	無回答
全体 (n=1,205)	36.7	35.5	30.6	26.1	19.8	19.1	14.4	13.6	11.3	11.0	10.5	7.6	7.6	5.7	5.1	1.6	5.4	5.6	
30歳未満 (n=86)	26.7	8.1	34.9	20.9	46.5	11.6	17.4	24.4	4.7	10.5	5.8	7.0	7.0	7.0	1.2	2.3	8.1	4.7	
30歳代 (n=106)	38.7	20.8	36.8	29.2	56.6	8.5	17.0	12.3	9.4	7.5	6.6	8.5	4.7	2.8	0.9	5.7	5.7		
40歳代 (n=184)	33.7	26.6	34.8	26.1	33.2	13.6	16.3	16.3	9.2	7.6	6.5	9.2	7.6	5.4	2.7	7.1	3.8		
50歳代 (n=183)	30.1	35.0	34.4	34.4	14.8	23.0	14.2	13.7	14.8	10.9	9.3	7.7	5.5	7.1	1.6	4.9	4.9		
60歳代 (n=197)	38.6	41.1	35.0	27.9	10.7	27.9	8.6	12.7	11.7	12.2	8.6	7.6	6.6	7.1	2.5	3.0	5.6		
70歳代 (n=256)	42.6	48.4	24.6	18.0	9.4	19.5	16.0	10.9	11.3	14.1	14.5	8.6	6.6	5.1	0.8	4.3	6.6		
80歳以上 (n=185)	40.0	43.2	19.5	27.0	2.7	20.5	13.5	11.4	13.5	11.4	17.3	4.9	2.2	3.2	0.5	5.9	7.6		

3 地域活動への参加について

(1) 地域活動への参加の有無

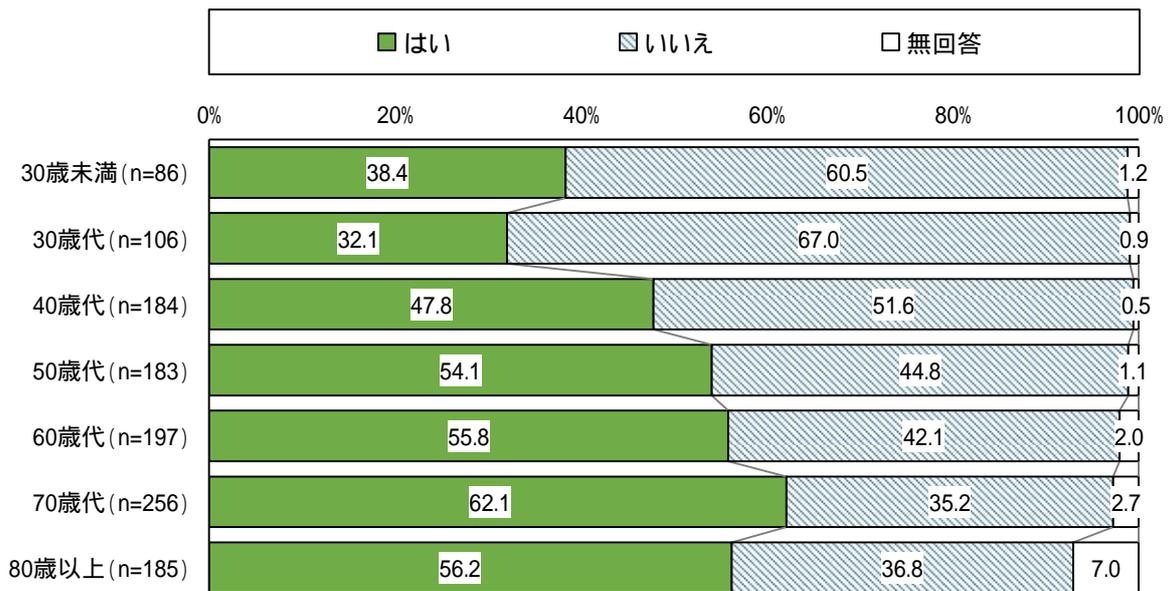
問18 あなたは、これまでに地域での活動に参加したことがありますか。(は1つ)

地域活動への参加について、「はい」が52.4%、「いいえ」が45.2%となっています。
これまでの調査から、大きな変化は見られません。



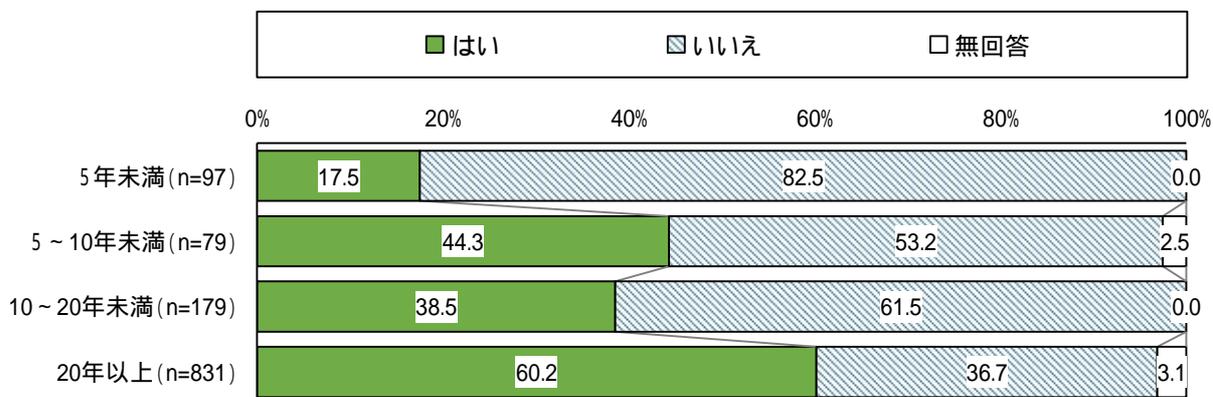
年齢別 * 地域活動への参加の有無

年齢別にみると、50歳代以上では過半数が「はい」と回答しており、70歳代では62.1%を占めています。



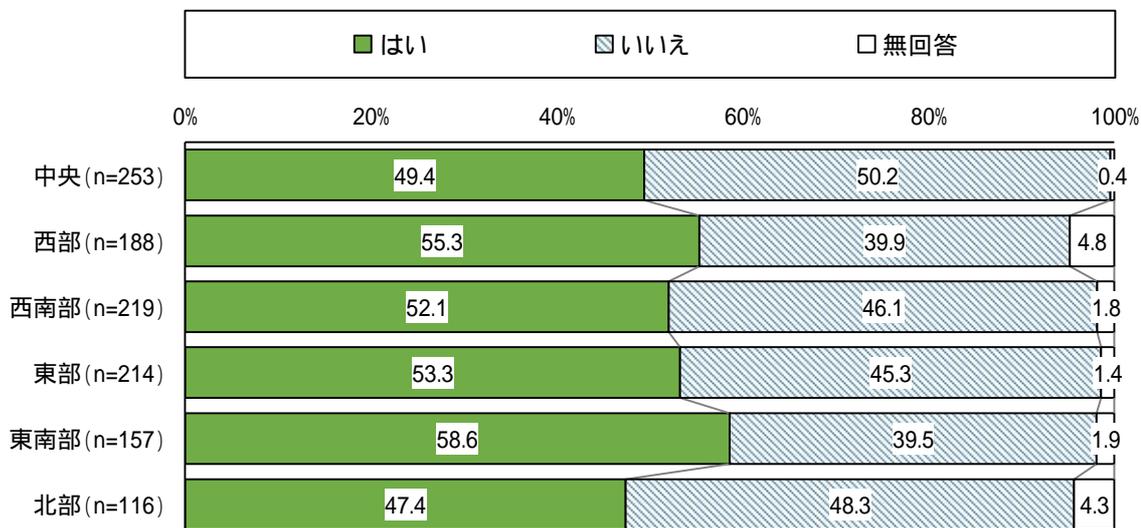
居住年数別 * 地域活動への参加の有無

居住年数別にみると、20年以上では「はい」が60.2%を占めているのに対し、5年未満では17.5%にとどまっています。



居住地域別 * 地域活動への参加の有無

居住地域別にみると、東南部では「はい」が58.6%で最も多くなっています。西部、西南部、東部においても「はい」が過半数を占めています。



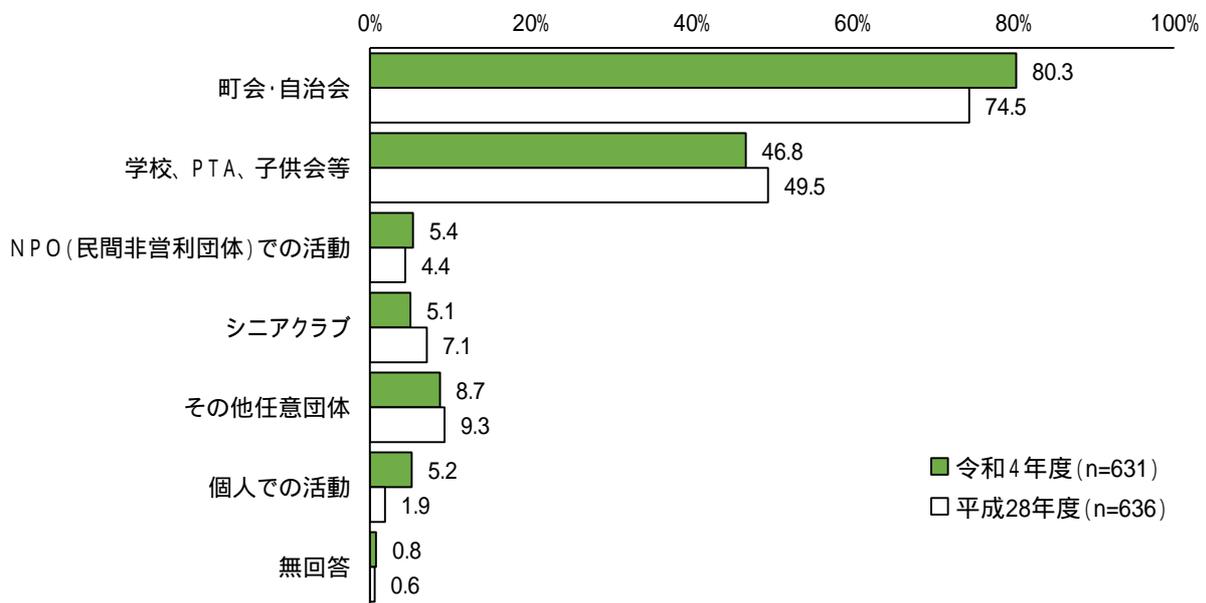
(2) 地域活動で参加した団体

問18で「1. はい」に つけた方

問18 - 1 どういった団体で活動されましたか。(あてはまるものすべてに)

地域活動として参加した団体は、「町会・自治会」が80.3%で最も多く、以下「学校、PTA、子供会等」が46.8%、「その他任意団体」が8.7%、「NPO(民間非営利団体)での活動」が5.4%、「個人での活動」が5.2%、「シニアクラブ」が5.1%となっています。

前回の調査と比較すると、「町会・自治会」が5.8ポイント増加しています。



年齢別 * 地域活動で参加した団体

年齢別にみると、「町会・自治会」は年齢が低いほど多くなる傾向がみられ、80歳以上では91.3%を占めています。「学校、PTA、子供会等」は40歳代で72.7%を占めています。

	町会・自治会	学校、PTA、子供会等	NPO(民間非営利団体)での活動	シニアクラブ	その他任意団体	個人での活動	無回答
全体 (n=631)	80.3	46.8	5.4	5.1	8.7	5.2	0.8
30歳未満 (n=33)	57.6	69.7	3.0	0.0	3.0	0.0	0.0
30歳代 (n=34)	73.5	41.2	0.0	0.0	5.9	8.8	0.0
40歳代 (n=88)	68.2	72.7	3.4	0.0	5.7	3.4	2.3
50歳代 (n=99)	75.8	62.6	10.1	1.0	6.1	4.0	0.0
60歳代 (n=110)	87.3	45.5	5.5	0.9	8.2	4.5	0.9
70歳代 (n=159)	84.3	32.7	6.9	7.5	11.3	6.9	1.3
80歳以上 (n=104)	91.3	26.9	2.9	17.3	13.5	6.7	0.0

居住地域別 * 地域活動で参加した団体

居住地域別にみると、すべての地域で「町会・自治会」が最も多くなっています。東部は71.1%で他の地域よりやや少なくなっています。

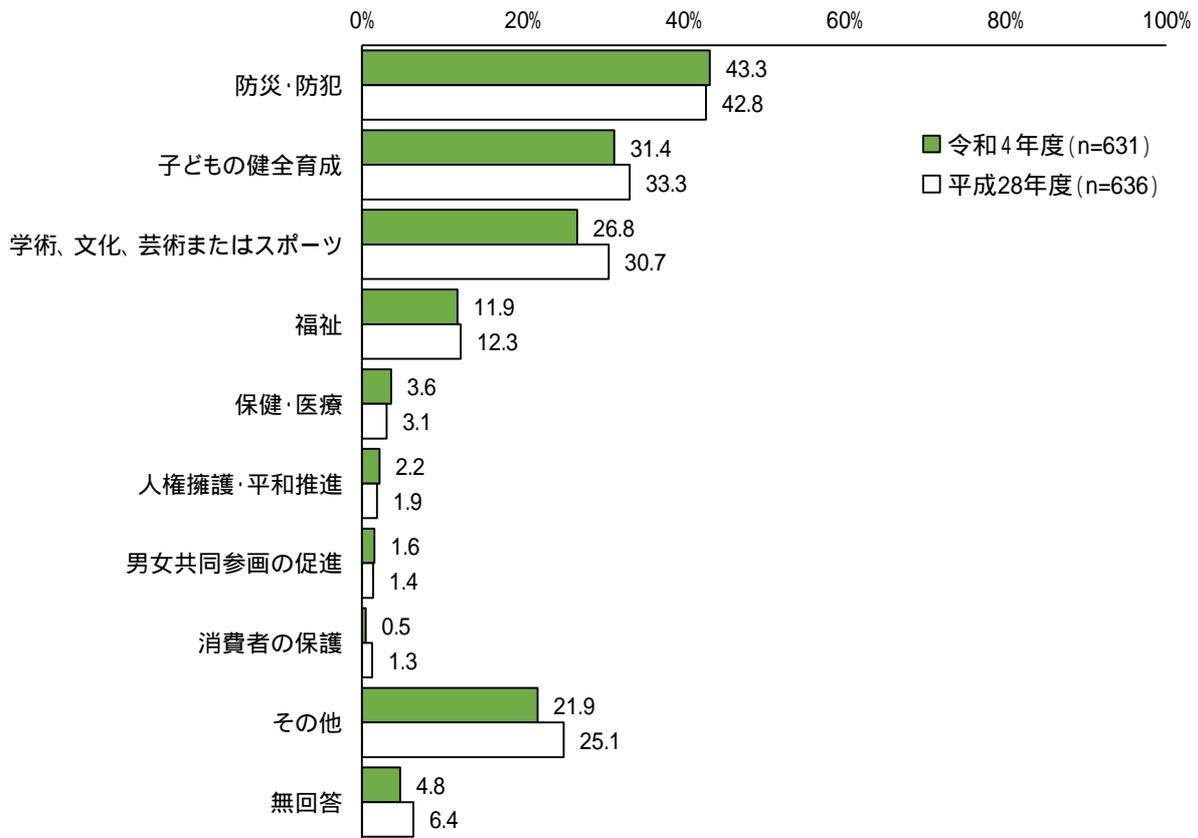
	町会・自治会	学校、PTA、子供会等	NPO(民間非営利団体)での活動	シニアクラブ	その他任意団体	個人での活動	無回答
全体 (n=631)	80.3	46.8	5.4	5.1	8.7	5.2	0.8
中央 (n=125)	82.4	39.2	4.8	2.4	15.2	6.4	1.6
西部 (n=104)	86.5	53.8	7.7	9.6	7.7	3.8	0.0
西南部 (n=114)	81.6	47.4	6.1	4.4	6.1	7.0	0.0
東部 (n=114)	71.1	46.5	9.6	5.3	7.9	5.3	0.0
東南部 (n=92)	81.5	53.3	1.1	3.3	4.3	3.3	1.1
北部 (n=55)	78.2	41.8	0.0	1.8	7.3	3.6	3.6

(3) 地域活動で参加した活動

問18で「1. はい」に つけた方
 問18 - 2 それはどのような活動ですか。(あてはまるものすべてに)

地域活動で参加した活動は、「防災・防犯」が43.3%で最も多く、以下「子どもの健全育成」が31.4%、「学術、文化、芸術またはスポーツ」が26.8%、「福祉」が11.9%などとなっています。

前回の調査から大きな変化は見られません。



年齢別 * 地域活動で参加した活動

年齢別にみると、30歳未満と30歳代では、「学術、文化、芸術またはスポーツ」が最も多くなっています。

40歳代では、「子どもの健全育成」が最も多く、次いで「防災・防犯」となっています。

50歳代より上の年齢では、いずれも「防災・防犯」が最も多くなっています。

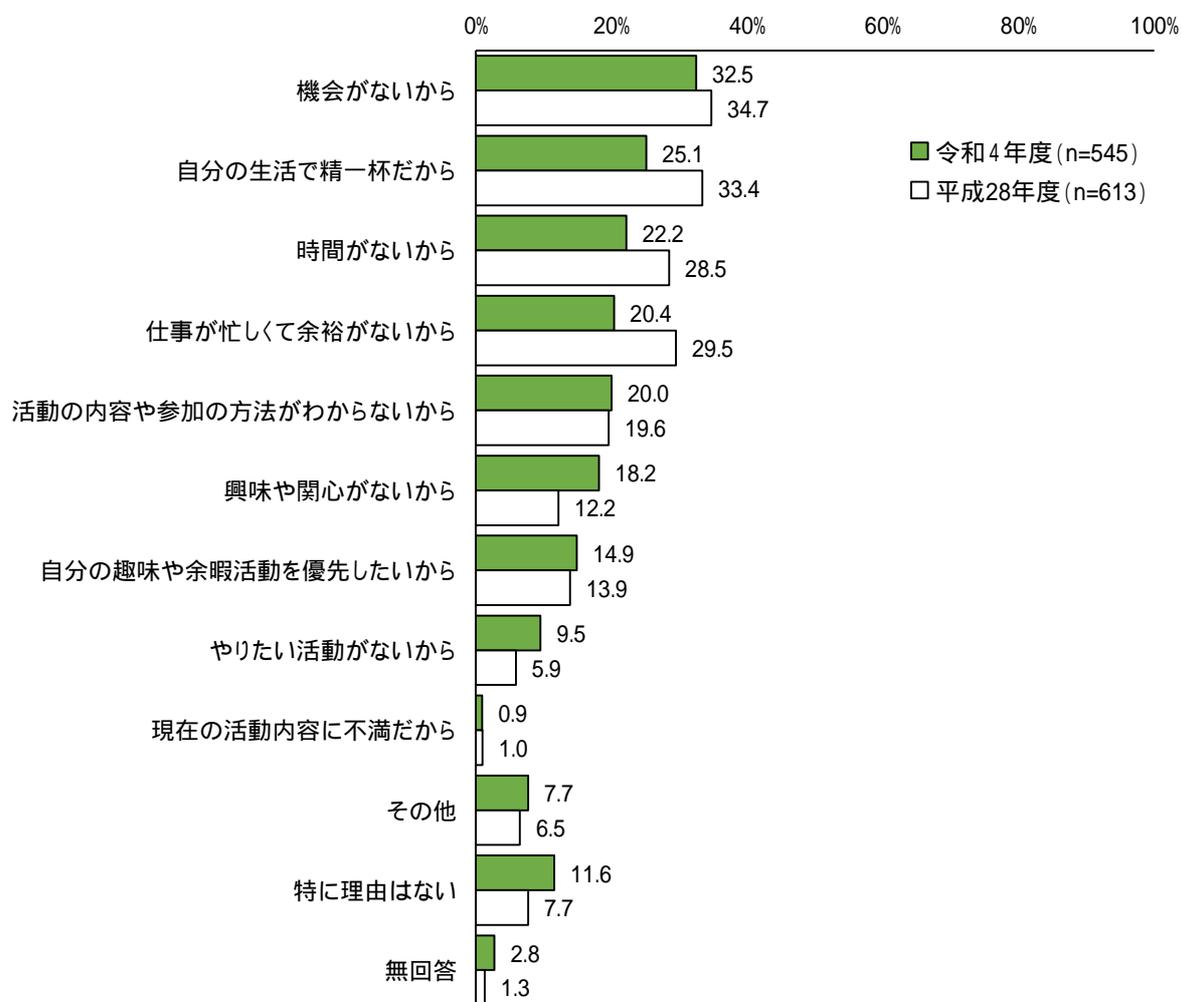
	防災・防犯	子どもの健全育成	学術、文化、芸術またはスポーツ	福祉	保健・医療	人権擁護・平和推進	男女共同参画の促進	消費者の保護	その他	無回答
全体 (n=631)	43.3	31.4	26.8	11.9	3.6	2.2	1.6	0.5	21.9	4.8
30歳未満 (n=33)	27.3	18.2	42.4	12.1	3.0	0.0	0.0	0.0	21.2	3.0
30歳代 (n=34)	17.6	23.5	41.2	11.8	2.9	5.9	2.9	0.0	32.4	2.9
40歳代 (n=88)	42.0	48.9	25.0	9.1	3.4	3.4	0.0	1.1	15.9	1.1
50歳代 (n=99)	48.5	44.4	23.2	13.1	4.0	2.0	0.0	0.0	19.2	1.0
60歳代 (n=110)	44.5	33.6	27.3	8.2	2.7	1.8	0.9	0.9	23.6	5.5
70歳代 (n=159)	47.8	22.6	20.1	11.9	2.5	1.3	3.8	0.6	22.6	8.8
80歳以上 (n=104)	43.3	21.2	32.7	17.3	6.7	2.9	1.9	0.0	24.0	5.8

(4) 地域活動に参加していない理由

問18で「2.いいえ」に つけた方
 問18 - 3 地域での活動に参加していないのはなぜですか。(あてはまるものすべてに)

地域活動に参加していない理由は、「機会がないから」が32.5%で最も多く、以下「自分の生活で精一杯だから」が25.1%、「時間がないから」が22.2%、「仕事が忙しくて余裕がないから」が20.4%、「活動の内容や参加の方法がわからないから」が20.0%、「興味や関心がないから」が18.2%などとなっています。

前回の調査と比較すると、「興味や関心がないから」が6.0ポイント増加しています。一方、「仕事が忙しくて余裕がないから」は9.1ポイント減少、「自分の生活で精一杯だから」は8.3ポイント減少しています。



年齢別 * 地域活動に参加していない理由

年齢別にみると、30歳未満では、「時間がないから」が最も多くなっています。

30歳代と50歳代、60歳代では、「機会がないから」が最も多くなっています。

40歳代では、「仕事が忙しくて余裕がないから」が最も多くなっています。

70歳代と80歳以上では、「自分の生活で精一杯だから」が最も多くなっています。

	機会がないから	自分の生活で精一杯だから	時間がないから	仕事が忙しくて余裕がないから	活動の内容や参加の方法がわからないから	興味や関心がないから	自分の趣味や余暇活動を優先したいから	やりたい活動がないから	現在の活動内容に不満だから	その他	特に理由はない	無回答
全体 (n=545)	32.5	25.1	22.2	20.4	20.0	18.2	14.9	9.5	0.9	7.7	11.6	2.8
30歳未満 (n=52)	30.8	28.8	32.7	28.8	21.2	28.8	11.5	9.6	0.0	0.0	5.8	0.0
30歳代 (n=71)	46.5	28.2	29.6	22.5	25.4	28.2	23.9	16.9	0.0	4.2	4.2	2.8
40歳代 (n=95)	31.6	25.3	30.5	35.8	22.1	15.8	17.9	8.4	2.1	6.3	8.4	1.1
50歳代 (n=82)	32.9	24.4	30.5	30.5	19.5	22.0	12.2	4.9	1.2	4.9	4.9	1.2
60歳代 (n=83)	43.4	25.3	20.5	13.3	21.7	7.2	12.0	6.0	1.2	10.8	6.0	3.6
70歳代 (n=90)	24.4	25.6	8.9	7.8	16.7	18.9	12.2	10.0	1.1	15.6	20.0	1.1
80歳以上 (n=68)	17.6	19.1	5.9	4.4	13.2	10.3	14.7	13.2	0.0	8.8	29.4	10.3

居住地域別 * 地域活動に参加していない理由

居住地域別にみると、すべての地域で「機会がないから」が最も多くなっています。西部では、「自分の生活で精一杯だから」と「興味や関心がないから」が同率で最も多くなっています。

	機会がないから	自分の生活で精一杯だから	時間がないから	仕事が忙しくて余裕がないから	活動の内容や参加の方法がわからないから	興味や関心がないから	自分の趣味や余暇活動を優先したいから	やりたい活動がないから	現在の活動内容に不満だから	その他	特に理由はない	無回答
全体 (n=545)	32.5	25.1	22.2	20.4	20.0	18.2	14.9	9.5	0.9	7.7	11.6	2.8
中央 (n=127)	30.7	23.6	24.4	25.2	16.5	20.5	14.2	10.2	1.6	7.9	10.2	3.1
西部 (n=75)	26.7	26.7	20.0	20.0	9.3	26.7	13.3	9.3	1.3	5.3	14.7	2.7
西南部 (n=101)	32.7	25.7	24.8	17.8	18.8	22.8	14.9	8.9	1.0	6.9	7.9	4.0
東部 (n=97)	40.2	23.7	15.5	14.4	29.9	10.3	20.6	9.3	0.0	4.1	11.3	1.0
東南部 (n=62)	32.3	24.2	25.8	27.4	19.4	17.7	16.1	9.7	0.0	14.5	11.3	3.2
北部 (n=56)	39.3	32.1	26.8	23.2	26.8	12.5	12.5	8.9	0.0	7.1	7.1	3.6

(5) 地域活動に参加したいと思う条件や内容

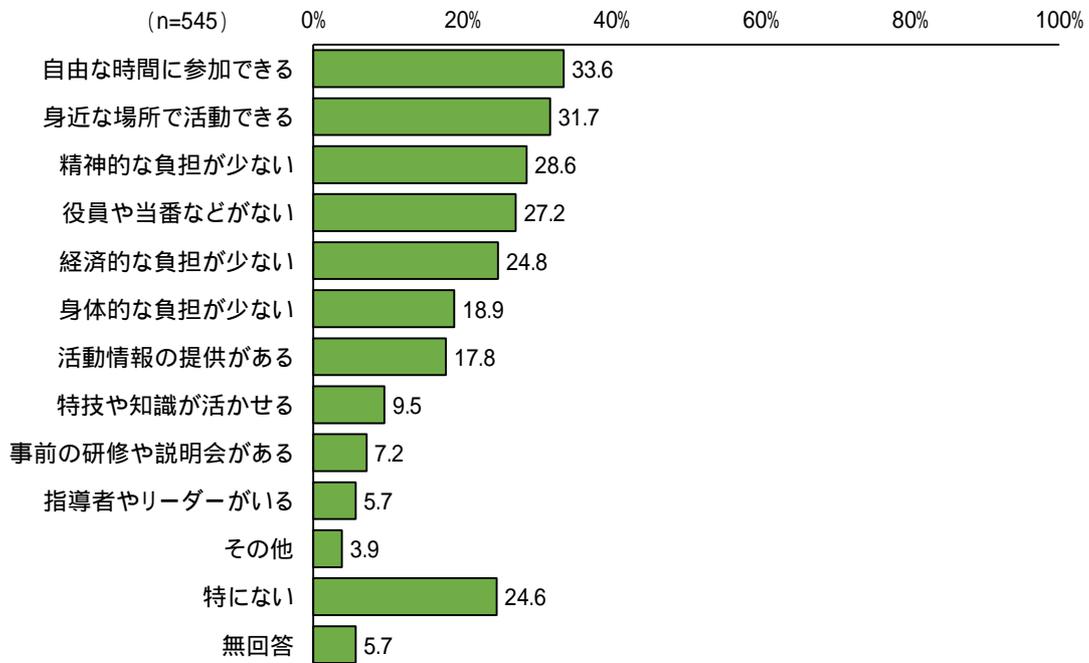
問18で「2.いいえ」に つけた方

問18 - 4 どのような条件や内容であれば、地域活動に参加したいと思いますか。

(あてはまるものすべてに)

地域活動に参加したいと思う条件や内容は、「自由な時間に参加できる」が33.6%で最も多く、以下「身近な場所で活動できる」が31.7%、「精神的な負担が少ない」が28.6%、「役員や当番などがいない」が27.2%、「経済的な負担が少ない」が24.8%、「身体的な負担が少ない」が18.9%などとなっています。

なお、「特にない」は24.6%となっています。



年齢別 * 地域活動に参加したいと思う条件や内容

年齢別にみると、年齢が低いほど「自由な時間に参加できる」が多くなる傾向がみられ、30歳未満と40歳代、50歳代では最も多くなっています。

また、50歳代では、「精神的な負担が少ない」が同率で最も多く、「精神的な負担が少ない」は30歳未満から60歳代で比較的多くなっています。60歳代では、「役員や当番などがいない」が最も多く、「精神的な負担が少ない」と同様に30歳未満から60歳代で比較的多くなっています。

70歳代と80歳以上では、「身近な場所で活動できる」が最も多くなっています。

	自由な時間に参加できる	身近な場所で活動できる	精神的な負担が少ない	役員や当番などがいない	経済的な負担が少ない	身体的な負担が少ない	活動情報の提供がある	特技や知識が活かせる	事前の研修や説明会がある	指導者やリーダーがいる	その他	特にない	無回答
全体 (n=545)	33.6	31.7	28.6	27.2	24.8	18.9	17.8	9.5	7.2	5.7	3.9	24.6	5.7
30歳未満 (n=52)	42.3	36.5	34.6	25.0	34.6	21.2	23.1	5.8	5.8	7.7	3.8	26.9	0.0
30歳代 (n=71)	36.6	40.8	33.8	32.4	31.0	26.8	15.5	8.5	5.6	2.8	5.6	18.3	2.8
40歳代 (n=95)	38.9	23.2	28.4	37.9	22.1	14.7	17.9	10.5	6.3	4.2	5.3	24.2	3.2
50歳代 (n=82)	35.4	32.9	35.4	30.5	28.0	19.5	25.6	18.3	3.7	9.8	2.4	24.4	4.9
60歳代 (n=83)	38.6	36.1	39.8	43.4	38.6	20.5	15.7	10.8	9.6	7.2	1.2	13.3	4.8
70歳代 (n=90)	25.6	31.1	17.8	10.0	13.3	15.6	16.7	6.7	7.8	5.6	4.4	31.1	6.7
80歳以上 (n=68)	19.1	25.0	10.3	8.8	7.4	16.2	10.3	4.4	10.3	2.9	4.4	35.3	16.2

調査結果

居住地域別 * 地域活動に参加したいと思う条件や内容

居住地域別にみると、東部、北部では「身近な場所で活動できる」が最も多く、他の地域より10ポイント以上の差があります。

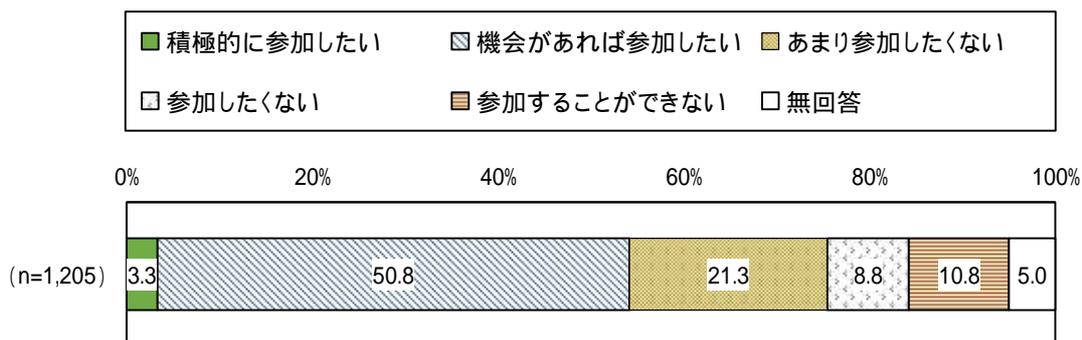
西部、西南部、東南部では、「自由な時間に参加できる」が最も多く、中央では「精神的な負担が少ない」が最も多くなっています。

	自由な時間に参加できる	身近な場所で活動できる	精神的な負担が少ない	役員や当番などがいない	経済的な負担が少ない	身体的な負担が少ない	活動情報の提供がある	特技や知識が活かせる	事前の研修や説明会がある	指導者やリーダーがいる	その他	特にない	無回答
全体 (n=545)	33.6	31.7	28.6	27.2	24.8	18.9	17.8	9.5	7.2	5.7	3.9	24.6	5.7
中央 (n=127)	29.1	26.8	36.2	29.1	31.5	18.9	15.0	9.4	3.9	4.7	3.9	27.6	1.6
西部 (n=75)	28.0	22.7	24.0	22.7	12.0	21.3	12.0	5.3	4.0	1.3	2.7	28.0	9.3
西南部 (n=101)	38.6	29.7	28.7	25.7	22.8	15.8	23.8	14.9	12.9	11.9	2.0	24.8	5.0
東部 (n=97)	40.2	43.3	26.8	35.1	30.9	16.5	20.6	10.3	5.2	3.1	1.0	19.6	5.2
東南部 (n=62)	32.3	29.0	22.6	22.6	21.0	21.0	16.1	4.8	4.8	3.2	11.3	27.4	6.5
北部 (n=56)	37.5	44.6	30.4	25.0	26.8	25.0	23.2	12.5	10.7	10.7	5.4	16.1	5.4

(6) 今後の地域活動への参加

問19 あなたは今後、地域活動に参加したいと思いますか。(1つ)

今後の地域活動への参加について、「機会があれば参加したい」が50.8%で最も多く、以下「あまり参加したくない」が21.3%、「参加することができない」が10.8%、「参加したくない」が8.8%、「積極的に参加したい」が3.3%となっています。

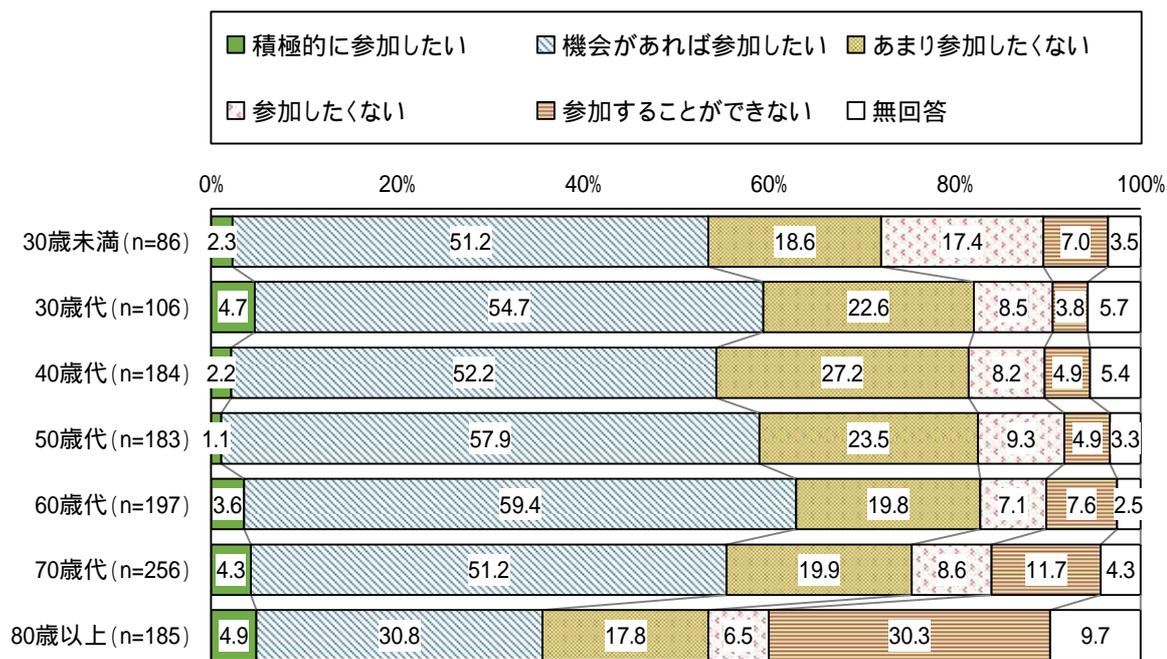


年齢別 * 今後の地域活動への参加

年齢別にみると、30歳未満から70歳代までは過半数が参加意向(積極的に参加したい+機会があれば参加したい)を示しています。

一方で、80歳以上では、30.3%が「参加することができない」と回答しています。

30歳未満では、「参加したくない」が17.4%で他の年齢より多くなっています。



4 地域防災について

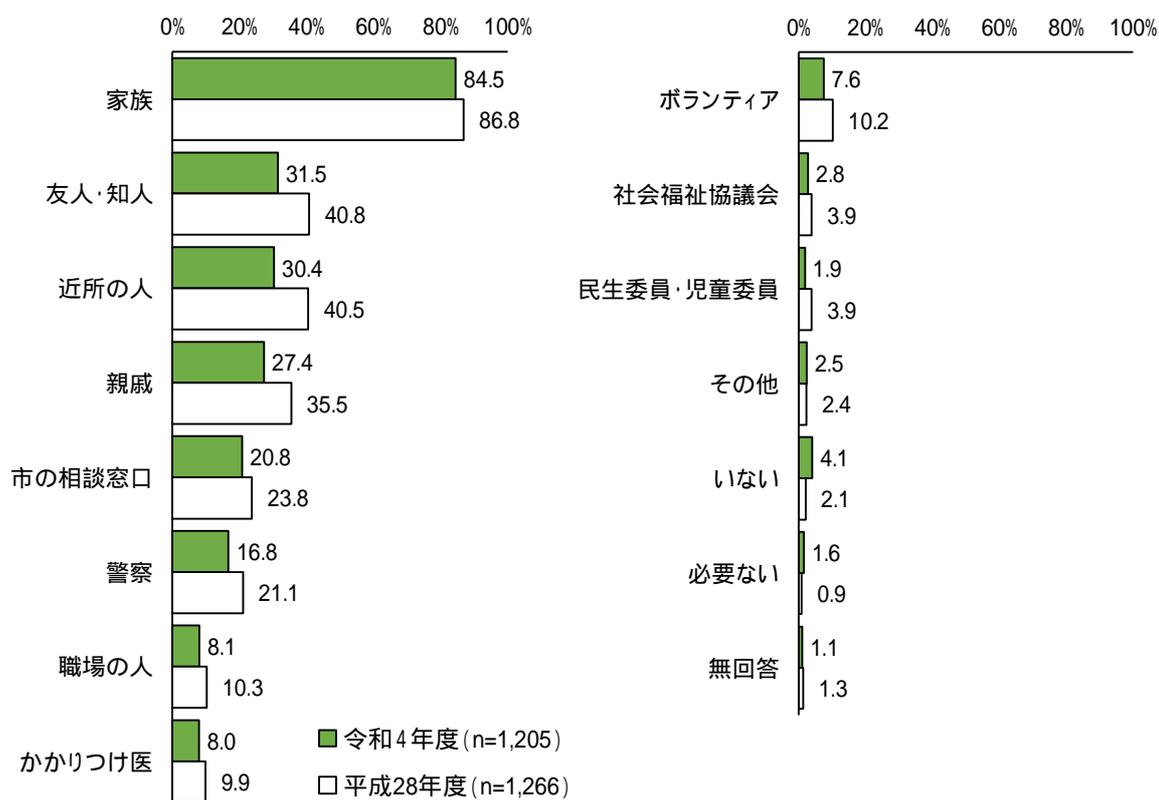
(1)大規模災害等の発生時に頼りにしている人

問20 大規模災害等が発生した時、あなたは誰を頼りにしていますか。
(あてはまるものすべてに)

大規模災害等の発生時に頼りにしている人は、「家族」が84.5%で最も多く、以下「友人・知人」が31.5%、「近所の人」が30.4%、「親戚」が27.4%、「市の相談窓口」が20.8%、「警察」が16.8%などとなっています。

前回の調査と比較すると、全体的に割合が低くなっており、「近所の人」が10.1ポイント減少、「友人・知人」が9.3ポイント減少、「親戚」が8.1ポイント減少しています。

なお、「いない」は4.1%となっています。



年齢別 * 大規模災害等の発生時に頼りにしている人

年齢別にみると、すべての年齢で「家族」が大半を占めています。年齢が高いほど「友人・知人」が少なくなる一方で、「近所の人」や「市の相談窓口」、「かかりつけ医」などが多くなる傾向がみられます。

	家族	友人・知人	近所の人	親戚	市の相談窓口	警察	職場の人	かかりつけ医	ボランティア	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	その他	いない	必要ない	無回答
全体 (n=1,205)	84.5	31.5	30.4	27.4	20.8	16.8	8.1	8.0	7.6	2.8	1.9	2.5	4.1	1.6	1.1
30歳未満 (n=86)	84.9	43.0	12.8	20.9	8.1	14.0	16.3	1.2	4.7	2.3	0.0	3.5	2.3	2.3	1.2
30歳代 (n=106)	86.8	35.8	19.8	29.2	13.2	14.2	17.9	6.6	4.7	0.9	0.9	4.7	1.9	1.9	0.9
40歳代 (n=184)	88.0	34.8	22.8	32.1	15.2	15.8	10.3	4.9	8.7	2.2	0.0	1.6	4.3	2.7	0.0
50歳代 (n=183)	86.9	37.2	27.9	25.1	20.8	21.3	15.3	3.3	11.5	3.3	1.6	2.7	2.7	1.6	0.0
60歳代 (n=197)	86.8	34.5	26.9	29.4	23.9	16.8	6.1	6.1	6.6	1.0	0.0	1.5	7.1	1.5	0.0
70歳代 (n=256)	78.9	26.6	41.4	26.2	26.6	14.8	1.6	10.2	7.0	3.9	2.0	2.7	4.3	1.2	1.6
80歳以上 (n=185)	82.2	18.4	43.2	25.9	24.9	18.9	0.5	19.5	7.0	4.3	7.6	2.2	3.8	0.0	3.8

同居者別 * 大規模災害等の発生時に頼りにしている人

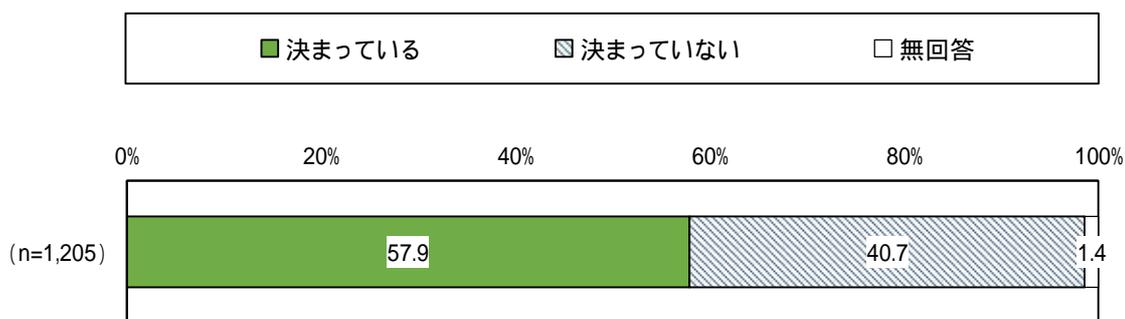
同居者別にみると、家族と同居している場合は「家族」が大半を占めていますが、ひとり暮らしでは58.1%にとどまっています。

	家族	友人・知人	近所の人	親戚	市の相談窓口	警察	職場の人	かかりつけ医	ボランティア	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	その他	いない	必要ない	無回答
全体 (n=1,205)	84.5	31.5	30.4	27.4	20.8	16.8	8.1	8.0	7.6	2.8	1.9	2.5	4.1	1.6	1.1
ひとり暮らし (n=191)	58.1	35.1	26.2	15.7	20.9	15.7	9.9	9.9	8.9	3.7	4.2	1.6	9.9	3.1	2.1
あなたの配偶者 (n=761)	91.9	29.4	32.6	31.1	22.2	16.6	6.2	8.1	7.2	3.0	1.3	1.6	2.6	0.9	0.5
あなたの子ども (n=480)	92.5	30.6	31.9	33.5	20.2	16.0	8.5	6.7	7.7	1.9	1.0	1.7	1.5	1.3	1.0
あなたの親 (n=119)	87.4	33.6	25.2	19.3	20.2	21.8	17.6	6.7	8.4	2.5	2.5	5.9	7.6	0.0	0.8
あなたの祖父・祖母 (n=57)	84.2	36.8	28.1	26.3	3.5	14.0	10.5	3.5	5.3	1.8	0.0	3.5	3.5	1.8	0.0

(2) 災害時の避難場所

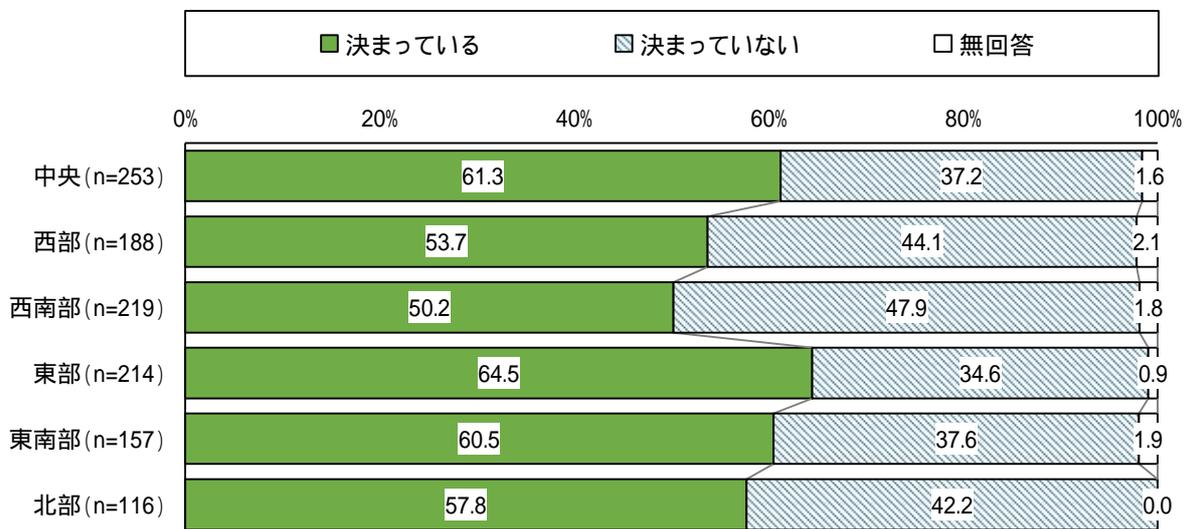
問21 あなたは災害時の避難場所が決まっていますか。(は1つ)

災害時の避難場所は、「決まっている」が57.9%、「決まっていない」が40.7%となっています。



居住地域別 * 災害時の避難場所

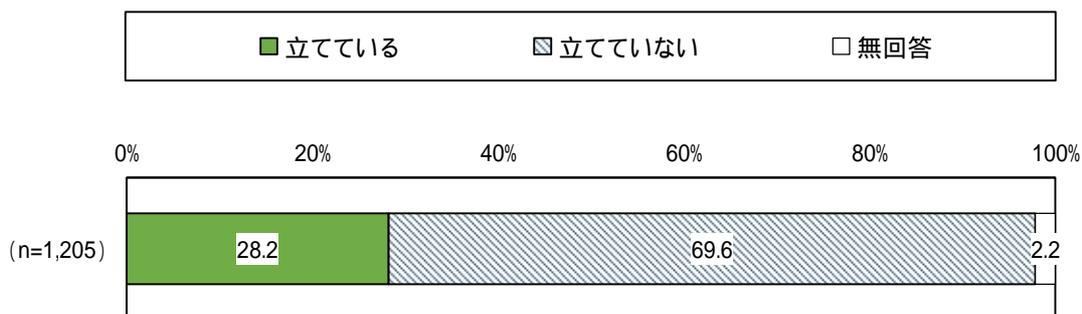
居住地域別にみると、中央、東部、東南部では、「決まっている」が60%を超えています。一方で、西部は53.7%、西南部は50.2%となっており、やや地域差がみられます。



(3) 避難時の行動計画

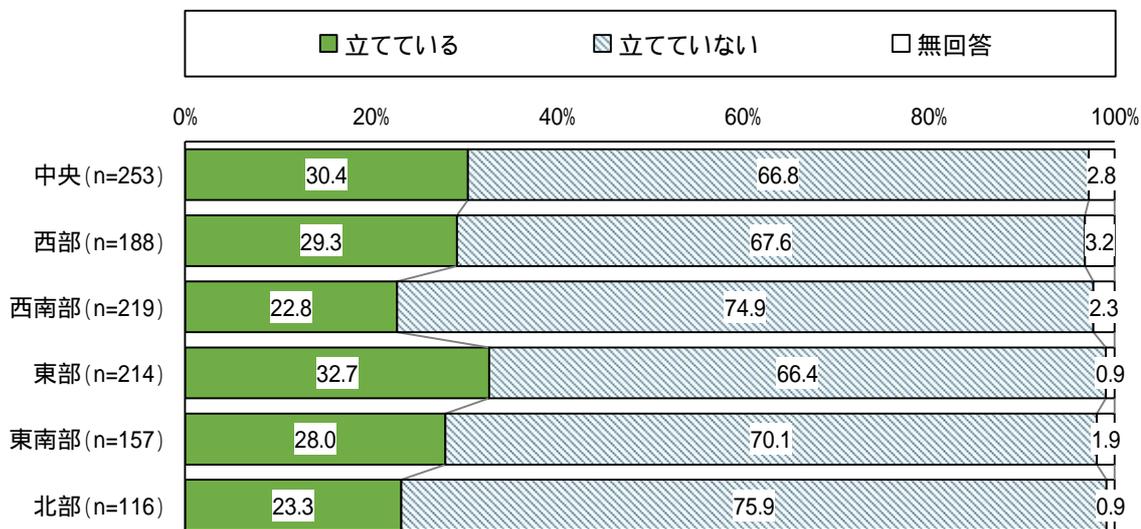
問22 あなたは避難時の行動について計画を立てていますか。(は1つ)

避難時の行動計画は、「立てていない」が69.6%、「立てている」が28.2%となっています。



居住地域別 * 避難時の行動計画

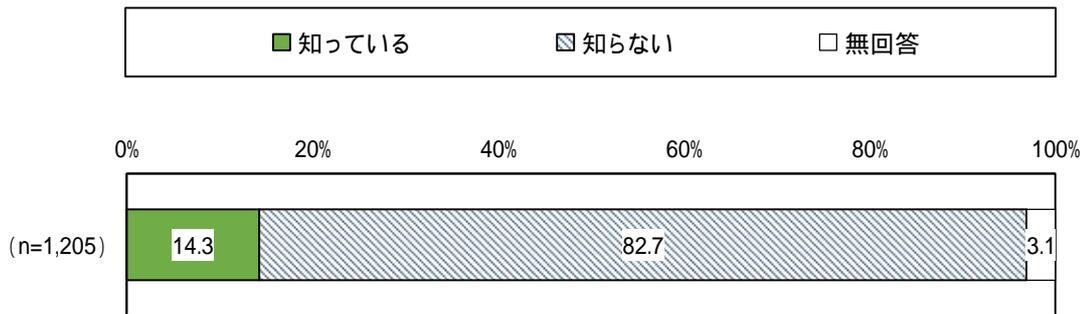
居住地域別にみると、中央と東部では、「立てている」が30%を超えています。一方で、北部は23.3%、西南部は22.8%となっており、やや地域差がみられます。



(4) 緊急時に支援が必要な近所の人

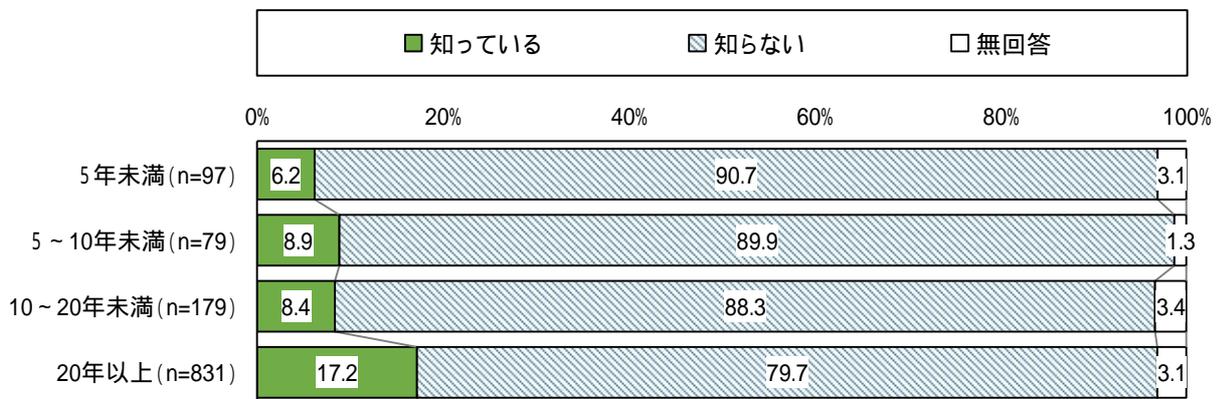
問23 あなたは緊急時に支援が必要な近所の人を知っていますか。(は1つ)

緊急時に支援が必要な近所の方は、「知らない」が82.7%、「知っている」が14.3%となっています。



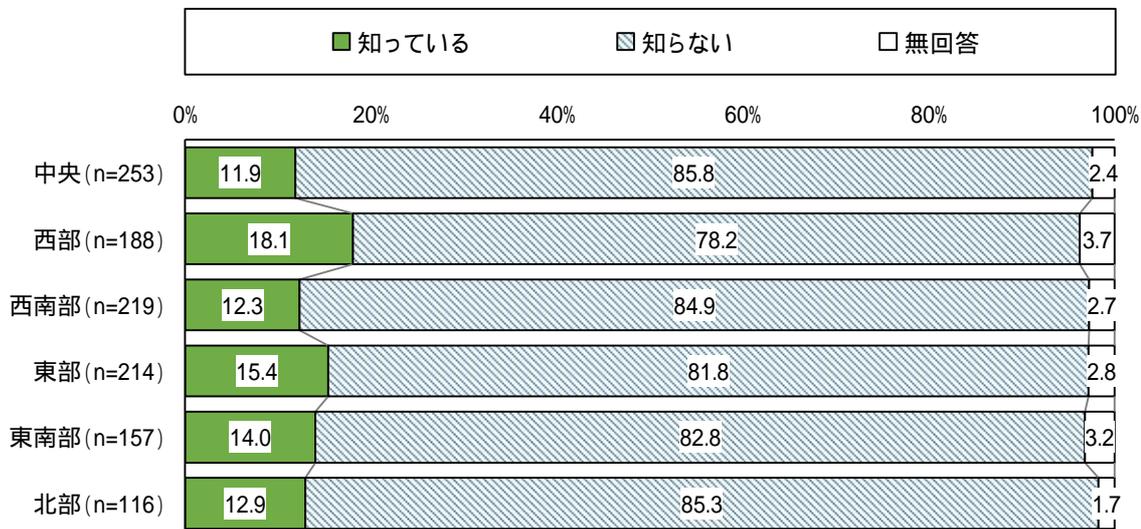
居住年数別 * 緊急時に支援が必要な近所の人

居住年数別にみると、20年以上では17.2%が「知っている」と回答しています。



居住地域別 * 緊急時に支援が必要な近所の人

居住地域別にみると、すべての地域で80%前後が「知らない」と回答しています。



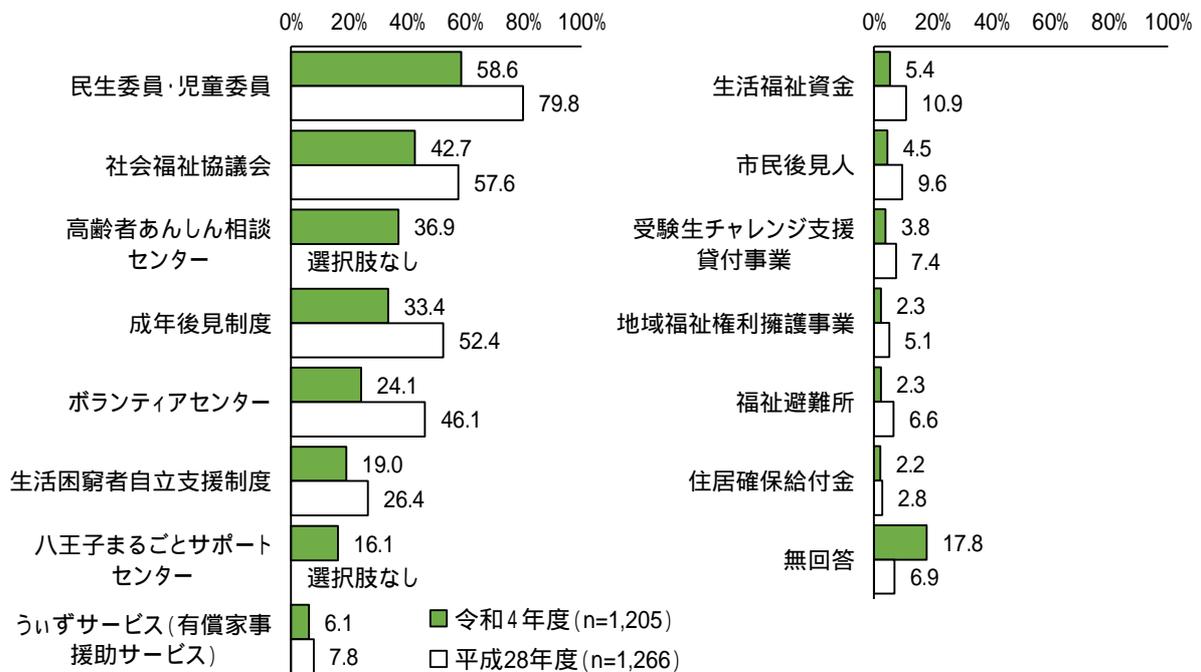
5 市の福祉施策や制度、サービスについて

(1) 福祉にかかわる制度や言葉の認知度

問24 あなたは、次に挙げるような福祉にかかわる制度や言葉の中で、どれを知っていますか。
(あてはまるものすべてに)

福祉にかかわる制度や言葉の認知度は、「民生委員・児童委員」が58.6%で最も多く、以下「社会福祉協議会」が42.7%、「高齢者あんしん相談センター」が36.9%、「成年後見制度」が33.4%、「ボランティアセンター」が24.1%、「生活困窮者自立支援制度」が19.0%などとなっています。

前回の調査と比較すると、全体的に割合が低くなっており、特に「ボランティアセンター」が22.0ポイント減少、「民生委員・児童委員」が21.2ポイント減少、「成年後見制度」が19.0ポイント減少しています。



年齢別 * 福祉にかかわる制度や言葉の認知度

年齢別にみると、認知度が上位である「民生委員・児童委員」、「社会福祉協議会」、「成年後見制度」、「ボランティアセンター」は年齢が高いほど多くなる傾向がみられ、いずれも60歳代で最も多くなっています。「高齢者あんしん相談センター」も同様の傾向がみられ、80歳以上では54.1%を占めています。

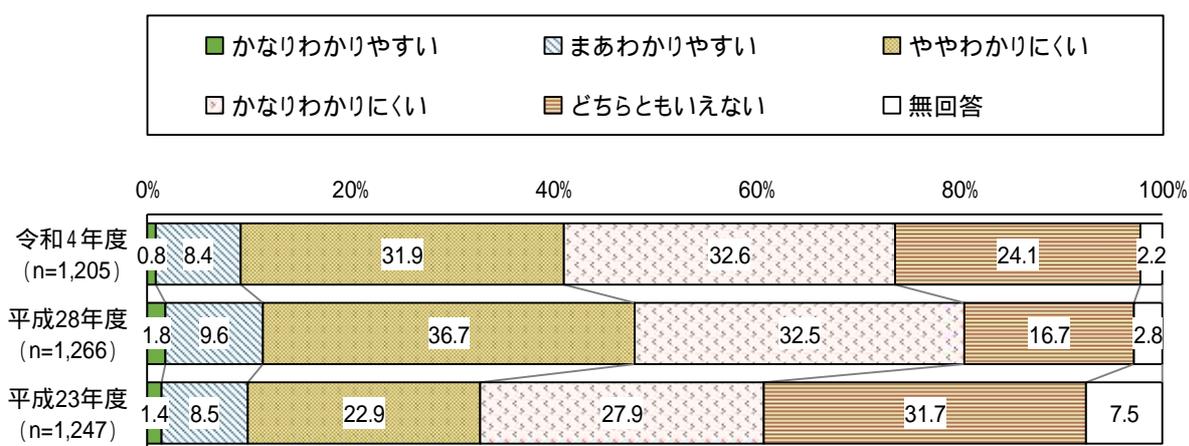
	民生委員・児童委員	社会福祉協議会	高齢者あんしん相談センター	成年後見制度	ボランティアセンター	生活困窮者自立支援制度	八王子まるごとサポートセンター	ういずサービス(有償家事援助サービス)	生活福祉資金	市民後見人	受験生チャレンジ支援貸付事業	地域福祉権利擁護事業	福祉避難所	住居確保給付金	無回答
全体 (n=1,205)	58.6	42.7	36.9	33.4	24.1	19.0	16.1	6.1	5.4	4.5	3.8	2.3	2.3	2.2	17.8
30歳未満 (n=86)	25.6	24.4	15.1	19.8	23.3	18.6	14.0	1.2	8.1	7.0	2.3	2.3	3.5	3.5	36.0
30歳代 (n=106)	41.5	32.1	22.6	31.1	19.8	30.2	12.3	2.8	6.6	3.8	0.9	1.9	2.8	3.8	29.2
40歳代 (n=184)	52.2	40.2	27.7	37.5	19.0	24.5	12.5	6.5	3.8	5.4	6.0	3.3	2.2	2.7	21.7
50歳代 (n=183)	63.4	47.5	37.7	39.9	27.9	20.8	19.7	7.7	5.5	6.0	11.5	2.2	3.8	3.8	13.7
60歳代 (n=197)	71.6	50.8	31.5	42.6	32.0	19.8	15.2	7.1	6.6	4.6	1.5	3.0	2.5	2.0	11.2
70歳代 (n=256)	65.6	48.0	48.8	32.8	28.1	16.0	19.5	9.0	6.6	4.7	2.0	2.7	0.4	0.4	13.3
80歳以上 (n=185)	62.7	40.0	54.1	22.2	14.1	9.7	16.2	3.2	2.2	0.5	0.5	0.5	2.7	1.1	16.2

(2) 福祉サービスや制度の仕組みのわかりやすさ

問25 あなたにとって、福祉サービスや制度の仕組みはわかりやすいですか。(は1つ)

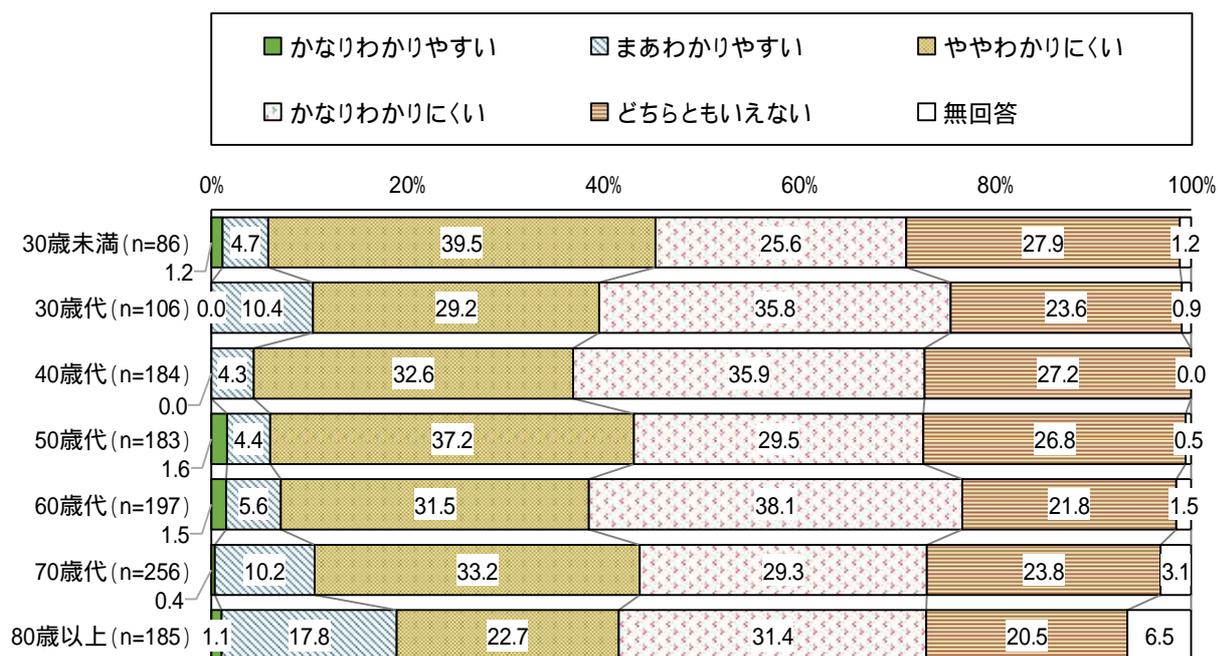
福祉サービスや制度の仕組みは、「かなりわかりにくい」が32.6%で最も多く、以下「ややわかりにくい」が31.9%、「どちらともいえない」が24.1%、「まあわかりやすい」が8.4%、「かなりわかりやすい」が0.8%となっています。

前回の調査と比較すると、「ややわかりにくい」が4.8ポイント減少していますが、依然として半数以上がわかりにくい(かなりわかりにくい+ややわかりにくい)と回答しています。



年齢別 * 福祉サービスや制度の仕組みのわかりやすさ

年齢別にみると、年齢が高くなるほど「まあわかりやすい」が多くなる傾向がみられますが、すべての年齢で半数以上がわかりにくい(かなりわかりにくい+ややわかりにくい)と回答しています。

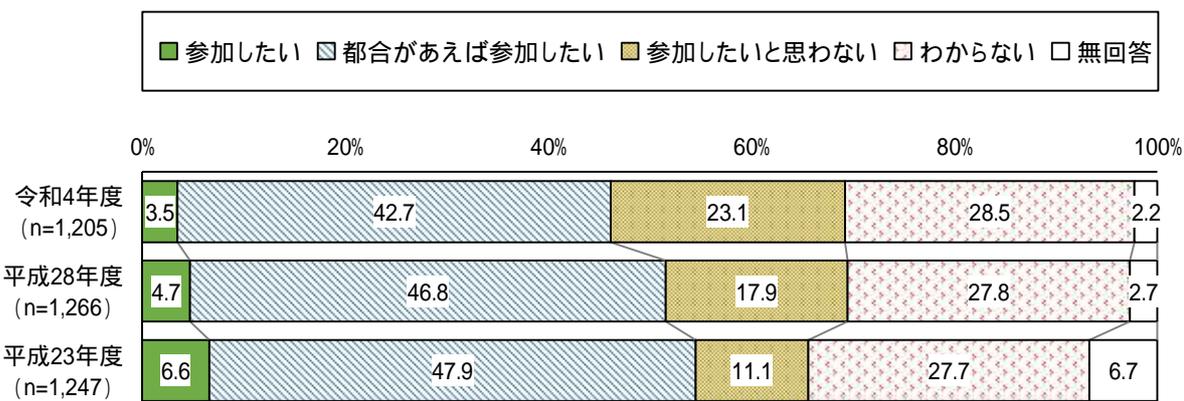


(3) 福祉に関する講習や説明会への参加希望

問26 あなたは、今後福祉に関する講習や説明会などに参加したいと思いますか。(1は1つ)

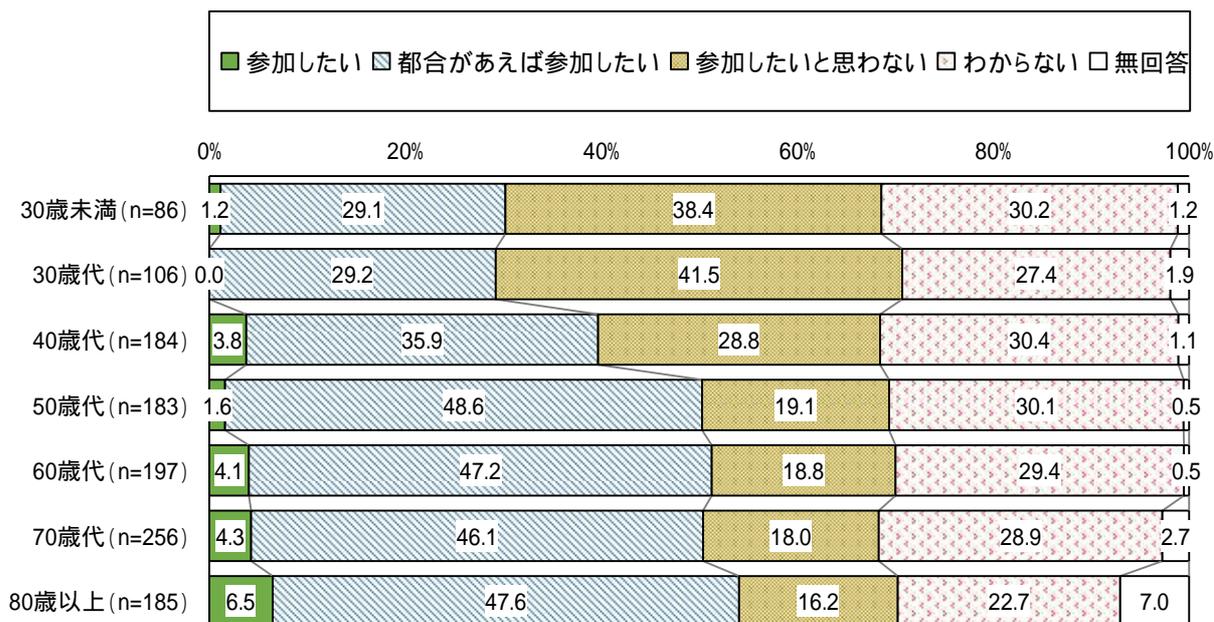
「都合があれば参加したい」が42.7%で最も多く、以下「わからない」が28.5%、「参加したいと思わない」が23.1%、「参加したい」が3.5%となっています。

これまでの調査と比較すると、参加希望は少なくなっており、前回の調査からは、「参加したいと思わない」が5.2ポイント増加、前々回の調査からは12.0ポイント増加しています。



年齢別 * 福祉に関する講習や説明会への参加希望

年齢別にみると、年齢が高くなるほど「参加したいと思わない」が少なくなり、「参加したい」が多くなる傾向がみられます。

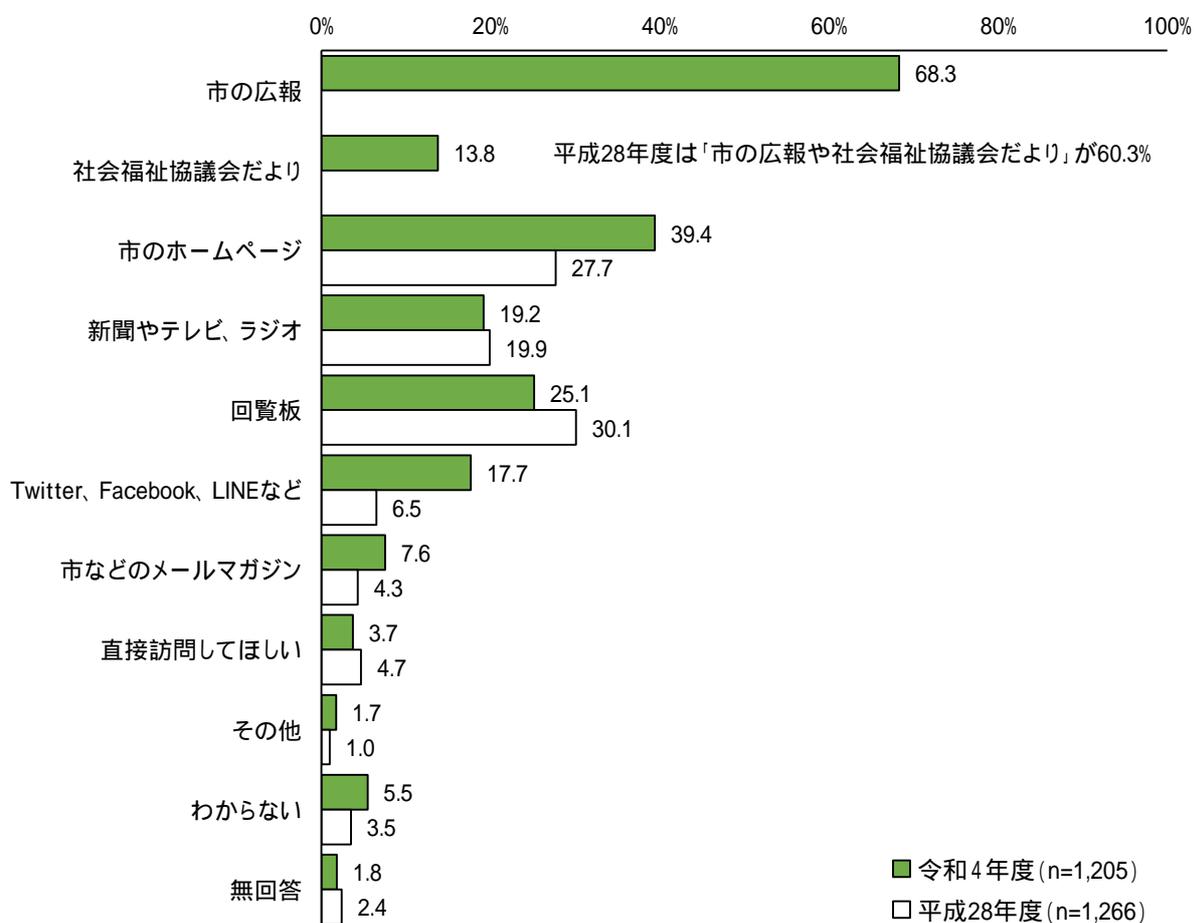


(4) 希望する福祉の情報の入手手段

問27 あなたは、福祉の情報をどのように得たいと思いますか。(あてはまるものすべてに)

希望する福祉の情報の入手手段は、「市の広報」が68.3%で最も多く、以下「市のホームページ」が39.4%、「回覧板」が25.1%、「新聞やテレビ、ラジオ」が19.2%、「Twitter、Facebook、LINEなど」が17.7%、「社会福祉協議会だより」が13.8%などとなっています。

前回の調査と比較すると、「市のホームページ」が11.7ポイント増加、「Twitter、Facebook、LINEなど」が11.2ポイント増加しています。



年齢別 * 希望する福祉の情報の入手手段

年齢別にみると、40歳以上では、「市の広報」が最も多く、特に70歳代では82.4%を占めています。

30歳未満では、「Twitter、Facebook、LINEなど」が46.5%で最も多くなっています。「Twitter、Facebook、LINEなど」は、年齢が低いほど割合が高くなっています。

30歳代では、「市のホームページ」が53.8%で最も多くなっています。「市のホームページ」は、40歳代と50歳代においても過半数を占めています。

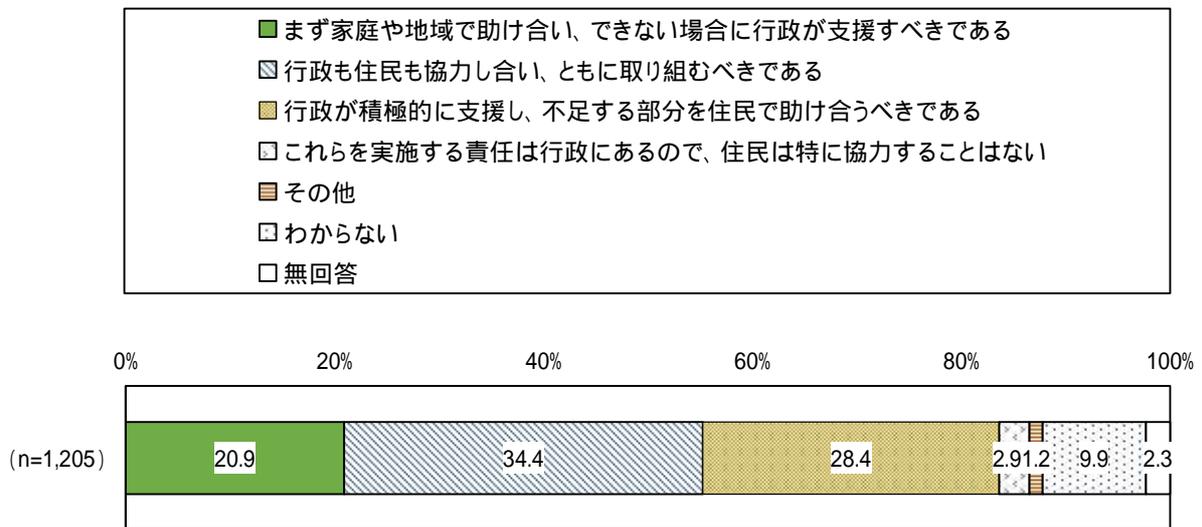
「回覧板」や「新聞やテレビ、ラジオ」、「社会福祉協議会だより」は年齢が高いほど多くなる傾向がみられます。

	市の広報	市のホームページ	回覧板	新聞やテレビ、ラジオ	Twitter、Facebook、LINE など	社会福祉協議会だより	市などのメールマガジン	直接訪問してほしい	その他	わからない	無回答
全体 (n=1,205)	68.3	39.4	25.1	19.2	17.7	13.8	7.6	3.7	1.7	5.5	1.8
30歳未満 (n=86)	27.9	43.0	15.1	12.8	46.5	3.5	2.3	1.2	8.1	11.6	1.2
30歳代 (n=106)	50.9	53.8	14.2	7.5	36.8	5.7	5.7	2.8	5.7	3.8	0.0
40歳代 (n=184)	63.6	50.5	15.8	7.1	27.7	4.3	11.4	1.1	0.5	6.5	0.5
50歳代 (n=183)	63.9	51.9	16.9	17.5	23.5	9.3	8.2	3.3	2.2	7.1	0.5
60歳代 (n=197)	77.7	47.7	23.4	16.2	12.2	13.7	14.2	3.6	0.5	4.1	0.0
70歳代 (n=256)	82.4	25.8	35.5	28.1	4.7	22.3	4.3	4.7	0.4	2.7	3.5
80歳以上 (n=185)	76.8	16.8	40.5	33.5	2.2	24.9	4.3	7.0	0.5	5.4	5.4

(5) 地域福祉を充実させるうえでの行政と住民の関係

問28 本市の地域福祉を充実させていくうえで、行政と住民の関係についてあなたの考えに近いものを選んでください。(は1つ)

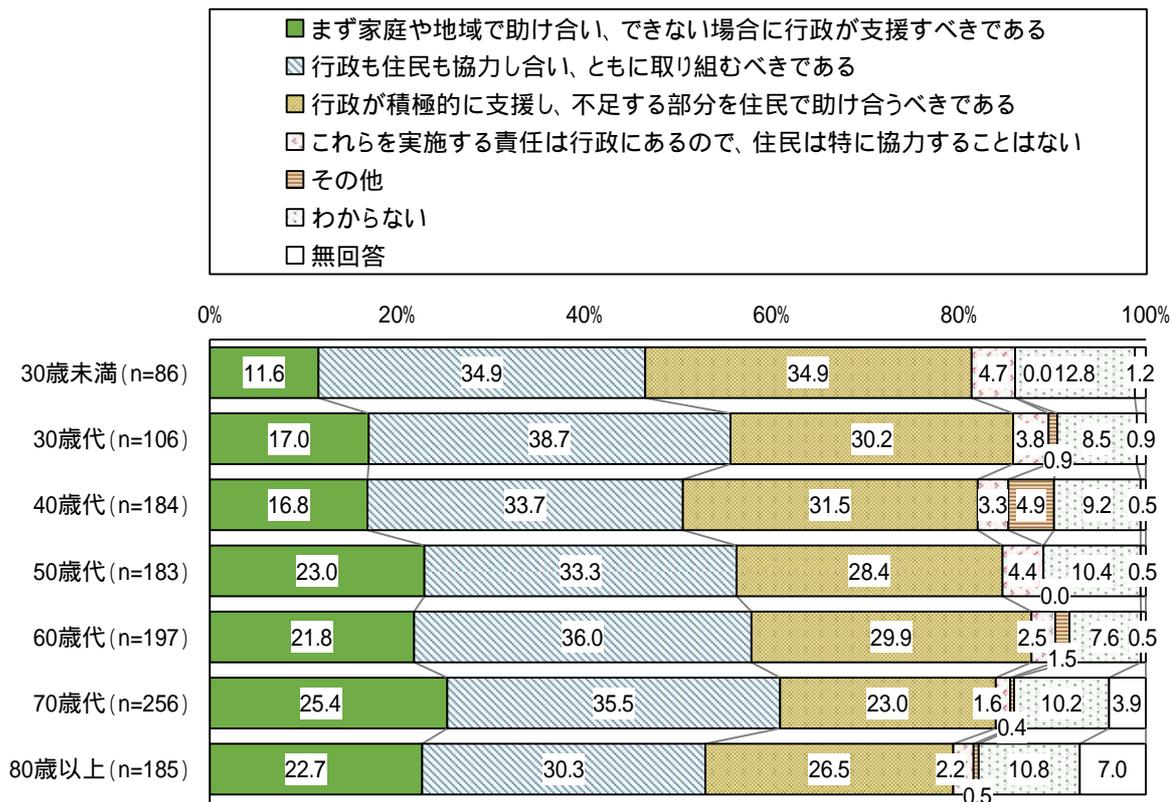
地域福祉を充実させるうえでの行政と住民の関係は、「行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」が34.4%で最も多く、以下「行政が積極的に支援し、不足する部分を住民で助け合うべきである」が28.4%、「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が支援すべきである」が20.9%、「これらを実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない」が2.9%となっています。なお、「わからない」は9.9%となっています。



年齢別 * 地域福祉を充実させるうえでの行政と住民の関係

年齢別にみると、すべての年齢で「行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」が最も多くなっています。

30歳未満では、「行政が積極的に支援し、不足する部分を住民で助け合うべきである」が同率で最も多く、「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が支援すべきである」は他の年齢より割合が低くなっています。

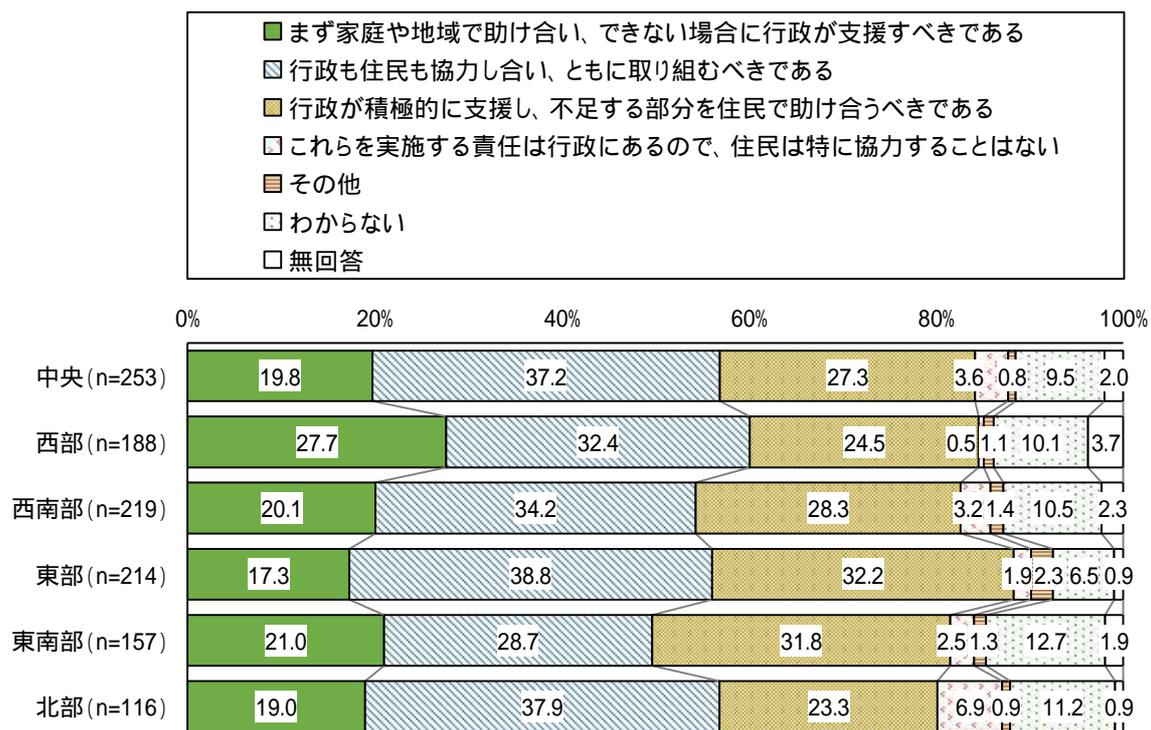


調査結果

居住地域別 * 地域福祉を充実させるうえでの行政と住民の関係

居住地域別にみると、東南部では「行政が積極的に支援し、不足する部分を住民で助け合うべきである」が最も多く、他の地域では「行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」が最も多くなっています。

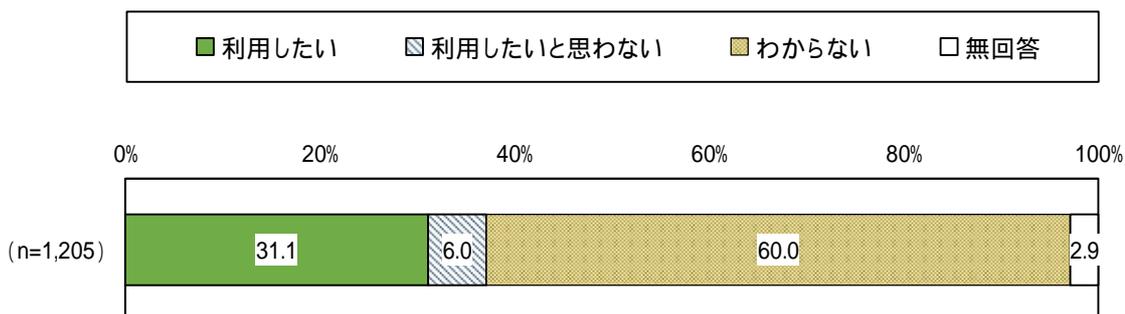
西部では、「まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が支援すべきである」が他の地域よりやや多くなっています。



(6)八王子まるごとサポートセンターの利用意向

問29 あなたは今後、八王子まるごとサポートセンター(5頁参照)を利用したいと思いますか。利用したことがある人も、これからの利用意向を教えてください。(は1つ)

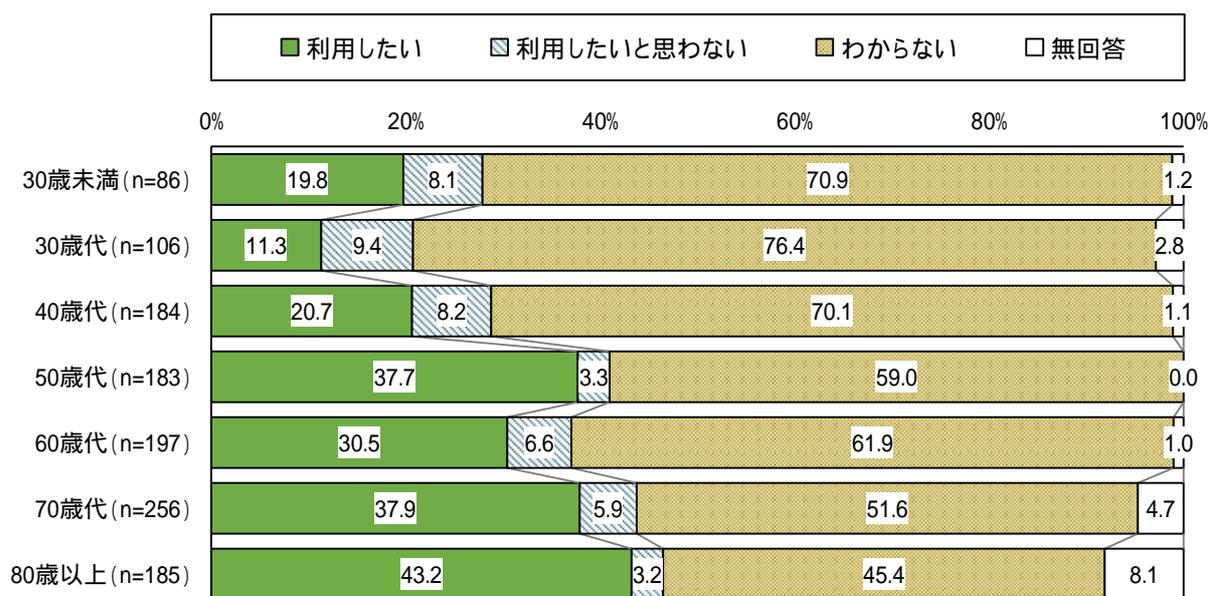
八王子まるごとサポートセンターの利用意向は、「わからない」が60.0%を占めており、「利用したい」は31.1%、「利用したいと思わない」は6.0%となっています。



年齢別 * 八王子まるごとサポートセンターの利用意向

年齢別にみると、すべての年齢で「わからない」が最も多く、年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。

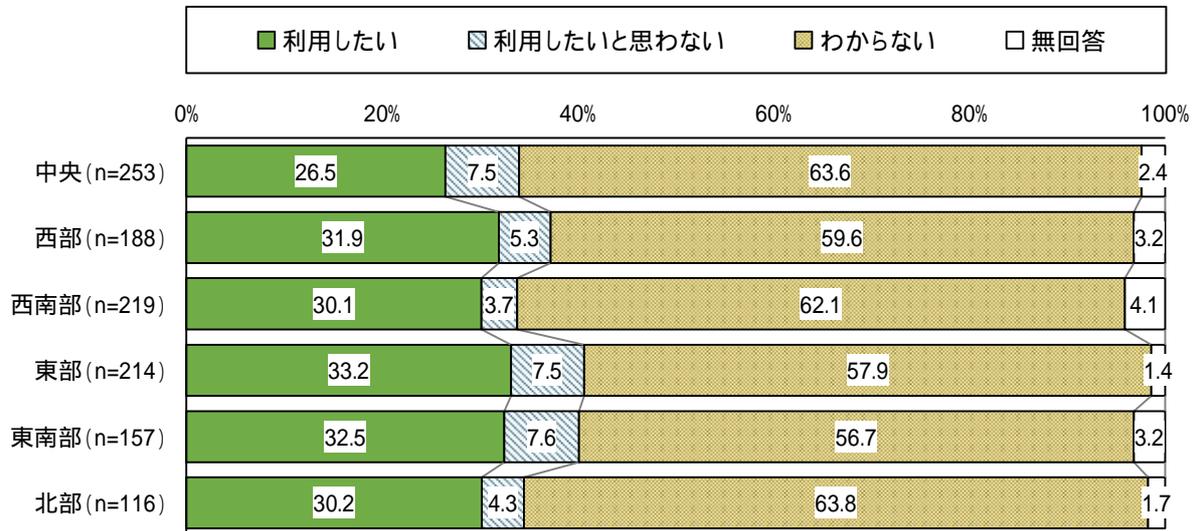
「利用したい」との回答は、80歳以上で最も多く、43.2%となっています。



調査結果

居住地域別 * 八王子まるとサポートセンターの利用意向

居住地域別にみると、すべての地域で「わからない」が最も多く、いずれも過半数を占めています。地域による大きな差はみられません。

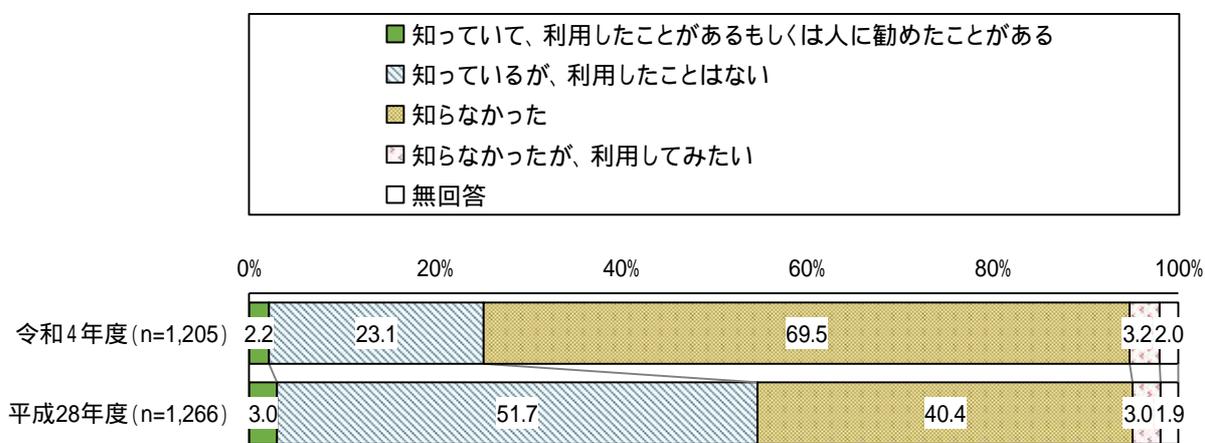


(7) 生活自立支援課の相談窓口の認知度

問30 生活にお困りの方への相談窓口を市役所本庁舎の福祉部生活自立支援課に設置していますが、ご存じでしたか。(は1つ)

生活自立支援課の相談窓口は、「知らなかった」が69.5%を占めており、以下「知っているが、利用したことはない」が23.1%、「知らなかったが、利用してみたい」が3.2%、「知っている、利用したことがあるもしくは人に勧めたことがある」が2.2%となっています。

前回の調査と比較すると、「知らなかった」が29.1ポイント増加しています。

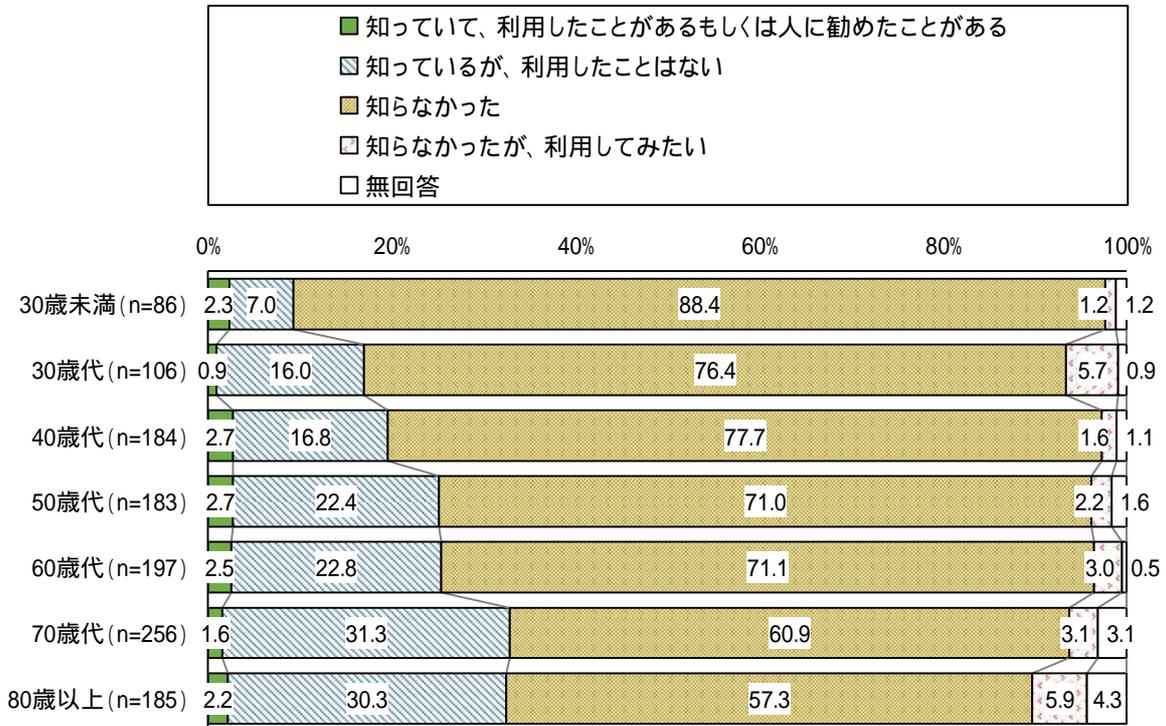


調査結果

年齢別 * 生活自立支援課の相談窓口の認知度

年齢別にみると、すべての年齢で「知らなかった」が最も多く、いずれも過半数を占めています。

年齢が高くなるほど「知らなかった」が少なくなり、「知っているが、利用したことはない」が多くなる傾向がみられます。

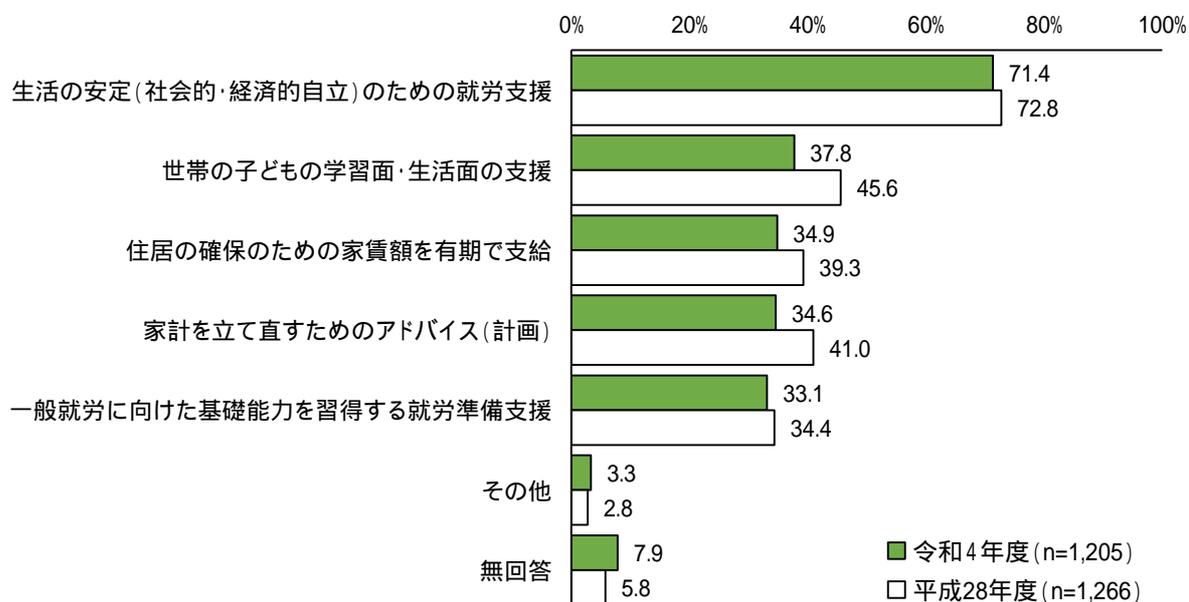


(8)生活困窮者に対して重要な取組

問31 八王子市の生活困窮者自立支援制度では、生活困窮者に対して、次のような取組を実施しています。生活困窮者に対する取組として重要だと思うものはなんですか。
(あてはまるものすべてに)

生活困窮者に対して重要な取組みは、「生活の安定(社会的・経済的自立)のための就労支援」が71.4%を占めており、以下「世帯の子どもの学習面・生活面の支援」が37.8%、「住居の確保のための家賃額を有期で支給」が34.9%、「家計を立て直すためのアドバイス(計画)」が34.6%、「一般就労に向けた基礎能力を習得する就労準備支援」が33.1%となっています。

前回の調査と比較すると、全体的に割合がやや減少していますが、概ね同様の傾向がみられます。



調査結果

年齢別 * 生活困窮者に対して重要な取組

年齢別にみると、すべての年齢で「生活の安定(社会的・経済的自立)のための就労支援」が最も多く、いずれも過半数を占めています。年齢が低いほど多くなる傾向がみられ、30歳代では81.1%を占めています。

「世帯の子どもの学習面・生活面の支援」も同様に、年齢が低いほど多くなる傾向がみられます。

	生活の安定(社会的・経済的自立)のための就労支援	世帯の子どもの学習面・生活面の支援	住居の確保のための家賃額を有期で支給	家計を立て直すためのアドバイス(計画)	一般就労に向けた基礎能力を習得する就労準備支援	その他	無回答
全体 (n=1,205)	71.4	37.8	34.9	34.6	33.1	3.3	7.9
30歳未満 (n=86)	68.6	48.8	34.9	24.4	39.5	1.2	4.7
30歳代 (n=106)	81.1	49.1	37.7	34.9	46.2	2.8	0.0
40歳代 (n=184)	77.2	44.0	30.4	33.2	28.3	3.3	1.6
50歳代 (n=183)	76.0	44.8	35.0	42.6	37.7	3.3	4.9
60歳代 (n=197)	77.7	38.1	37.6	36.0	35.5	6.1	1.0
70歳代 (n=256)	69.9	28.9	35.9	29.7	28.1	1.6	12.1
80歳以上 (n=185)	53.0	24.9	33.0	37.3	27.6	4.3	23.8

6 自由記述

問32 地域福祉について、あなたが考えていることを、ご自由にお書きください。

寄せられた主な意見を以下に記載します。

(1) 生活環境について(49件)

坂が多いので高齢者や足腰が弱い人からしたら暮らしにくいと思いました。(19歳、東部、由木)

高齢の両親の介護をして初めて介護と仕事の両立が困難になった。会社の理解がないので、今後退職せざるを得ない状況になった時、生活していけるのか、再就職できるのか、施設に両親を預けるにも両親の年金が少なく自分も援助できる余裕もないかもしれないと思うと不安で仕方ない。(49歳、北部、石川)

高齢者が住みやすい地域づくりだけでなく、子どもが安心して暮らせる環境作りが大切。子ども達が公園で遊んでいる姿を見ることがほとんどなく、公園が暗く防犯面で不安がある。地域に子どもの声があまり聞こえない。子どもが安心して遊べて学べる環境が地域の活性化や治安の安定に繋がると思う。(54歳、東部、由木東)

隣近所との付き合いがほとんどなく、何かあってもわからないと思う事に不安を感じる。(63歳、西南部、横山)

高齢者だけの世帯が増えて、交通の便も良くなり、バス停までも遠い。店は近くなり、買い物などその他の用事をするにも困るとの話をよく聞く。今後の心配。(64歳、西部、川口)

今住んでいるところは高齢者が多くなり、これから様々な支援が必要な人が出てくるのではないかと思います。自治会館のような場所もない、自治活動も活発でないで住民同士の交流も少ないと思います。コロナの影響で余計に孤立が進んでいるような気がします。もっと自由に交流できる場所があるとよいと思っています。(70歳、東部、南大沢)

コミュニティバスを地域住民の移動手段としてバスの通らないところへ運転してもらいたい。高齢者は車の運転が難しくなるのでなるべく増やしてもらいたい。(77歳、北部、石川)

高齢者が多くなっていて地域によっては買い物が大変です。はちバスの運行の見直しなどを考えてほしい。(86歳、東部、由木)

(2) 地域活動について(39件)

コロナの影響もあり、地域の方との交流も減っている中、私達のような若者が積極的にコミュニケーションを取り、手助けやサポートなど出来ることをしていかないとと思った。市内にもまだまだ課題はあると思う。行政と市民がより良い市にしていくためにも互いに協力しやっていくことを一若者としてやってほしい。(20歳、中央、本庁)

近隣住民との関わりが希薄で中々難しいと思う。日中仕事をしていると地域や行政との関わりが持てない。地域の中で安心して暮らしていくために必要なことだとは思っているので、相談窓口の周知は引き続き積極的にしていただきたいです。(30歳、中央、本庁)

こちらに引っ越してきて町会に入り班長を経験しました。回覧、集金、祭りの手伝い、地域の催し物の手伝い等、どれもが一般化されておらずデータ管理もされていない状態でした。このような状態で災害等がおこり、自治会単位で避難所、救援物資の分配をされても機能するのか疑問に思うところです。一市民として考えていきたいと思しますので、市としても考えていただきたいです。(42歳、西部、恩方)

地域での見守りや助け合いが重要であることもわかっているが、今の自身の生活の中で他者に手を貸せない状況である。災害時などでは協力し合っていこうと思うが、実際に直面しないとわからないことだらけなので、何をどうしていけばいいのかわからない。自分自身も年を重ねる中住みやすい八王子市であるために何かあれば協力していきたい気持ちはある。(49歳、中央、本庁)

近隣の住民と普段からコミュニケーションを取りたいが、自分から話しかけるわけにもいかず、きっかけがない。地域活動を促すきっかけとなるような行政による地域交流を促進する事業に期待したい。(51歳、西南部、館)

町会の行事などにはなるべく協力して参加するようにしていますが、家庭の中での世代交代もすっかりとしていかなければと最近感じるようになりました。子ども達は仕事や子育てで忙しいと親がやりすぎてしまう。子どもの代への引き継ぎが遅くなって関心がなくなってしまいます。上手く巻き込んでいければいいなと思います。(62歳、西部、元八王子)

同じ地域に住んでいる人に相談するのは嫌だ。年齢、家庭の事情によって出かけて相談は出来ないなので訪問してほしい。その時が近所の人ではなく他の地域の人でお願いしたい。事前に訪問する人がどの地域の人かわかると相談がスムーズにいくのでお願いします。(73歳、西部、元八王子)

コロナの影響で外出する機会が少なくなり、自治会活動等が出来ない状態です。おさまってからの復活もどのような形態でやるのか不安です。2年以上活動をやらないと自治会等はいらないと言う人も出てきます。これらのことについてアドバイスが必要です。(81歳、北部、石川)

(3) 地域福祉について(35 件)

この八王子には沢山の人が暮らしていますが、一人一人が満足できたと言える生活ができているとは思えません。ですが八王子市で行われている福祉活動はきっと一人でも多くの人を幸せにしてくれると思っています。今後も八王子市を応援します。(19歳、西南部、館)

地域福祉について義務教育のときにもっと教育すべきだと思う。就労支援、就労準備支援などもっと専門的な教育者を増やして充実させてより良い社会に向けて共に進んでいけたらと思う。(34歳、中央、本庁)

一時的な金銭の支援ではなく、また、対処療法的に支援を行うのではなく、未来を考えたものにしていくべきだと思います。もちろん緊急の場合は除きます。一人一人が自立をしっかりと行える社会でなくては、そもそも地域福祉が成り立たないと思うので、教育を重視したものにすることが地域福祉の充実には不可欠だと思っています。(45歳、東南部、北野)

日々の生活で余裕がなく地域福祉について考えることがありませんでした。税金に追われて税金を支払うためにお金を工面する毎日で、コロナ禍で希薄となった友人と会う機会もなく、孤独を感じている人が多いのではないのでしょうか。そんな時地域福祉が頼れる存在となればもっと活用したり知ろうと思うのではないのでしょうか。私も含めまず知らないし、知ろうと思っていないのが事実だと思います。(51歳、中央、本庁)

福祉についてはあまりというかほとんど関心がなかったが、孫の子育てや介護などでこれから重要になってくるので無関心ではいけないと思う。(63歳、中央、本庁)

現在は趣味で忙しくしていますが、年と共に健康面も心配になります。これからは地域福祉について知識を広げていきたいです。(78歳、西部、元八王子)

八王子に住んで5年、福祉のことはわからないことがたくさんあると思いました。福祉のことは相談したいが脚が重くて我慢することが多いです。気軽に相談できるよう、自分も気持ちを変えてこれからお世話になろうと思いました。八王子まるごとサポートセンターが近くにあるのは知りませんでした。(82歳、西南部、横山)

(4) 福祉サービスについて(34件)

外国人でもわかりやすい福祉の制度があればありがたいです。(22歳、東南部、北野)

今年子どもが生まれ、初めての子育てに日々奮闘しています。おむつ、離乳食、おもちゃ、月齢によって必要な様々なアイテム、洋服等、想像以上にお金がかかります。児童手当のような支給があればあるほど助かります。子育て世帯への手厚いサポートをお願いします。(30歳、東南部、由井)

各年齢の検診、市で行っているリトミックや子育てイベントなどに色々参加させていただきました。しかし、幼稚園、保育園の訪問や放課後デイサービスの数など、障害児に支援が行き届かなかったり、時間がかかったりするように感じます。八王子は療育センターができたこともあり、そうしたサポートを増やせば子どもを持つ世代が住みやすくなるのではないかと思います。(42歳、西南部、横山)

相談できる場所があるのは助かると思いますが、相談できる時間や曜日、相談しても言われることが同じということがなければ、もっと活用されるのではないかと思います。また、相談に行く際の子どもの預け先などの問題がいつもありました。そういうところを少しでも解決できればよいのではないのでしょうか。(42歳、東南部、由井)

今は仕事もあり不自由はないが、老後のためにも福祉の充実、多様な取り組みを末永くお願いしたい。(51歳、北部、石川)

福祉サービスのシステムを簡略化して、誰でも利用しやすいかたちにしてほしい。組織を増やすだけではますます使い勝手が悪くなると考えます。(68歳、中央、本庁)

自立している高齢者は自力で色々な施設の利用ができますが、車椅子、身体障がい者の方々には他力本願になり身内が近くにいれば大丈夫ですが、そうでない人は何もできないので孤立感があります。市内にも福祉施設があれば安心です。(71歳、北部、石川)

八王子まるごとサポートセンターについて全く知りませんでした。今回のアンケートで福祉について少し関心を持っていこうと思います。高齢化社会となり身近に福祉を考える機会が増すと思います。老夫婦の世帯が多くなり近所との関わりが重要になってくることでしょう。(73歳、中央、本庁)

八王子まるごとサポートセンターについて、11エリア毎にどの町が対象範囲なのか説明してほしい。地域福祉とはまずどこへ行って相談するのか知ってからだと思います。(77歳、中央、本庁)

高齢者あんしん相談センターの方がとても親切なので安心です。何かあれば相談できると聞きましたので相談したいと思いました。はちまるサポートを利用します。(80歳、西部、元八王子)

(5)行政全般について(32件)

生活困窮者等の制度について窓口相談に行っても少しの差で該当しないため制度が利用できないことが多い。そういう方に向けての制度が何も無い。収入と税が見合っておらず税金を払うために借金をしなければならないことがある実態を把握し対策等を考えてほしいと思う。(34歳、西南部、館)

近所付き合いがない現在では、市でのサポートまたはサポートできる団体がより身近な存在になってほしいと思う。市民が探すのではなく日常から近いところにいてもらいたい。そのようなことに市民税を使っていただきたいと思う。(38歳、東南部、由井)

市民が積極的に情報収集することも必要だが、市からも本当に困っている人を助けるよう動くことも大切だと思う。支援を申請するのをためらう人もいると思うので市が市民の生活状況に合わせて支援を行って欲しい。(45歳、東部、南大沢)

高齢者の親を高齢の子どもが世話をする世の中になってきています。そんな中で自治会参加や他人の事等、関われない人が増えてきています。地域住民での助け合いというきれいな事は言えない状況です。八王子市が責任を持って地域福祉を行う体制や仕組みを作ってください。(63歳、中央、本庁)

地域の関係が希薄になりつつある中で、行政が積極的かつ主体的にリードして支援していただけると助かると思います。(66歳、東部、南大沢)

福祉を国語辞典で引くと、幸福と出てくる。幸福の定義は難しい。人によって幸福の基準が異なるから。その点で、第3期八王子市地域福祉計画は素晴らしいと思う。一人でも多くの八王子市民がこの計画を知り、理解し協力することが重要だと思う。広報の充実を。そして計画が実行されることを望む。(74歳、東部、南大沢)

助け合いが中心のように語られることが多い。私では担えなかつたり負担が大き過ぎることも多い。公としての基本的な責任体制をわかりやすく示してほしい。私の小さな力でも出せるように。(76歳、西南部、横山)

八王子市は地域範囲が広いので、行政の行動が市民に細部まで届けられないと思われます。市民センター等に積極的に細部について市民に届くよう民間も含めてより一層のご努力を望みます。(88歳)

(6) 情報について(25件)

市内での活動を広報誌で読んでもどうせこっちはないしなと思ってしまうのが現状です。はちまるサポートも今回初めて知りました。調べ不足ですみません。地域にもっと目を向けて生活していきたいと感じました。LINEやTwitterなどのSNSをもっと活用すれば地域福祉についてもっと知りたくなるかもしれません。(28歳、東部、南大沢)

八王子には色々サポートをしていただける制度や取組がありそうなのはわかりますが、どんな時にどの制度を使えばいいのかわかりません。まずはホームページなどを工夫してもっと具体的にわかりやすく、いつ誰に相談してどの制度を使えばいいのか市民が情報を取りやすくしてほしいです。(36歳、西南部、横山)

住んでいる地域のことに知らないことが多いなと思いました。災害時の避難場所も地域の民生委員さんのことも知りませんでした。今まで困ったことがあればネットで検索すれば市役所や社会福祉協議会に繋がってお世話になったのでSNSの拡散などがより多くの人に地域福祉を知るきっかけになるのかなと思いました。(43歳、中央、本庁)

八王子が東京都で一番住みやすい市にしたいです。有益な情報をキャッチできないと思うので、自らも努力すると共に色々な機会で発信、共有していただくとありがたいです。(48歳、西南部、浅川)

自分もいつか行政のお世話になることがあるかもしれませんが、現状はまだピンとこない部分があります。ただ、年齢を重ね、近い将来お世話になることがあるかもしれないので、情報はすぐに得られるような体制を作っていければと思っています。(60歳、中央、本庁)

私が住んでいるところは自治会がありません。回覧板もないので地域の活動や行事も全くわかりません。情報が入ってこないで市からの広報やホームページで確認するしかありません。もっと情報が知りたいです。(62歳、西南部、館)

自分自身が八王子市の地域福祉についてほとんど知らないことを認識しました。すべてのことについて言えることですが、何かを改善するために若者の考えや力が必要であるにもかかわらず、今の社会はほとんど若者の力を活用しようと考えていないし、実際に取り入れようもしないのが現実です。つまり、若者の力を行政がどう取り込めるかを考えてもらいたいです。八王子は祭りが比較的盛んですが、その企画に中学生や高校生、大学生や20代などの計画を採用することからはじめたら将来的に注目される八王子市になると思うのですが。(78歳、中央、本庁)

民生委員の活動内容をもっとPRして、相談しやすい環境をつくって広報で知らせてほしい。(90歳、西部、元八王子)

(7)まちづくりについて(24件)

高齢化が進むにあたって、空き家問題や孤独死を防ぐために地域を見守るような体制づくりが重要だと考える。また子育て世代が安心して子育てができるような金銭的サポートや相談窓口などを強化していくことが大切だと思う。(24歳、中央、本庁)

大規模商業施設の誘致や交通インフラの拡大は八王子の魅力だが、住民に対する支援の施策は改善の余地があると思われる。都心に近いメリットを活かせていない。(34歳、東南部、北野)

学校の授業や行事ごとのように人が学んで楽しめる仕組み作りがあれば色々参加したいと思いました。(41歳、西部、元八王子)

私の住む地域に障害者の方が少なからずいるはずだが、あまり見かけたことがなく気になる。自分の仕事が福祉に関わるので、子育てサポートや高齢者サポートは割りと明るいイメージだが、障害者サポートは表に出づらい。もっと色々な方がいることを当たり前の世の中になってほしい。(52歳、西部、恩方)

車椅子の方がどんどん気軽にまちに出られるような歩道のつくりになるといい。介助犬が全ての店に入れるようになるといい。障害のある方もない方と平等に同じ場所、同じ空間にいられることが当たり前の世の中がステキだと思います。(53歳、東部、南大沢)

困窮して困っていても相談しにくいなどSOSが出せない人もいると思います。地域との繋がりが大切だと思っている。接触がしにくい、できない、拒否などの人達もいると思うので、地域住民が関心を持てるシステムづくりが必要だと思います。(58歳、西部、元八王子)

車椅子の人がバスに乗る時、何度か見たことがあるが周りの人が手伝ってあげればいいのに、バスの運転手が一人でお世話をしているのを見た時に悲しくなる。あとバスの運転手がバス停で待っている車椅子の人をスルーしてバスを止めなかった事で周りの人がとても嫌な思いをしたことなど色々聞く。もっと障害のある人に思いやりを。(67歳、北部、加住)

大きくは社会で小さくは家庭内でも孤立しない支援ができる仕組みができたらいい。コロナ禍で人が集うことが減り、人の輪が取りにくくなったので、変わっていくことを期待している。(70歳、西部、元八王子)

年齢を重ねていくにつれて先々のこと(健康も生活費も)の不安は増えていきます。高齢者に優しいまちづくりができていますように。そして情報がより早くより広く伝わっていきますように願っています。今回はちまるサポートの存在を知って安心しました。(70歳、東南部、北野)

(8)安全・安心について(17 件)

住宅地に街灯が少なく防犯面で不安。増設してほしい。(40歳、北部、石川)

街灯の少ない暗い道などの改善を希望します。(57歳、東部、南大沢)

防災対策として自助、共助、公助が大切だと言われています。特に共助について最近不安を感じています。自身も含めて隣近所の高齢化が進み、中には自宅にこもり歩行すら大変な方もいて希薄な関係になっています。行政や町内会等で年に何回か避難訓練をやってほしいと思います。(67歳、中央、本庁)

将来高齢者が多くなるため安心して暮らせるようにしていただきたいです。(74歳、西南部、浅川)

安心して暮らせる取り組みをお願いします。子ども食堂などを充実してほしいです。(74歳、西南部、横山)

本当に困っている人に支援が届くような仕組みづくりが必要だと思います。SOSを受け止めてくれる場所、人が大事だと思います。(80歳、西南部、浅川)

(9)その他(30 件)

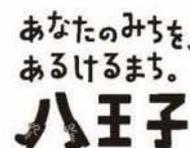
県外から引っ越してきたばかりで今後この家で生涯過ごしていきたいので色々勉強していきたいです。(57歳、東部、由木東)

老化は避けられないことです。まずは自分自身が迷惑をかけずにしっかりと頭、足腰を鍛えたいと思います。計画を立て、無駄な出費を控えたい。その先はどうしようもなくなった折には家族、病院等に相談して助けていただきたいです。そのために予備知識が必要だと思います。(71歳、西部、恩方)

健康に恵まれない方、色々な方がいます。行政、市民が知識を絞って助け合いましょう。(81歳、東部、由木東)

住み馴れた地域に高齢になるまで住み続けられたことを幸せに思います。今後大きな災害が起こらないことを願うのみです。(89歳、西南部、横山)

調查票



アンケート調査へのご協力をお願い

市民の皆さまにおかれましては、日頃より市政に関してご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

本市では「第3期八王子市地域福祉計画（平成30～令和5年度）」を策定し、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる仕組みづくりに向け、取組を進めています。

本調査は、皆様から「地域福祉」に関するお考えやご意見をお寄せいただくことで、令和6年度からの新たな計画「第4期八王子市地域福祉計画」策定の貴重な資料にさせていただくとともに、本市の地域福祉推進に有効活用させていただくために実施するものです。

今回の調査では、市内在住の18歳以上の方の中から無作為に3,000人を抽出致しました。ご回答いただいた内容は、すべて統計的に処理し、個々の回答内容が他に漏れたり、統計の目的以外に使用することは一切ありません。

大変お忙しい中恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。

令和4年10月

八王子市長 石森 孝志

ご記入にあたってのお願い

あて名のご本人がお答えいただきますようお願い致します。回答が難しい場合は、ご本人に代われる方（家族等）が、ご本人のことをお答えください。

回答は「（ ）は1つ」、「（あてはまるものすべてに ）」などの説明に従って、該当する番号に 印をつけてください。

回答が「その他」の場合は、（ ）内に内容を具体的にご記入ください。

回答者が限定されている質問もあります。質問中の説明に従ってお進みください。答えたくない内容については、無理にお答えいただく必要はありません。

アンケートはWEB（パソコンやスマホ）でご回答いただくこともできます

アンケートフォームには、右のQRコード又は下のURLからアクセスできます。WEBでご回答の場合には、本調査票での回答・返送はご遠慮ください。

URL：<https://questant.jp/q/hachioji>



記入された調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて

令和4年11月14日（月）までに投函してください。

調査に関するお問い合わせ先 【月曜日～金曜日 午前8時半～午後5時】

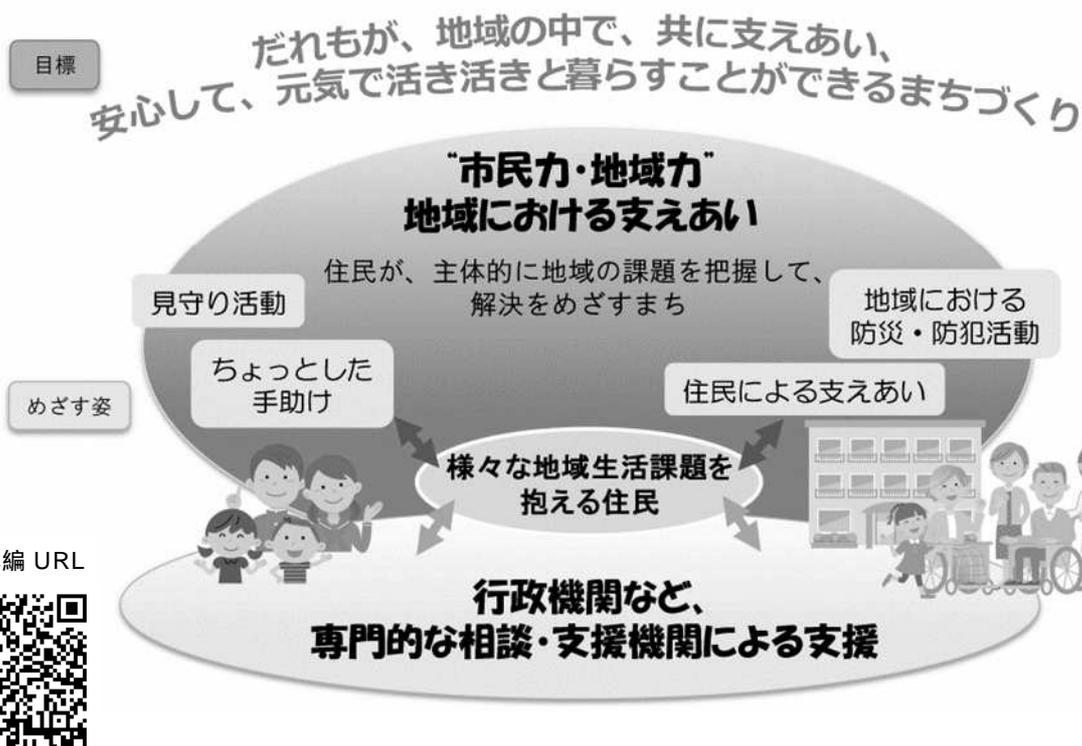
八王子市 福祉部福祉政策課

電話 042-620-7240（直通） FAX 042-628-2477

第3期八王子市地域福祉計画の基本的な考え方

本市では平成30年3月に「第3期八王子市地域福祉計画」を策定し、住み慣れた地域で個人が尊重され、生き生きと暮らせるよう共に助けあえる地域づくりを進めるという基本的な考えのもと、「だれもが、地域の中で、共に支えあい、安心して、元気で生き生きと暮らすことができるまちづくり」を目標に、取組を進めています。

なお、計画では、「地域の課題を住民自ら把握し、主体的に解決を図るという考え方を基本に、市民力・地域力、行政による支援、民間事業者による支援の活用をあわせた重層的な協働の取組」を地域福祉と定めており、地域福祉の実現には、「支援を必要とする人が、必要な支援を受けることのできる体制を充実することが重要」としています。



資料：第3期八王子市地域福祉計画

地域福祉を推進していくためには、地域のことやふだんの生活課題などをよくご存じの皆さまのご参加とご協力が必要です。

地域福祉の取組の一環として、アンケート調査へのご協力をよろしくお願いします。

はじめに、あなたご自身のことについてうかがいます

問1 あなたの年齢はおいくつですか。(記入)

() 歳

問2 あなたは八王子市に住まわれて何年ですか。(記入)

() 年

問3 あなたのお住まいの町(住所で「八王子市」の次に来るもの)はどちらですか。(記入)

() 町

問4 あなたと一緒に住んでいるのはどなたですか。(あてはまるものすべてに)

- | | | |
|-----------|--------------|-------------------|
| 1. ひとり暮らし | 2. あなたの配偶者 | 3. あなたの子ども () 人) |
| 4. あなたの親 | 5. あなたの祖父・祖母 | 6. その他 () |

問5 あなたのお住まいは次のうちどれですか。(は1つ)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 持ち家(一戸建て・マンションなど) |
| 2. 住まいを借りている(一戸建て・マンション・アパート・公営住宅など) |
| 3. その他() |

問6 あなたの職業は次のうちどれですか。(は1つ)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 正社員・正職員 | 2. 派遣・契約社員 |
| 3. パート・アルバイト(学生を除く) | 4. 自営業 |
| 5. 学生 | 6. 家事専従 |
| 7. 年金生活で就業していない | 8. 就業していない(7以外) |
| 9. その他() | |

問7 あなたの世帯の収入について、生活するのに十分な収入を得られていますか。

(は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 十分に得られている | 2. まあ得られている |
| 3. あまり得られていない | 4. まったく得られていない |
| 5. わからない | |

地域での暮らしについてうかがいます

問8 現在の暮らしやすさについて、どの程度満足していますか。(項目ごとに は1つ)

	満 足 し て い る	ま ま あ ら ず い る	い ち ど ち も あ ら ず	や や あ ら ず い る	か な り あ ら ず い る
地域での暮らしについて					
<small>となりきんじよ</small> 隣近所などのおつきあい	1	2	3	4	5
町会・自治会やボランティアなどの地域活動	1	2	3	4	5
地域の防犯体制	1	2	3	4	5
地域の防災体制	1	2	3	4	5
公的なサービス等について					
高齢者が安心して暮らせる環境	1	2	3	4	5
障害者(児)が安心して暮らせる環境	1	2	3	4	5
子どもが安心して暮らせる環境	1	2	3	4	5
健康に関する相談体制	1	2	3	4	5
病院など医療機関の対応	1	2	3	4	5
総合的な暮らしやすさ	1	2	3	4	5

問9 あなたの生活において、次の中であてはまるものはありますか。

(あてはまるものすべてに)

<p>1. 仕事に就いておらず、生活の見通しが立たない</p> <p>2. 6か月以上、買い物以外で外に出かけていない</p> <p>3. 家族の介護と育児を両方担っている</p> <p>4. 高齢である自分が、高齢の家族を介護している</p> <p>5. 仕事に就かない子どもがいる</p> <p>6. 経済的に困窮している</p> <p>7. 移動手段が限られていて、外出が難しい</p> <p>8. 介護や育児で勉学に集中できない</p> <p>9. その他()</p> <p>10. あてはまるものはない</p>

問10 あなたは、日頃、隣近所となりきんじょとどのようなつきあい方をしていますか。(は1つ)

1. 困った時には相談したり、助け合ったりする
2. 一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあったりする
3. たまに立ち話をする
4. 会えばあいさつをかわす
5. つきあいはほとんどない

問11 あなたは今後、隣近所となりきんじょとはどのようなつきあい方を望みますか。(は1つ)

1. 困った時には相談したり、助け合ったりしたい
2. 一緒にお茶を飲んだり、留守のときに声をかけあったりしたい
3. たまには立ち話をしたい
4. 会えばあいさつをかわしたい
5. つきあいはしたくない

問12 新型コロナウイルスによりあなたがもっとも強く感じる影響はどれですか。
(は1つ)

- | | |
|-------------------|---------------|
| 1. 失業等による生活困窮 | 2. 他人との関係の希薄化 |
| 3. 自粛要請等による心身への影響 | 4. その他() |
| 5. 現在は特になし | |

問13 あなたは、毎日の暮らしの中で、どのようなことに悩みや不安を感じていますか。
(あてはまるものすべてに)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 自分や家族の健康に関する事 | 2. 自分や家族の老後のこと |
| 3. 育児・子育てに関する事 | 4. 子どもの教育や将来のこと |
| 5. 家族の介護のこと | 6. 収入や生活費に関する事 |
| 7. 家族間の人間関係のこと | 8. 近所付き合いに関する事 |
| 9. 地域の治安に関する事 | 10. 災害に関する事 |
| 11. 外出や移動に関する事 | 12. その他() |
| 13. 特になし | |

問14 あなたに悩みや不安、困り事があるときには、誰に相談していますか。

(あてはまるものすべてに)

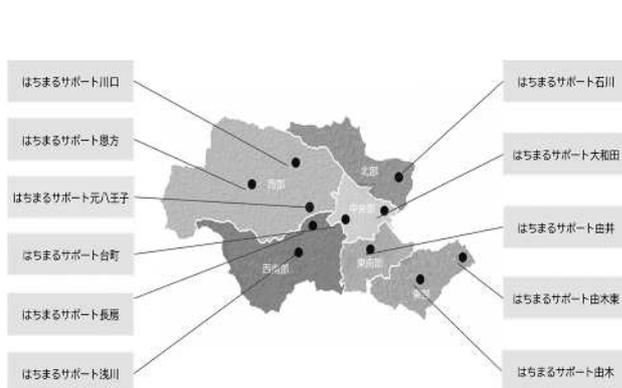
- | | | |
|-------------------|---------------------|----------|
| 1. 家族 | 2. 親戚 | 3. 友人・知人 |
| 4. 近所の人 | 5. 職場の人 | 6. 市役所 |
| 7. 民生委員・児童委員 | 8. 社会福祉協議会 | |
| 9. 八王子まるとサポートセンター | 10. 町会・自治会の人 | |
| 11. 高齢者あんしん相談センター | 12. 民間の電話相談 | |
| 13. NPO 等の市民活動団体 | 14. 警察 | |
| 15. その他 () | 16. 誰に相談すればよいかわからない | |
| 17. 特に相談しようとは思わない | | |

問15 近所で悩みや不安、困り事がある世帯があった場合、あなたは誰に相談していますか。

(あてはまるものすべてに)

- | | | |
|-------------------|---------------------|----------|
| 1. 家族 | 2. 親戚 | 3. 友人・知人 |
| 4. 近所の人 | 5. 職場の人 | 6. 市役所 |
| 7. 民生委員・児童委員 | 8. 社会福祉協議会 | |
| 9. 八王子まるとサポートセンター | 10. 町会・自治会の人 | |
| 11. 高齢者あんしん相談センター | 12. 民間の電話相談 | |
| 13. NPO 等の市民活動団体 | 14. 警察 | |
| 15. その他 () | 16. 誰に相談すればよいかわからない | |
| 17. 特に相談しようとは思わない | | |

八王子まるとサポートセンター（愛称：はちまるサポート）



エリア	所在地	電話
石川	石川町481 石川事務所内	649-3390
川口	川口町908-1 川口事務所内	652-9116
元八王子	大楽寺町4 1 9番地1	686-2280
恩方	下恩方町3395 恩方事務所内	659-1107
浅川	高尾町1652-1 浅川市民センター内	629-9444
長房	長房町588 長房ふれあい館内	629-9511
大和田	大和田町5-9-1 大和田市民センター内	649-3228
台町	台町3-20-1 台町市民センター内	649-6955
由井	片倉町702-1 由井市民センター内	683-2111
由木	下由木2-10-6 由木中央市民センター内	670-9885
由木東	鹿島111-1 由木東事務所内	682-4885

本市では、包括的な相談窓口として、「はちまるサポート」を市内各地に設置しています。地域福祉の専門職であるCSW（コミュニティ・ソーシャル・ワーカー）が、地域で生活していくうえで、どこに相談すればよいかわからない「困りごと」を受け付け、各支援機関と連携をしながら本人や地域の方々と共に問題解決に向けて一緒に考えていきます。

問16 あなたは、地域でおきる生活上の問題に対して、住民相互の協力関係が必要だと思いますか。(は1つ)

1. かなり必要だと思う	}	問16 - 1へ
2. まあ必要だと思う		
3. あまり必要だと思わない	}	問16 - 2へ
4. ほとんど必要だと思わない		
5. どちらともいえない		問17へ

問16で「1. かなり必要だと思う」「2. まあ必要だと思う」に をつけた方

問16 - 1 地域の人たちが協力して、取り組んでいくことが特に必要なことは、どのようなことだと思いますか。(は2つまで)

1. 自治会・町内会やボランティアなどの地域活動
2. 地域の防犯体制づくり
3. 地域の防災体制づくり
4. 高齢になっても安心して暮らせる環境づくり
5. 障害があっても安心して暮らせる環境づくり
6. 子どもが安心して暮らせる環境づくり
7. 気軽に運動できたり、健康づくりに関して学習できる環境づくり
8. 多様な問題を抱える家庭を支援する協力体制づくり
9. その他()
10. わからない

問16で「3. あまり必要だと思わない」「4. ほとんど必要だと思わない」に をつけた方

問16 - 2 必要ないと思う理由は何ですか。(あてはまるものすべてに)

1. 他人とのかかわりをできるだけ持たない暮らしを求めているから
2. 個々の生活は一人ひとりの責任・自覚の問題であるから
3. 住民相互の協力関係にあまり期待していないから
4. 友人、知人との結びつきがあれば十分であるから
5. 地域の問題や課題は、行政が全面的に対応すべきであるから
6. その他()
7. わからない

問17 あなたの地域で誰もが安心して暮らしていくために、必要なことは何だと思われますか。
(は3つまで)

1. 地域での見守りや助け合い
2. ボランティア・NPO活動の充実や人材の育成
3. 見守りや助け合いなど、小さい頃からの福祉教育の充実
4. 福祉サービスの情報提供の充実
5. 子育て支援の充実
6. 高齢者支援の充実
7. 障害者(児)への支援の充実
8. 地域医療体制の充実
9. 健康づくりや介護予防の充実
10. 生涯学習・生涯スポーツ、生きがいづくり・社会参加の促進
11. 防犯・防災体制の充実
12. 道路や施設のバリアフリー化の推進
13. 福祉サービスの質を評価するための仕組みづくり
14. 福祉施設の整備
15. その他()
16. わからない

地域活動への参加についてうかがいます

問18 あなたは、これまでに地域での活動に参加したことがありますか。(は1つ)

1. はい	問18-1・2へ	2. いいえ	問18-3・4へ
-------	----------	--------	----------

問18で「1. はい」に つけた方

問18-1 どういった団体で活動されましたか。(あてはまるものすべてに)

1. 町会・自治会	2. 学校、PTA、子供会等
3. シニアクラブ	4. NPO(民間非営利団体)での活動
5. その他任意団体()	6. 個人での活動

問 18 で「 1 . はい」に つけた方

問18 - 2 それはどのような活動ですか。(あてはまるものすべてに)

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1 . 福祉 | 2 . 保健・医療 |
| 3 . 学術、文化、芸術またはスポーツ | 4 . 防災・防犯 |
| 5 . 人権擁護・平和推進 | 6 . 男女共同参画の促進 |
| 7 . 子どもの健全育成 | 8 . 消費者の保護 |
| 9 . その他 () | |

問 18 で「 2 . いいえ」に つけた方

問18 - 3 地域での活動に参加していないのはなぜですか。(あてはまるものすべてに)

- | | |
|-------------------------|------------------|
| 1 . 興味や関心がないから | 2 . 機会がないから |
| 3 . 時間がないから | 4 . 自分の生活で精一杯だから |
| 5 . 仕事が忙しくて余裕がないから | 6 . やりたい活動がないから |
| 7 . 自分の趣味や余暇活動を優先したいから | |
| 8 . 現在の活動内容に不満だから | |
| 9 . 活動の内容や参加の方法がわからないから | |
| 10 . その他 () | |
| 11 . 特に理由はない | |

問 18 で「 2 . いいえ」に つけた方

問18 - 4 どのような条件や内容であれば、地域活動に参加したいと思いますか。

(あてはまるものすべてに)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1 . 活動情報の提供がある | 2 . 身近な場所で活動できる |
| 3 . 自由な時間に参加できる | 4 . 事前の研修や説明会がある |
| 5 . 指導者やリーダーがいる | 6 . 特技や知識が活かせる |
| 7 . 役員や当番などがない | 8 . 身体的な負担が少ない |
| 9 . 精神的な負担が少ない | 10 . 経済的な負担が少ない |
| 11 . その他 () | 12 . 特にない |

問19 あなたは今後、地域活動に参加したいと思いますか。(は1つ)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 . 積極的に参加したい | 2 . 機会があれば参加したい |
| 3 . あまり参加したくない | 4 . 参加したくない |
| 5 . 参加することができない | |

地域防災についてうかがいます

問20 大規模災害等が発生した時、あなたは誰を頼りにしていますか。

(あてはまるものすべてに)

1. 家族	2. 親戚	3. 友人・知人
4. 近所の人	5. 職場の人	6. 市の相談窓口
7. 民生委員・児童委員	8. 社会福祉協議会	9. ボランティア
10. かかりつけ医	12. 警察	13. その他
14. いない	15. 必要ない	()

問21 あなたは災害時の避難場所が決まっていますか。(は1つ)

1. 決まっている	2. 決まっていない
-----------	------------

問22 あなたは避難時の行動について計画を立てていますか。(は1つ)

1. 立てている	2. 立てていない
----------	-----------

問23 あなたは緊急時に支援が必要な近所の人を知っていますか。(は1つ)

1. 知っている	2. 知らない
----------	---------

市の福祉施策や制度、サービスについてうかがいます

問24 あなたは、次に挙げるような福祉にかかわる制度や言葉の中で、どれを知っていますか。

(あてはまるものすべてに)

1. 八王子まるごとサポートセンター	2. 社会福祉協議会
3. ボランティアセンター	4. 高齢者あんしん相談センター
5. 民生委員・児童委員	6. 成年後見制度
7. 地域福祉権利擁護事業	8. 市民後見人
9. ういずサービス(有償家事援助サービス)	10. 福祉避難所
11. 受験生チャレンジ支援貸付事業	12. 住居確保給付金
13. 生活福祉資金	14. 生活困窮者自立支援制度

問25 あなたにとって、福祉サービスや制度の仕組みはわかりやすいですか。(は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. かなりわかりやすい | 2. まあわかりやすい |
| 3. ややわかりにくい | 4. かなりわかりにくい |
| 5. どちらともいえない | |

問26 あなたは、今後福祉に関する講習や説明会などに参加したいと思いますか。
(は1つ)

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 参加したい | 2. 都合があれば参加したい |
| 3. 参加したいと思わない | 4. わからない |

問27 あなたは、福祉の情報をどのように得たいと思いますか。
(あてはまるものすべてに)

- | | |
|----------------|-----------------------------|
| 1. 市の広報 | 2. 市のホームページ |
| 3. 社会福祉協議会だより | 4. 新聞やテレビ、ラジオ |
| 5. 回覧板 | 6. Twitter、Facebook、LINE など |
| 7. 市などのメールマガジン | 8. 直接訪問してほしい |
| 9. その他() | 10. わからない |

問28 本市の地域福祉を充実させていくうえで、行政と住民の関係についてあなたの考えに近いものを選んでください。(は1つ)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. まず家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が支援すべきである |
| 2. 行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである |
| 3. 行政が積極的に支援し、不足する部分を住民で助け合うべきである |
| 4. これらを実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない |
| 5. その他() |
| 6. わからない |

問29 あなたは今後、八王子まるごとサポートセンター(5頁参照)を利用したいと思いますか。
利用したことがある人も、これからの利用意向を教えてください。(は1つ)

- | | | |
|----------|---------------|----------|
| 1. 利用したい | 2. 利用したいと思わない | 3. わからない |
|----------|---------------|----------|

問30 生活にお困りの方への相談窓口を市役所本庁舎の福祉部生活自立支援課に設置していますが、ご存じでしたか。(は1つ)

- 1 . 知っていて、利用したことがあるもしくは人に勧めたことがある
- 2 . 知っているが、利用したことはない
- 3 . 知らなかった
- 4 . 知らなかったが、利用してみたい

問31 八王子市の生活困窮者自立支援制度では、生活困窮者に対して、次のような取組を実施しています。生活困窮者に対する取組として重要だと思うものはなんですか。(あてはまるものすべてに)

- 1 . 住居の確保のための家賃額を有期で支給
- 2 . 生活の安定(社会的・経済的自立)のための就労支援
- 3 . 一般就労に向けた基礎能力を習得する就労準備支援
- 4 . 家計を立て直すためのアドバイス(計画)
- 5 . 世帯の子どもの学習面・生活面の支援
- 6 . その他()

問32 地域福祉について、あなたが考えていることを、ご自由にお書きください。

調査にご協力いただきまして、ありがとうございました。

記入された調査票は、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて

令和4年11月14日(月)までに投函してください。

次期地域福祉計画策定に向けた意識調査
結果報告書

発行 令和5年2月

編集 八王子市 福祉部 福祉政策課

〒192-8501

東京都八王子市元本郷町三丁目 24 番 1 号

Tel 042 - 620 - 7240 / Fax 042 - 628 - 2477

URL <https://www.city.hachioji.tokyo.jp/>

意識調査の結果からみる八王子市の現状と課題

テーマ 1 . 地域福祉を推進するしくみの充実

【多様化する福祉課題に対する包括的な相談・支援体制の推進】

施策の展開

地域を基盤とする包括的な相談・支援体制の強化
福祉に携わる職員の専門性の向上

社会福祉協議会の体制強化
情報提供の充実

テーマ目標

近隣に高齢・病気などで困っている世帯があった場合に、民生委員・児童委員に相談する人の割合

現状値 (平成 28 年度)	中間目標値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 4 年度)	調査結果 (令和 4 年度)
7.1%	11.7%	14.8%	2.5%

地域でおきる生活上の課題に対して、住民相互の協力関係が必要だと思う人の割合

現状値 (平成 28 年度)	中間目標値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 4 年度)	調査結果 (令和 4 年度)
73.6%	79.1%	82.2%	71.7%

調査結果

- ・コロナ禍の中で、関係の希薄化や心身への影響など、半数以上が何らかの影響を感じており、特に 30 歳代では 7 割強を占めている。
- ・暮らしの悩みや不安の上位は、老後のこと、健康のこと、経済的なことであり、経済的なことについては、年齢が低いほど多くなっている。
- ・福祉に関する制度や言葉の認知度は全体的に前回調査を下回っている。
- ・希望する福祉の情報入手手段として、市の広報が 7 割弱を占めている。年齢が低いほど Web 媒体の割合が高くなっている。
- ・八王子まるごとサポートセンターの利用意向について、わからないが 6 割を占めており、利用したいとの回答は 3 割強。
- ・2 割が Web 回答。30 歳未満では 5 割。

課題

関係の希薄化によるひきこもりや心身の不調による社会参加の機会減少が進行しており、さらに新型コロナウイルスの影響で拍車がかかっている。今後はこれらに対する取組みが必要となる。

制度や言葉の認知度が低下していることや、自由記載欄にも情報に関する記述が比較的多かったことから、わかりやすさや情報提供媒体の整理などの取組みは必須となる。

はちまるサポートは本計画において重要な位置づけになるため、重層的支援体制整備事業に関する内容とともに記載内容を十分に協議する必要がある。

多様な課題に対応するという方向性から、相談先を民生委員・児童委員だけに限定する必要はなく、身近な相談窓口であるはちまるサポートの周知・認知度の向上も含め、支援につなげていくことが重要となる。

テーマ 3 . 福祉サービスの充実

【社会的弱者の社会的・経済的な自立と生活の向上】

施策の展開

高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉等各分野の福祉サービスの充実
 生活困窮者への支援【生活困窮者自立支援方策】
 権利擁護の推進【成年後見制度利用促進計画】
 福祉施設・事業所の評価と指導・検査
 ユニバーサルデザインに基づくまちづくりの推進

テーマ目標

生活困窮者に対する相談窓口が市役所にあることを知っている人の割合

現状値 (平成 28 年度)	中間目標値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 4 年度)	調査結果 (令和 4 年度)
54.7%	80.7%	98.1%	25.2%

「成年後見制度」という制度や言葉を知っている人の割合

現状値 (平成 28 年度)	中間目標値 (令和 2 年度)	目標値 (令和 4 年度)	調査結果 (令和 4 年度)
52.4%	63.6%	71.2%	33.4%

調査結果

- ・福祉サービスや制度に仕組みについて、6割強がわかりにくい(前回からは5ポイントほど減少)と回答している。
- ・経済的に困窮している人が7.6%(約39,000人)、移動手段が限られていて外出が難しい人が7.6%(約30,000人・60歳以上が約20,000人)、高齢である自分が高齢の家族を介護している人が4.6%(約17,000人・60歳以上が約15,000人)。
- ・生活自立支援課の相談窓口は、7割が知らなかったと回答しており、前回から30ポイント近く増加している。
- ・生活困窮者に対して重要な取組は、前回調査と同様に、生活の安定のための就労支援が7割強を占めている。

課題

福祉サービスについては、制度や仕組み等の情報へのアクセシビリティを高めていくことが重要。

生活困窮者や外出困難者等の割合は低いが、市の人口に置き換えると一定数いることがわかる。同じ比率でも年齢別にみると大きな差が出るものもあるため、各種統計データも活用しながら、現状を整理する必要がある。

新型コロナウイルス感染症等、緊急時のサービス利用についても、対象者別計画の内容を精査する必要がある。

目標 ともに前回の現状を下回る結果となった。それぞれを知っていることは大切だが、必要な時に利用できるか、繋ぐことができるかが重要であるため、わかりにくい状況にある福祉サービスや制度の仕組みを市民に伝えることを優先すべきではないか。

第4期八王子市地域福祉計画の 方向性について

令和5年(2023年)2月13日
地域福祉専門分科会
福祉部福祉政策課

1 地域福祉計画とは

(1) 社会福祉法第107条に基づく「市町村地域福祉計画」。地域福祉の推進に関する事項を示すもの。(努力義務)

(2) 同条の規定により、以下の5つを盛り込むべき事項としている。

- ① 地域における高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項
- ② 地域における福祉サービスの適切な利用の促進に関する事項
- ③ 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
- ④ 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項
- ⑤ 包括的な支援体制の整備に関する事項

1 地域福祉計画とは

(3) 次の対象者別計画(法定計画)に関する**分野横断的な施策**を示し、それらの上位計画と位置付けている。

- ① 高齢者計画・介護保険事業計画
(老人福祉法第20条の8、介護保険法第117条)
- ② 障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画
(障害者基本法第11条第3項、障害者総合支援法第88条第1項、児童福祉法第33条の20第1項)
- ③ 子ども・若者育成支援計画
(次世代育成支援対策推進法第8条、子ども・若者育成支援推進法第9条など)

(4) 現行計画(平成30年度～令和5年度)より、次の方策・計画を内包している。

- ① 生活困窮者自立支援方策
(平成26年3月27日付 厚生労働省社会・援護局長通知(社援0327発第13号))
- ② 成年後見制度利用促進計画
(成年後見制度の利用の促進に関する法律第23条)

(5) 現行計画より、計画期間を5年から**6年**としている。

※計画期間が3年である高齢者計画及び障害者計画と連動させるため。

2 背景(現行計画策定以降)

(1)国の動向

「担い手 ⇒ 受け手」の福祉から「担い手 ⇄ 受け手」の福祉へ
(地域共生社会の本質)

【社会福祉法の改正】

平成29年5月改正(平成30年4月施行)

◆ 地域福祉推進の理念を規定

- ▶ 地域が抱える多様で複合的な課題に対し、地域住民、事業者、福祉関係者、行政が一体となって解決を図る。

◆ 理念を実現するための包括的な支援体制の構築

- ▶ 地域住民の地域福祉活動への参加を促進するための環境整備。
- ▶ 住民に身近な圏域で、地域課題について関係機関が連携して総合的に対応を行う体制づくり。

◆ 地域福祉計画の充実

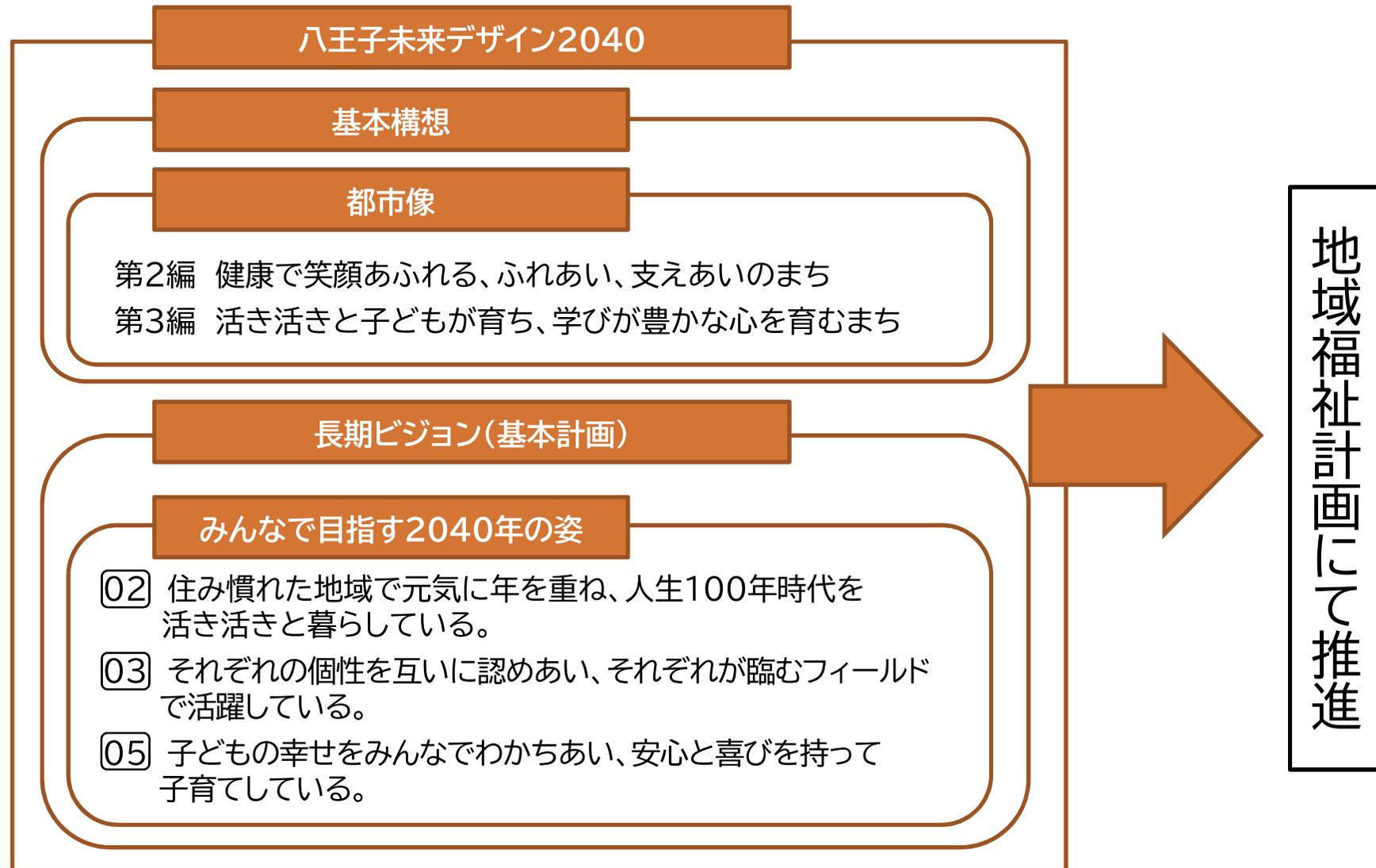
令和2年6月改正(令和3年4月施行)

◆ 重層的支援体制整備事業の創設

- ▶ 市町村による「包括的な支援体制構築」を後押し。
- ▶ 「属性を問わない相談支援」「多様な参加支援」「地域づくりに向けた支援」を一体的に実施。
- ▶ 本市は令和3年度より本格実施。

2 背景(現行計画策定以降)

(2)本市の動向



2 背景(現行計画策定以降)

(3)次期計画の策定における前提

ア 「八王子未来デザイン2040(令和5年度(2023年度)~令和12年度(2030年度)」における地域福祉分野の着実な推進
「みんなで目指す2040年の姿」で地域福祉分野に該当する「姿」を踏まえて、「八王子未来デザイン2040」の推進を図る。

イ 本市が進める「地域づくり」と連動した施策の展開
中学校区による地域づくりをはじめとした、本市の「地域づくり」の考え方を踏まえた施策展開を図る。

ウ 地域住民、事業者、福祉関係者との「共創」による地域福祉の推進
地域住民、事業者、福祉関係者、行政が互いの特性、知恵、ノウハウを共有し解決策を創造する「共創」により、地域福祉の推進を図る。

3 現行計画の振り返り

(1) 現行計画の概要

第3期八王子市地域福祉計画

【計画期間】 平成30年度(2018年度)～令和5年度(2023年度)

【基本目標】 だれもが、地域の中で、共に支えあい、安心して、
元気で生き活きと暮らすことができるまちづくり

- 【3つのテーマ】
- ① 地域福祉を推進する仕組みの充実
多様化する福祉課題に対する包括的な相談・支援体制の推進
 - ② 地域福祉活動支援・人材育成
地域で福祉課題に取り組む人材の確保
 - ③ 福祉サービスの充実
社会的弱者の社会的・経済的な自立と生活の向上

【活動指標】 計画期間内に達成をめざす「目標」と「施策」の活動指標を掲げ、その達成状況をもって計画進捗の目安とする。

3 現行計画の振り返り

(2) 現行計画の成果

※実績値は所管毎
の令和3年度実績

① 生活困窮者への支援ニーズへの対応

施策	策定時現状値	R3目標値	R3実績値
自立支援相談の新規相談件数	1,140件	1,400件	2,712件

*新規相談2,712件のうち約5割が就労支援や生活保護などの福祉サービスにつながった

② 虐待・孤立化の予防や早期発見・対応を目的としたネットワークの構築

施策	策定時現状値	R3目標値	R3実績値
見守り協定の締結数	27件	35件	41件

③ 複雑化・複合化した地域課題に対応する包括的な相談窓口の整備

施策	策定時現状値	R3目標値	R3実績値
はちまるサポートの設置・整備数	4か所	18か所	10か所

*多様なニーズをすくい取る「全世代・全対象型地域包括支援体制」へ発展

3 現行計画の振り返り

(2) 現行計画の課題

※実績値は意識調査
(令和4年11月実施)

① 地域課題を解決するための担い手の確保

[参考ア](#)

目 標	策定時現状値	R4目標値	R4実績値
地域の活動に担い手として参加したことのある人の割合	50.2%	66.9%	52.4%

② 地域の課題を地域で解決する意識の醸成

目 標	策定時現状値	R4目標値	R4実績値
地域でおきる生活上の課題に対して、住民相互の協力関係が必要だと思ふ人の割合	73.6%	82.2%	71.7%

③ 福祉に関する制度・施策の認知度の向上

[参考イ①](#) [イ②](#)

目 標	策定時現状値	R4目標値	R4実績値
「成年後見制度」という制度や言葉を知っている人の割合	52.4%	71.2%	33.4%
生活困窮者に対する相談窓口が市役所にあることを知っている人の割合	54.7%	98.1%	25.3%

3 現行計画の振り返り

(2) 現行計画の課題

④ 複雑化・複合化した地域課題への対応

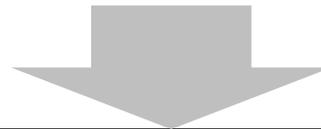
【複雑化・複合化した課題の顕在化】

[参考ウ](#)

一つの支援機関では対応できない、複雑化・複合化した地域課題(介護、生活困窮、ひきこもり、ヤングケアラーなど)を抱える世帯が顕在化してきている。

【地域の共同体機能の低下】

地域や家族など共同体としての「つながり」の弱体化により、課題を抱えたまま孤立化するケースが増えてきている。



- ◆ 本市では令和3年度より重層的支援体制整備事業にて**包括的な支援体制**の仕組みを強化。
- ◆ 今後は支援体制をさらに充実させていくとともに、地域の課題解決力を向上させ、課題の困難化・深刻化を**予防・早期発見できる仕組み**を構築していくことが求められている。

4 次期計画の方向性

(1)次期計画の基本的な考え方

ア 対象者別計画に関する分野横断的な施策を示し、施策には、**地域住民、事業者、福祉関係者、行政それぞれの役割**を示す。

地域福祉は、地域住民、事業者、福祉関係者、行政が一体となって推進していく必要があることとともに、施策の実施にあたってそれぞれが担うことを示す。

イ 分野横断的な施策は、次の3つの視点を重視する

① **複雑化・複合化**した地域課題への対応

対象者別の施策では対応できない課題に包括的に対応する体制を更に推進していく。

② 地域課題の**予防・早期発見**

地域課題が困難化・深刻化する前に対応できるような仕組みの構築を図る。

③ 施策毎の**認知・理解の促進**

必要な方に必要な地域福祉の情報を計画的・効果的に届けていく。

ウ **第4期保健医療計画と連携した計画**とする

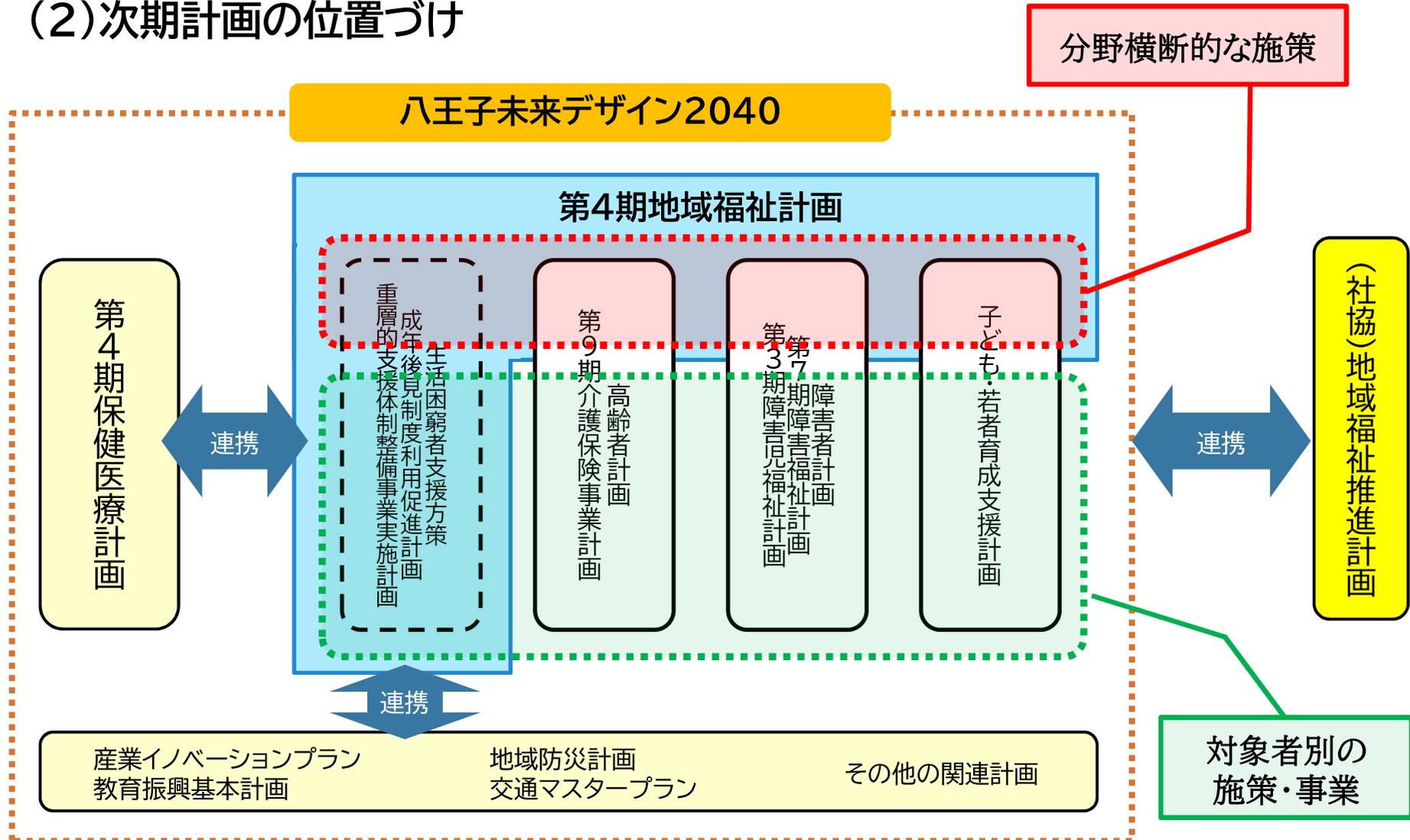
保健医療分野の施策との有機的な連携や同分野のデータ活用を意識し、施策の検討を行う。

エ **重層的支援体制整備事業実施計画を内包**する

新たに重層的支援体制整備事業実施計画を内包し、地域福祉計画と一体的に推進する。

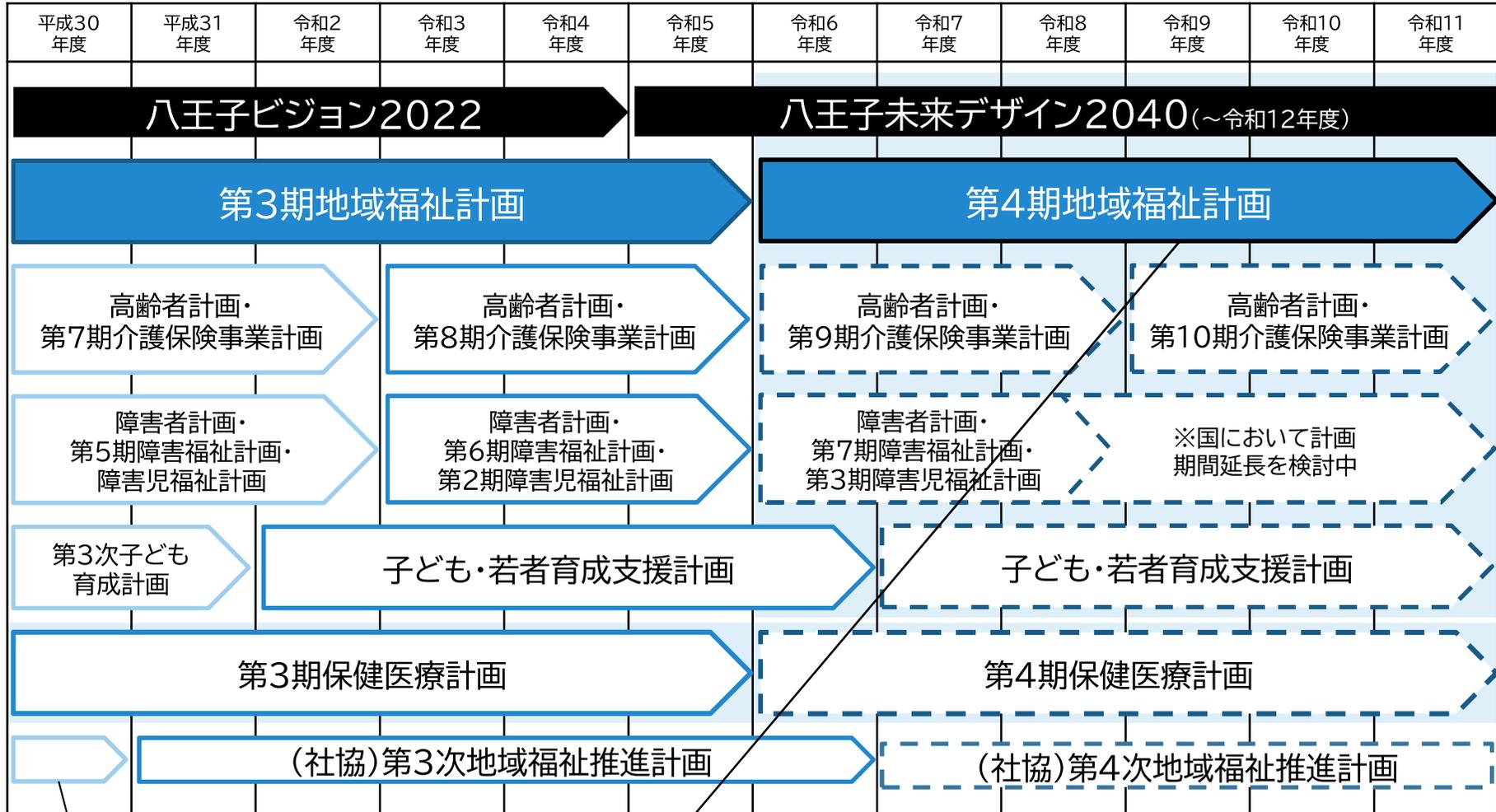
4 次期計画の方向性

(2)次期計画の位置づけ



4 次期計画の方向性

(3) 地域福祉計画及び関連計画の計画期間

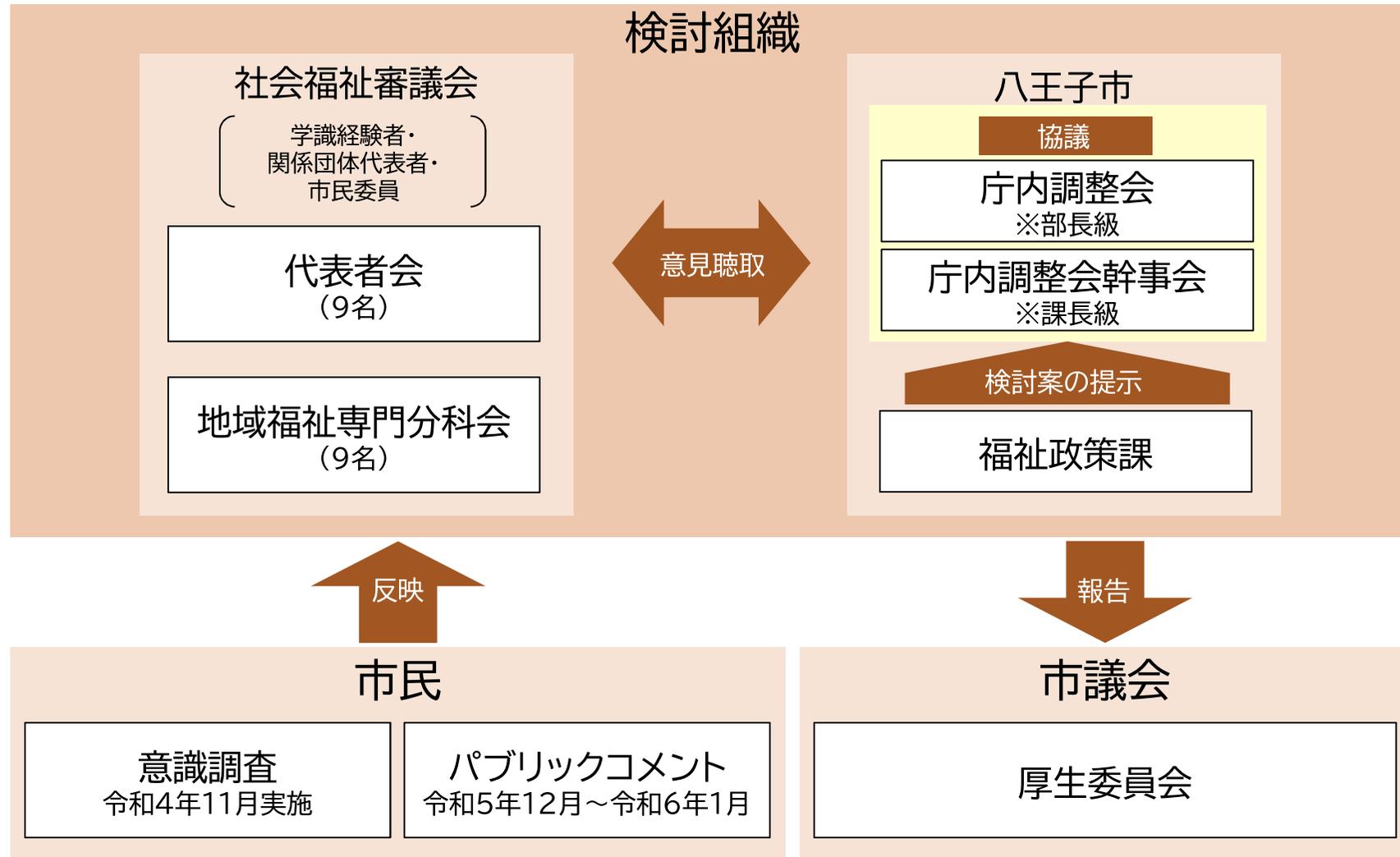


(社協)第2次
地域福祉推進計画

*計画期間・・・令和6年度(2024年度)～令和11年度(2029年度)の6年間

4 次期計画の方向性

(4) 策定体制



4 次期計画の方向性

(5)スケジュール

	令和4年度(2022年度)					令和5年度(2023年度)									
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	~	7月	~	10月	11月	12月	1月	2月	3月
策定過程	意識調査	基本方針検討	素案検討・策定										パブ コメ	最終案策定	公表
社会福祉 審議会				地域福祉専門分科会	社福審代表者会	地域福祉専門分科会		地域福祉専門分科会		地域福祉専門分科会	社福審代表者会			地域福祉専門分科会	社福審代表者会
政策会議			基本方針付議								素案付議				
議会報告											厚生委員会 (素案報告)				議員配布

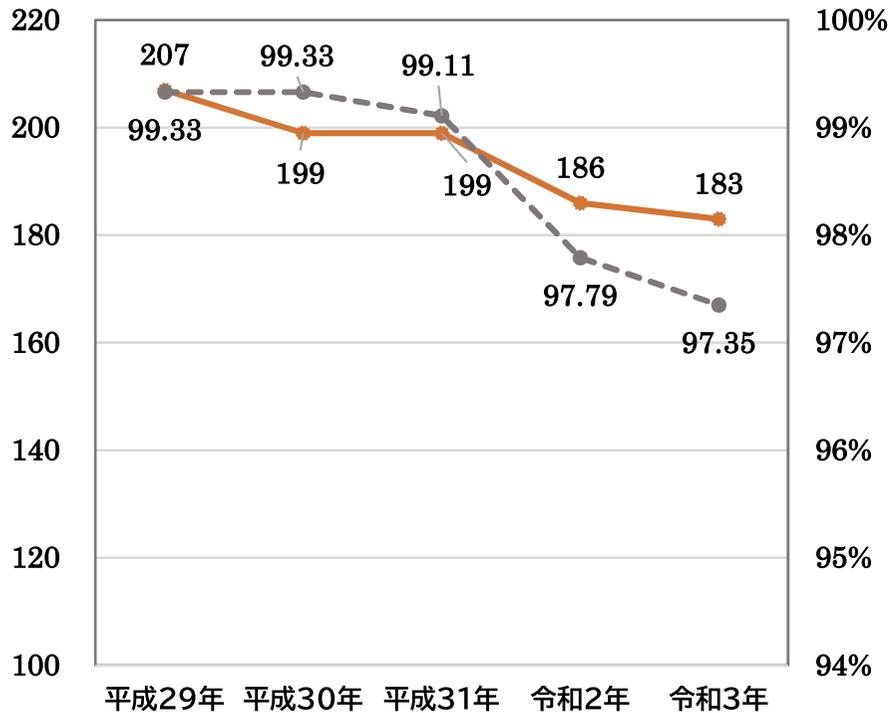
社会福祉審議会代表者会への報告、政策会議(素案付議)、議会報告、パブリックコメントは3計画(地域福祉・高齢・障害)同時に実施する

<参考:本市の現状>

ア 地域を支える担い手の状況

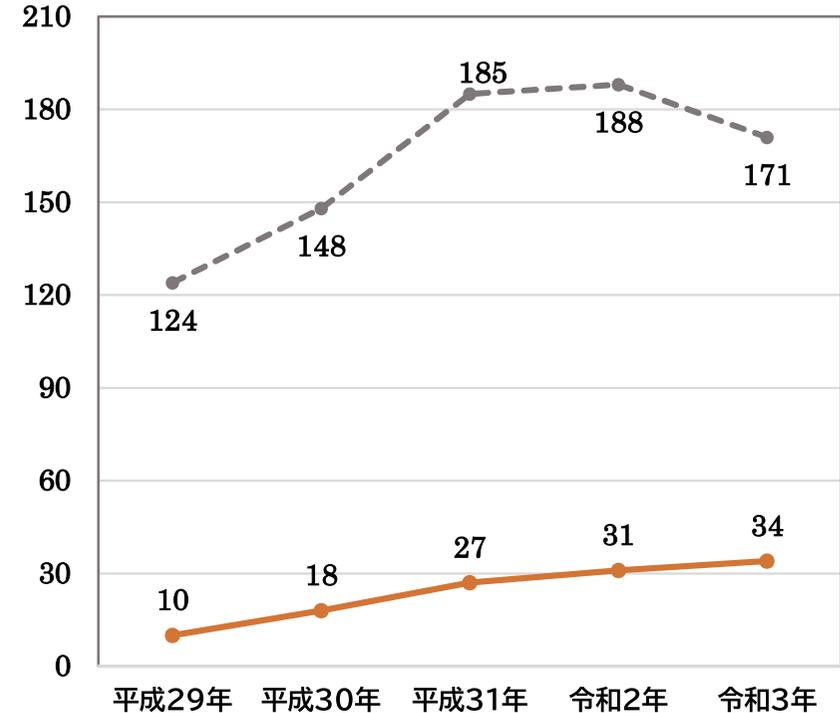
出典:令和2年度・令和4年度健康福祉の概要

【民生委員・児童委員充足率等の状況】



●— ういずサービス協力員登録数(人)
 -●- 民生委員・児童委員充足率(%)

【総合事業等の登録状況】



●— 訪問B団体数(団体)
 -●- ふれあい・いきいきサロン支援団体数(団体)

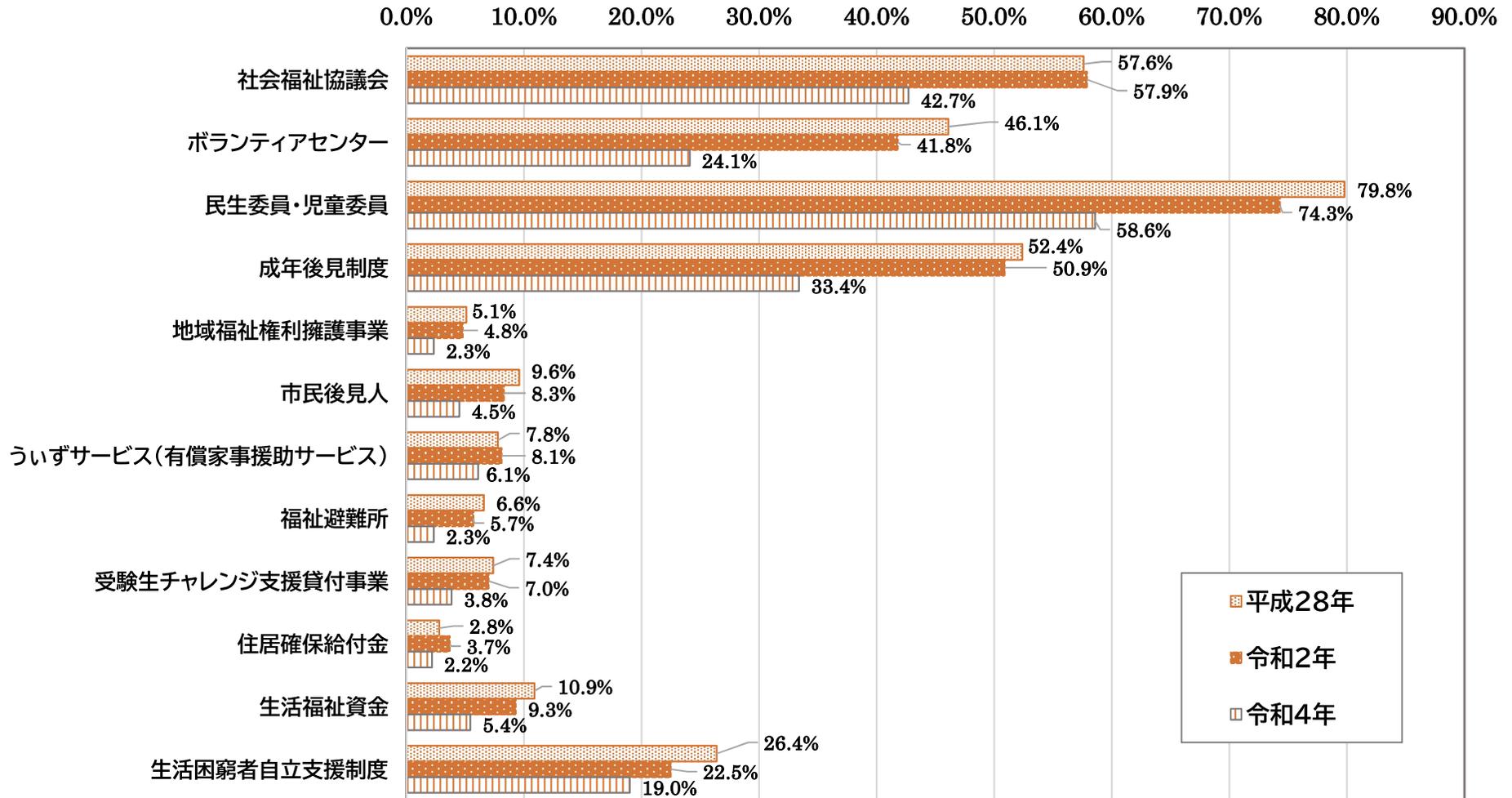
- ◆ういずサービス協力員や民生委員・児童委員などの地域福祉の「従来の担い手」は減少傾向にある。
- ◆介護保険制度における総合事業、サロン支援団体等の「新たな担い手」は増加傾向にある。

<参考:本市の現状>

イ 制度の認知状況①

出典:地域福祉計画策定のための意識調査(平成28年度・令和2年度・令和4年度)

【福祉にかかわる制度や言葉の中で知っているものの割合】



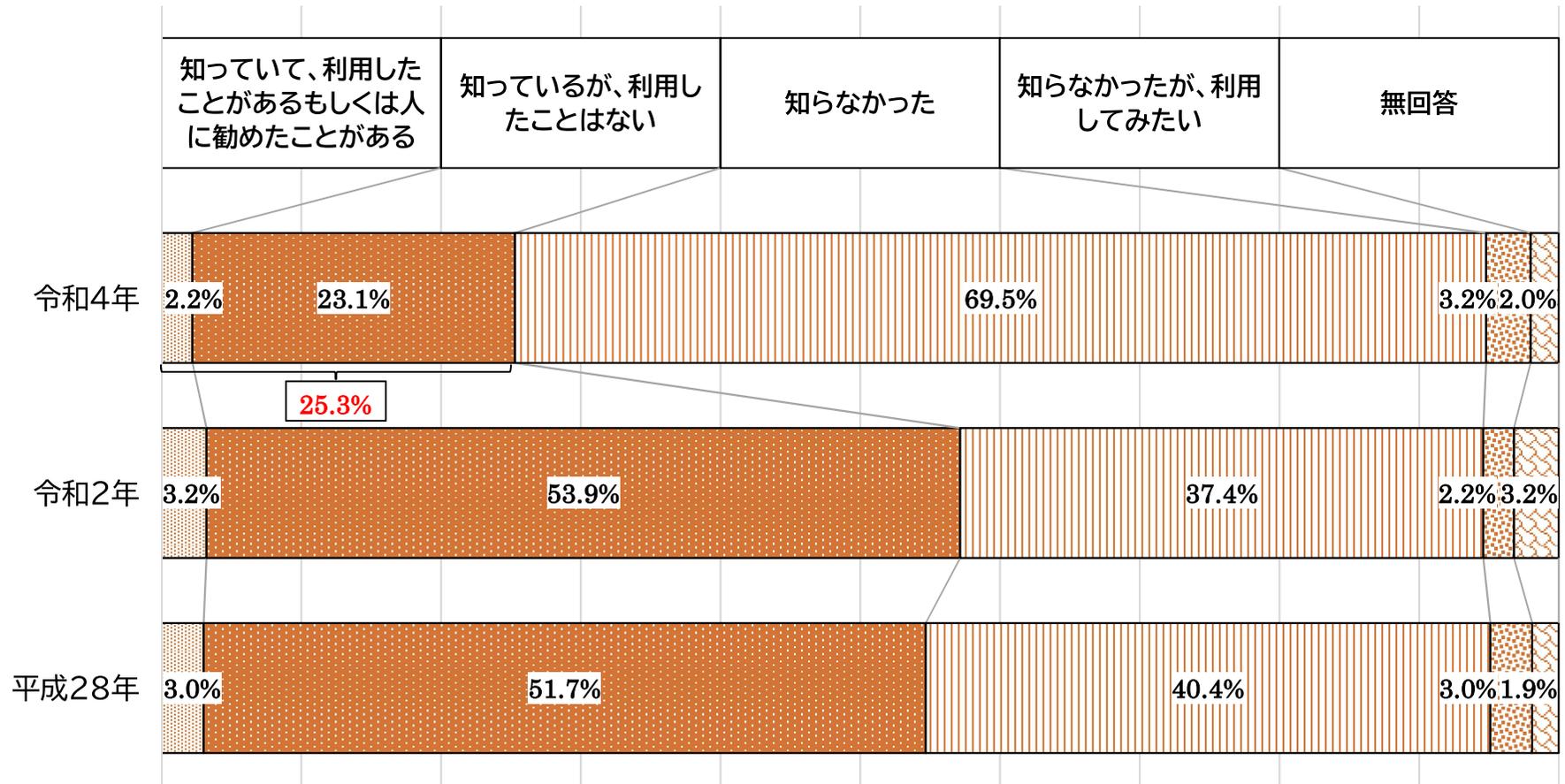
<参考:本市の現状>

イ 制度の認知状況②

出典:地域福祉計画策定のための意識調査(平成28年度・令和2年度・令和4年度)

【市役所に生活困窮に関する相談窓口が設置されていることについての認知状況】

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0%



<参考:本市の現状>

ウ 支援会議(※)を開催した世帯の課題の状況(令和3年度～)

対象世帯	課 題												
	ひきこもり	不登校	いじめ	就労支援	生活困窮	障害者	高齢者	ケア ヤング アラワー	成年後見	精神障害	D V	虐待	アル コ ール 依 存
A	○	○		○						○			
B							○		○				
C						○	○	○					
D										○			
E		○				○	○	○	○				
F		○		○									
G		○			○			○					
H			○								○	○	○

(※)支援会議:複雑化・複合化した地域生活課題の解決のため関係機関等で構成する社福法第106条の6に基づく会議

第3期計画における目標・活動指標の状況

テーマ	重点課題	施策	主な取組	目標/活動指標	目標値 実績値	策定時 (現状)	平成30年度末	平成31年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	備考
地域福祉を推進するしくみの充実	多様な相談・支援体制の推進			【目標】近隣に高齢・病气などで困っている世帯があった場合に、民生委員・児童委員に相談する人の割合(意識調査 問15)	目標値	7.1%	-	-	11.7%	-	14.8%	
					実績値		-	-	7.2%	-	2.5%	
				【目標】地域でおきる生活上の課題に対して、住民相互の協力関係が必要だと思う人の割合(意識調査 問16)	目標値	73.6%	-	-	79.1%	-	82.2%	
					実績値		-	-	72.0%	-	71.7%	
		地域を基盤とする包括的な相談・支援体制の強化	包括的な相談・支援体制の構築 ・"包括的な地域福祉ネットワーク会議"の設置 ・社会福祉審議会の運営	"包括的な地域福祉ネットワーク会議"の開催回数	目標値	新規	-	-	2回	2回	2回	
					実績値		0回	1回	2回	2回		
		社会福祉協議会の体制強化	社会福祉協議会への活動支援 ・社会福祉協議会職員の専門性向上への支援 ・はちまるサポート(旧:地域福祉推進拠点)の整備促進	はちまるサポート(旧:地域福祉推進拠点)の整備数	目標値	4か所	-	-	15か所	18か所	21か所	
					実績値		6か所	8か所	9か所	10か所		
		福祉に携わる職員の専門性の向上	"総合的な福祉研修"の実施 ・社会福祉実習指導者の育成	"総合的な福祉研修"の延参加者数	目標値	新規	-	-	延50人	延75人	延100人	
					実績値		延29人	延38人	延28人	延50人		
情報提供の充実	地域福祉・高齢者福祉・障害者福祉等の情報提供の充実 ・音訳・点訳資料等の提供	Facebook等SNSの活用 リアクションの数	目標値	新規	-	-	750件	875件	1,000件	リアクション(いいね)は廃止となったため、R3よりフォロー数を計上		
			実績値		1,280件	1,306件	1,313件	1,506件				
地域福祉活動支援・人材育成	地域で福祉課題に取り組む人材の確保			【目標】地域の活動に担い手として参加したことがある人の割合(意識調査 問18)	目標値	50.2%	-	-	60.2%	-	66.9%	
					実績値		-	-	46.2%	-	52.4%	
				【目標】福祉に関する地域活動に参加している人の割合(意識調査 問18-2)	目標値	12.3%	-	-	13.9%	-	15.1%	
					実績値		-	-	13.2%	-	11.9%	
		民生委員・児童委員の活動支援	民生委員・児童委員の活動支援 ・民生委員・児童委員の専門性向上にむけた支援	民生委員・児童委員とその活動についての情報を、広報紙・ホームページに掲載した回数	目標値	3回	-	-	4回	4回	5回	
					実績値		3回	4回	2回	1回		
		地域で支えあう意識づくり	学校等への車いす等体験学習(社会福祉協議会) ・夏休み体験ボランティア活動の実施(社会福祉協議会) ・はちおうじ出前講座の実施	学校等における車いす等体験学習の実施回数(社会福祉協議会)	目標値	117件 (延13,714人)	-	-	130件 (延15,000人)	135件 (延15,750人)	140件 (延16,500人)	
					実績値		156件 (延10,230人)	162件 (延12,658人)	46件 (延2,548人)	49件 (延2,941人)		
		地域で取り組むきっかけづくり	住民が地域活動に参加するための支援 ・はちおうじ志民塾の開催 ・お父さんお帰りなさいパーティーの開催支援	はちまるサポート(旧:地域福祉推進拠点)における地域住民主体の事業実施回数(社会福祉協議会)	目標値	29回 (延395人)	-	-	35回 (延450人)	38回 (延475人)	40回 (延500人)	
					実績値		52回 (延846人)	44回 (延771人)	0回 (延0人)	13回 (延127人)		
地域における福祉活動の支援	ういずサービス(有償家事援助サービス)の推進(社会福祉協議会) ・高齢者ボランティアポイント制度の推進 ・ファミリー・サポート・センターの活用 ・日本赤十字社(日赤)活動への支援 ・町会・自治会による福祉活動への支援	ういずサービスの協力会員数(社会福祉協議会)	目標値	207人	-	-	215人	223人	230人			
			実績値		199人	199人	186人	183人				
"市民力・地域力"の向あめざす担い手の発掘と連携	ボランティアセンター(社会福祉協議会)の運営支援 ・高齢者活動コーディネートセンターの運営 ・子育て応援団Beeネットの活用 ・市民活動支援センターの運営 ・学生によるボランティア活動の推進	小地域福祉活動を行う団体数(社会福祉協議会)	目標値	18団体	-	-	28団体	33団体	37団体	令和2年度末に社会福祉協議会の生活支援体制整備事業の受託が終了したことに伴い本事業は終了		
			実績値		27団体	32団体	40団体	-	-			
虐待・孤立化の予防や早期発見・早期対応	見守り協定の活用 ・地域交流サロン活動への支援 ・シニアクラブへの支援	見守り協定の締結数	目標値	新規5件 (計27件)	-	-	新規5件 (計32件)	新規5件 (計35件)	新規5件 (計37件)			
			実績値		新規6件 (計34件)	新規2件 (計36件)	新規2件 (計38件)	新規3件 (計41件)				
防災・防犯活動の推進	地域における災害時支援体制の充実 ・在宅人工呼吸器使用者災害時個別支援計画の作成 ・災害ボランティアリーダーの養成(社会福祉協議会) ・自主防災組織への支援 ・地域防犯リーダー養成講習会の実施	地域支援組織についての説明会の実施回数	目標値	1回	-	-	3回	4回	5回			
			実績値		3回	1回	2回	4回				

第3期計画における目標・活動指標の状況

テーマ	重点課題	施策	主な取組	目標/活動指標	目標値 実績値	策定時 (現状)	平成30年度末	平成31年度末	令和2年度末	令和3年度末	令和4年度末	備考	
福祉サービスの充実	社会的弱者の社会的・経済的な自立と生活の向上		【目標】生活困窮者に対する相談窓口が市役所にあることを知っている人の割合(意識調査 問30)	目標値	54.7%		-	-	80.7%	-	98.1%		
				実績値			-	-	57.1%	-	25.3%		
				【目標】'成年後見制度'という制度や言葉を知っている人の割合(意識調査 問24)	目標値	52.4%		-	-	63.6%	-	71.2%	
					実績値			-	-	50.9%	-	33.4%	
		高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉等各分野の福祉サービスの充実	高齢者や介護関係者への支援(高齢者計画・介護保険事業計画) 障害者と家庭への支援(障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画) 子どもと家庭への支援(子ども育成計画) 生活にお困りの方への支援(地域福祉計画)	なし	-	-	-	-	-	-	-	-	
		生活困窮者への支援	生活福祉資金の貸付(社会福祉協議会) 生活保護制度の適正実施 生活保護受給者等就労自立促進事業	自立支援相談の新規相談件数	目標値	1,140件		-	-	1,300件	1,400件	1,500件	
					実績値			1,525件	1,722件	2,235件	2,712件		
				就労決定者数(生活保護受給者含む)	目標値	468人		-	-	580人	630人	680人	
					実績値			435人	372人	290人	319人		
		無料学習教室の参加者	若者自立就労支援 若者無業者就労促進事業(八王子若者サポートステーション(サポステ)) 社会福祉法人との連携 はちまるサポート(旧:地域福祉推進拠点)との連携 NPO法人など地域で活動している団体との連携	目標値	110人		-	-	130人	145人	160人		
				実績値			162人	276人	278人	273人			
		権利擁護の推進	成年後見・あんしんサポートセンター八王子の体制強化 成年後見制度の利用支援	市民後見人候補者の登録者数	目標値	33人		-	-	63人	78人	93人	
実績値	36人				39人			35人	40人				
成年後見制度に関する講座・学習会の開催回数	目標値			9回 (延234人)		-	-	11回 (延250人)	12回 (延260人)	13回 (延270人)			
実績値	9回 (延250人)	10回 (延194人)	5回 (延38人)			8回 (延78人)							
福祉施設・事業者の評価と指導・検査	社会福祉法人認可事務及び指導・検査事務の実施 東京都福祉サービス第三者評価受審費補助 施設従事者向け虐待防止研修の実施	なし	-	-	-	-	-	-	-	-			
ユニバーサルデザインに基づくまちづくりの推進	思いやり駐車スペース設置への補助 赤ちゃん・ふらっと設置促進 交通空白地域交通事業への運営費補助 東京都福祉のまちづくり条例に基づく審査指導の実施	思いやり駐車スペースの民間設置数	目標値	0台		-	-	3台	5台	6台			
実績値	0台	0台	0台			0台							

令和4年度意識調査における複合課題の状況について

・本表は、意識調査の問9「あなたの生活において、次の中であてはまるものはありますか(あてはまるものすべてに○)」におけるクロス集計の結果を示したものです。

・本設問において複数の選択肢を選んだものの割合や人数、八王子市の人口に置き換えた場合の参考値を示しています。
(例:行 (仕事に就いておらず、生活の見通しが立たない)を選択したもののうち、列(B)(6か月以上、買い物以外で外に出かけていない)を選択した場合、割合は13.0%、人数は6人、八王子市の人口に置き換えた場合の参考値は2,056人となります。)

・網掛け部分は各行における人口(参考値)の最高値を表しています。

[本表からわかること]

- 1.行 列(A)から、市内におけるひきこもり状態にあると考えられる方が推計2,056人であることがわかります。ひきこもりの定義については、東京都が示したものに準じています。
- 2.行 列(D)から、ダブルケアと老々介護により身体的・精神的負担が大きいと思われる方が推計1,634人であることがわかります。
- 3.行 列(G)から、経済的に困窮状態にあつて、移動手段が限られており、外出が難しい方が推計4,363人であることがわかります。

行	列	(A)	(B)	(C)
			66.6%	33.3%
			10人	5人
			1,000人	500人
		45.4%		54.6%
		10人		12人
		1,000人		1,200人
		29.4%	70.6%	
		5人	12人	
		500人	1,200人	

29.4%	...行における列を選択した割合
5人	...行における列を選択した人数
500人	...市の人口に置き換えた場合の参考値

	合計	問9 あなたの生活においてあてはまるもの(あてはまるものすべてに○)									(J)あてはまるものはない	(K)無回答
		(A)仕事に就いておらず、生活の見通しが立たない	(B)6か月以上、買い物以外で外に出かけていない	(C)家族の介護と育児を両方担っている	(D)高齢である自分が、高齢の家族を介護している	(E)仕事に就かない子どもがいる	(F)経済的に困窮している	(G)移動手段が限られていて、外出が難しい	(H)介護や育児で勉学に集中できない	(I)その他		
全体	100.0% 1,205人 486,477人	3.7% 46人 17,870人	3.0% 43人 14,584人	1.0% 12人 4,964人	3.5% 56人 16,957人	3.1% 45人 15,032人	8.0% 92人 39,024人	6.3% 91人 30,638人	1.1% 9人 5,567人	4.6% 55人 22,317人	71.8% 838人 349,425人	3.8% 47人 18,359人
仕事に就いておらず、生活の見通しが立たない	100.0% 46人 17,870人		13.0% 6人 2,056人	2.2% 1人 322人	13.0% 6人 1,909人	2.2% 1人 462人	41.3% 19人 7,819人	26.1% 12人 4,157人	2.2% 1人 544人	8.7% 4人 1,165人	2.2% 1人 283人	0.0% 0人 0人
6か月以上、買い物以外で外に出かけていない	100.0% 43人 14,584人	14.0% 6人 2,056人		7.0% 3人 1,208人	16.3% 7人 2,003人	4.7% 2人 739人	11.6% 5人 1,992人	34.9% 15人 4,646人	2.3% 1人 462人	2.3% 1人 462人	2.3% 1人 428人	0.0% 0人 0人
家族の介護と育児を両方担っている	100.0% 12人 4,964人	8.3% 1人 322人	25.0% 3人 1,208人		41.7% 5人 1,634人	8.3% 1人 462人	25.0% 3人 1,289人	8.3% 1人 283人	16.7% 2人 890人	0.0% 0人 0人	0.0% 0人 0人	0.0% 0人 0人
高齢である自分が、高齢の家族を介護している	100.0% 56人 16,957人	10.7% 6人 1,909人	12.5% 7人 2,003人	8.9% 5人 1,634人		3.6% 2人 599人	5.4% 3人 882人	23.2% 13人 3,671人	0.0% 0人 0人	5.4% 3人 876人	1.8% 1人 277人	0.0% 0人 0人
仕事に就かない子どもがいる	100.0% 45人 15,032人	2.2% 1人 462人	4.4% 2人 739人	2.2% 1人 462人	4.4% 2人 599人		22.2% 10人 3,428人	8.9% 4人 1,061人	0.0% 0人 0人	4.4% 2人 784人	0.0% 0人 0人	0.0% 0人 0人
経済的に困窮している	100.0% 92人 39,024人	20.7% 19人 7,819人	5.4% 5人 1,992人	3.3% 3人 1,289人	3.3% 3人 882人	10.9% 10人 3,428人		13.0% 12人 4,363人	2.2% 2人 1,455人	9.8% 9人 4,016人	0.0% 0人 0人	0.0% 0人 0人
移動手段が限られていて、外出が難しい	100.0% 91人 30,638人	13.2% 12人 4,157人	16.5% 15人 4,646人	1.1% 1人 283人	14.3% 13人 3,671人	4.4% 4人 1,061人	13.2% 12人 4,363人		2.2% 2人 1,455人	11.0% 10人 4,544人	2.2% 2人 746人	0.0% 0人 0人
介護や育児で勉学に集中できない	100.0% 9人 5,567人	11.1% 1人 544人	11.1% 1人 462人	22.2% 2人 890人	0.0% 0人 0人	0.0% 0人 0人	22.2% 2人 1,455人	22.2% 2人 1,455人		0.0% 0人 0人	0.0% 0人 0人	0.0% 0人 0人
その他	100.0% 55人 22,317人	7.3% 4人 1,165人	1.8% 1人 462人	0.0% 0人 0人	5.5% 3人 876人	3.6% 2人 784人	16.4% 9人 4,016人	18.2% 10人 4,544人	0.0% 0人 0人		1.8% 1人 428人	0.0% 0人 0人
あてはまるものはない	100.0% 838人 349,425人	0.1% 1人 283人	0.1% 1人 428人	0.0% 0人 0人	0.1% 1人 277人	0.0% 0人 0人	0.0% 0人 0人	0.2% 2人 746人	0.0% 0人 0人	0.1% 1人 428人		0.0% 0人 0人

資料:八王子市町丁別年齢別人口(令和4年9月末日現在町丁別年齢別人口) <https://www.city.hachioji.tokyo.jp/hachioji/jinko/005/p030706.html>

八王子市の人口(調査対象者ではない18歳未満は除く)に置き換えた場合の数値を算出しています。参考値としてご覧ください。

第 4 期地域福祉計画にかかる基本理念について

第 4 期地域福祉計画の方向性については、資料 2-1 のとおり策定を進めていくこととしていますが、一方で基本理念（基本目標）の設定については、以下の 3 つの案があると考えております。委員の皆様におかれましては、この 3 つの案や、その他の考え方について、ご意見をいただきますようお願いいたします。

案 第 3 期計画の基本目標を継承する

案 本市の基本構想・基本計画における都市像や「姿」から、新たな基本理念（基本目標）を策定する

案 本市の基本構想・基本計画における都市像や「姿」を第 4 期計画の基本理念（基本目標）として位置づけ、独自に基本理念（基本目標）を策定しない

参考 1

本市では、現行の基本構想・基本計画である「八王子ビジョン 2022」から継承した基本構想と、令和 5 年度（2023 年度）から令和 12 年度（2030 年度）の期間における基本計画である長期ビジョンからなる新たな基本構想・基本計画「八王子未来デザイン 2040」が令和 5 年度（2023 年度）から開始します。（裏面参照）

第 4 期地域福祉計画では、この基本構想で定める 6 つの都市像（私たちが目指すまち）のうち、

第 2 編「健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち」

第 3 編「生き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち」

と、長期ビジョンで定める 11 の「みんなで目指す 2040 年の姿」のうち、

「02 住み慣れた地域で元気に年を重ね、人生 100 年時代を生き活きと暮らしている。」

「03 それぞれの個性を互いに認めあい、それぞれが臨むフィールドで活躍している。」

「05 子どもの幸せをみんなでわかちあい、安心と喜びを持って子育てしている。」

の推進を図るものとしています。

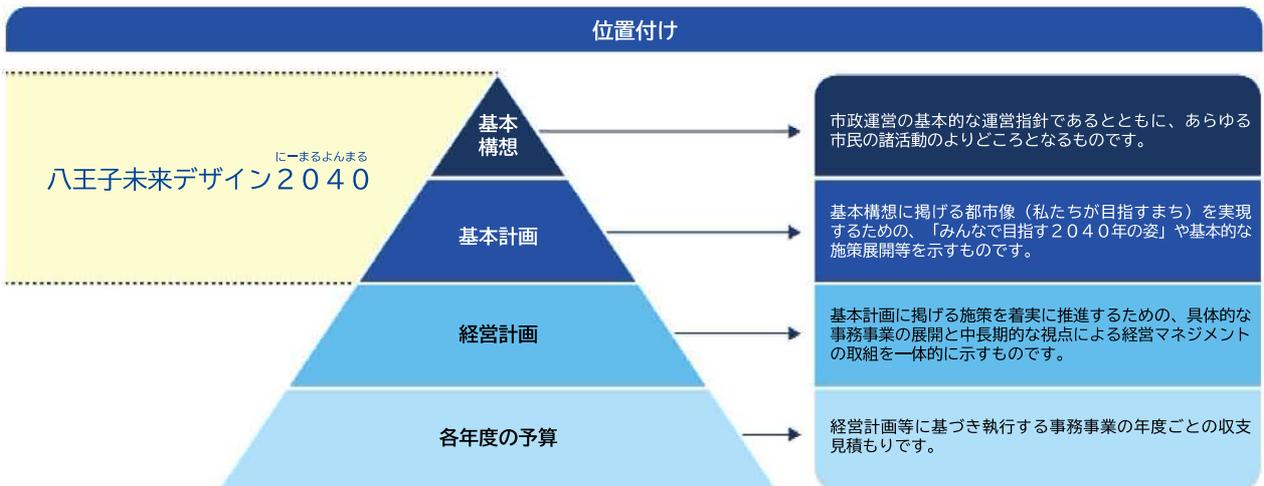
参考 2

第 3 期八王子市地域福祉計画における基本目標

「だれもが、地域の中で、共に支えあい、安心して、元気で生き活きと暮らすことができるまちづくり」

この基本目標は、平成 20 年度（2008 年度）に策定された八王子市地域保健福祉計画（第 1 期計画）の際に、「住み慣れた地域で個人が尊重され、生き活きと暮らせるように、共に助けあえる地域社会づくりを進める」という考え方を基に設定されたもので、第 2 期、第 3 期計画までこの基本目標を継承しています。また、平成 25 年度（2013 年度）に策定された都市像（参考 1 参照）の第 2 編・第 3 編に沿うものとなっています。

八王子未来デザイン2040の概要



本計画は、本市の最上位計画であり、「まち・ひと・しごと創生法」（平成26年法律第136号）第10条第1項にいう「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」に位置付けます。また、本計画と整合・調和をはかったうえで、「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」（平成25年法律第95号）第13条にいう「市町村の区域における国土強靱化に関する施策の推進に関する基本的な計画（国土強靱化地域計画）」を策定しています。詳細は別冊（附属資料）58ページに記載しています。

基本計画の計画期間

2040年を展望した「基本計画」の計画期間は、令和5年度（2023年度）から令和12年度（2030年度）までの8か年です。

SDGs*との関係性

本市のまちづくりの基本理念「人とひと、人と自然が響き合い、みんなで幸せを紡ぐまち八王子」に基づき掲げる6つの都市像は、SDGsの理念と方向性が一致しています。本市は、基本計画を推進することで、引き続きSDGsの達成に貢献していきます。各施策とSDGsの各ゴールとの関係性は、各論の各施策ページで示しています。詳細は、別冊（附属資料）59～61ページに記載しています。

計画の全体像



2月27日
開設!!

はちまるサポート館

館事務所に開設!



「どこに相談したらいいのかわからない…」
そんな生活や地域の「お困りごと」はありませんか？
そのご相談、「はちまるサポート館」がお聞きします!

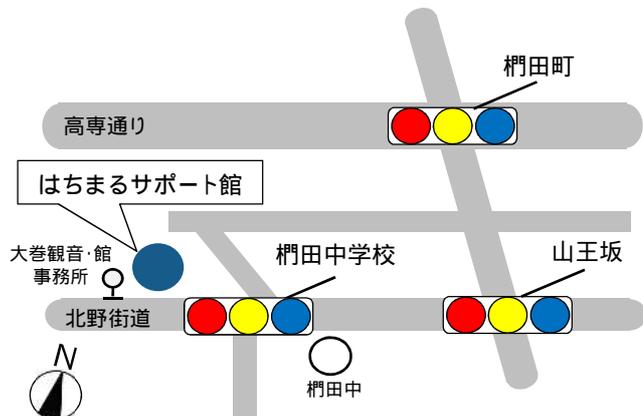
住所: 八王子市館町156番地 館事務所内

連絡先: (TEL) 673-5540 (FAX) 673-5541

開所日: 月～土曜日 9時～17時 (休日: 日曜日、祝日、年末年始 12/29～1/3)



《館事務所》



「はちまるサポート」ってなに？



《はちまるサポート(市内12カ所)》

令和5年(2023年)2月時点

「はちまるサポート」は、八王子市が八王子市社会福祉協議会と連携して運営する地域の相談窓口です。

地域福祉の専門職が、住民の皆様のどこに相談すればよいかかわからない「困りごと」をお聞きし、他の支援機関や地域の方々と力を合わせて、問題解決に向け取り組みます。

はちまるサポートの正式名称は、「八王子まるごとサポートセンター」です。

【お問い合わせ】八王子市福祉部 福祉政策課
(TEL)042-620-7241 (FAX)042-628-2477